

五目牛南組遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書
（縄文時代編）

1992

建設省
群馬県教育委員会
群馬県埋蔵文化財調査事業団

縄文時代編 正誤表

頁	位置	誤	正
66	右下から9行目	認められ <u>剥片</u> 石器を	認められ <u>ない剥片</u> 石器を
88	右最後の行	本遺跡該期出土土器の 折り返し口縁を持	本遺跡該期出土土器は 折り返し口縁を <u>持ち</u> 。
90	左下から5行目	羽状効果を持つ <u>これら</u>	羽状効果を持つ <u>これら</u>
PL19		28図68	28図69
		28図69	28図70
		28図70	28図68

資料	財群馬県埋蔵文化財	01-330
	調査事業団保管	
No. ⁹⁸⁻ 4457	平成 10年 5月 13日	1(7)

五目牛南組遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書
（縄文時代編）

1992

建設省
群馬県教育委員会
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

例言・凡例

1. 本編は、一般国道17号（上武道路）改築工事に伴い事前調査した、事業名称「J K19・20コウリョウノカ五百牛南組遺跡」の発掘調査報告書のうち、旧石器・縄文時代の遺構・遺物を扱ったものである。
2. 遺跡所在地 群馬県佐波郡赤堀町大字五日牛字甲中通
3. 事業主体 建設省関東地方建設局高崎工事事務所
4. 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 昭和59年8月1日～昭和60年7月31日
6. 調査組織 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
〔昭和59年度〕
事務担当 白石保三郎・梅沢重昭・大沢秋良・松本浩一・秋池 武・定方隆史・国定 均・笠原秀樹・山本朋子・吉田有光・柳岡良宏
調査担当 小島敦子・坂井 隆・新倉明彦
〔昭和60年度〕
事務担当 白石保三郎・井上唯雄・大沢秋良・上原啓己・桜場一寿・定方隆史・国定 均・笠原秀樹・須田朋子・吉田有光・柳岡良宏
調査担当 桜場一寿・坂井 隆・山口逸弘
7. 整理主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
8. 整理期間 平成3年4月1日～平成4年3月31日
9. 整理組織 事務担当 邊見長雄・松本浩一・佐藤 勉・神保侑史・能登 健・岩丸大作・国定 均・須田朋子・吉田有光・柳岡良宏・船津 茂・松下 登・並木綾子・野島のお江・今井もと子・角田みづほ・松井美智代・塩浦ひろみ
整理担当 山口逸弘
青木静江・神谷みや子・鈴木紀子・関 正江・南雲富子・松岡陽子
遺物写真 佐藤元彦
保存処理 関 邦一・渡邊静治・小村浩一
10. 本編の編集執筆は発掘調査所見を加味して山口逸弘が行い、文責は山口にある。
11. 石材の鑑定は飯島静男氏（群馬地質研究会所属）に依頼した。
12. 本編使用の遺構図面の一部のトレースは株式会社測研に委託した。
13. 本編の作成にあたっては、関係各方面の協力を得た。また、発掘調査に際して赤堀町教育委員会、及び地元関係者の多大なるご支援をいただいた。ここに感謝の意をあらわす次第である。
14. 挿図中に使用した方位は真北である。また、遺構番号は調査時の番号をそのまま使用した。
15. 遺構実測図は下記の縮尺で掲載した。それぞれ図中のスケールを参照されたい。
住居……………1/60 住居の跡……………1/30
埋設土器……………1/20 竪穴状遺構……………1/60
陥穴……………1/60 土坑……………1/40

16. 遺物実測図は下記の縮尺率を基本に図示した。それぞれ図中に付記したスケールを参照されたい。

旧石器……………1/1・1/3
縄文時代の土器……………1/2・1/3・1/4
縄文時代の石器……………1/1・1/2・1/3・1/4・1/6

17. 本編で使用した地図は以下の通りである。

国土地理院発行 1/50,000地形図「前橋」「高崎」(平成2年3月)
国土地理院発行 1/25,000地形図「大胡」「伊勢崎」(平成元年8・11月)

18. 遺物写真図版は実測図の掲載順に整理し、実測図と対照できるように図版右下に挿入番号を示した。

19. 石器実測図中の矢印は使用痕が確認できる範囲をあらわしている。

20. 土器実測図中の網がけの部分は繊維土器をあらわしている。

21. 土器の色調の断定は、農林省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」昭和45年を使用した。

22. 石器の計測に際し、長さ・幅は小数点第2位を四捨五人しcm単位で、重量は電磁式はかり(EY-2200A)を使用し、小数点第2位までg単位で表示した。

23. 石器計測値表の「器種」の略号は次のことを示す。

打斧：打製石斧	使剥：使用痕を持つ剥片
磨斧：磨製石斧	三角錐：三角錐形石器
スクレ：スクレイパー	スタンプ：スタンプ形石器
加刺：加工痕を持つ剥片	条研磨：条痕状研磨器

24. 石器計測値表の「石材」の欄の略号は次のことを示す。

黒頁：黒色頁岩	粗安：粗粒安山岩
黒安：黒色安山岩	角安：角閃石安山岩
灰安：灰色安山岩	変安：変質安山岩
細安：細粒安山岩	石閃：石英閃緑岩
変玄：変玄武岩	溶凝：溶結凝灰岩

ホルン：ホルンフェルス

目 次

例言・凡例

I 遺跡の立地と周辺の遺跡	1
1. 遺跡の立地	1
2. 調査区域内の地形	1
3. 基本土層	1
4. 周辺の遺跡	2
II 検出された遺構と遺物	8
1. 旧石器時代の出土遺物	8
(1) 概 要	8
(2) 遺 物	8
2. 縄文時代の遺構と遺物	9
(1) 遺構の概要と土器の分類	9
(2) 住居跡	13
(3) 小型竪穴状遺構	37
(4) 埋設土器	37
(5) 土 坑	39
(6) グリッド出土遺物	57
III ま と め	88

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置と基本土層図	3	第35図	土坑及び出土遺物	45
第2図	周辺の遺跡	4	第36図	土坑及び出土遺物	47
第3図	旧石器時代の出土遺物	8	第37図	土坑及び出土遺物	48
第4図	I区東半遺構配置図	10	第38図	土坑及び出土遺物	49
第5図	I区西半遺構配置図	11	第39図	土坑及び出土遺物	50
第6図	II区遺構配置図	12	第40図	土坑及び出土遺物	51
第7図	1号住居跡	14	第41図	土坑出土遺物(291号)	52
第8図	1号住居跡遺物分布	15	第42図	土坑及び出土遺物	53
第9図	1号住居跡出土土器	16	第43図	土坑及び出土遺物	54
第10図	1号住居跡出土石器	17	第44図	土坑及び出土遺物	55
第11図	1号住居跡出土石器	18	第45図	土坑及び出土遺物	56
第12図	1号住居跡出土石器	19	第46図	グリッド出土土器	58
第13図	2号住居跡	20	第47図	グリッド出土土器	59
第14図	2号住居跡遺物分布	21	第48図	グリッド出土土器	60
第15図	2号住居跡出土石器	22	第49図	グリッド出土土器	61
第16図	2号住居跡出土石器	23	第50図	グリッド出土土器	62
第17図	3号住居跡	24	第51図	グリッド出土土器	64
第18図	3号住居跡遺物分布	25	第52図	グリッド出土土器	65
第19図	3号住居跡出土土器	26	第53図	グリッド出土土器	67
第20図	3号住居跡出土石器	27	第54図	グリッド出土石器	68
第21図	3号住居跡出土石器	28	第55図	グリッド出土石器	69
第22図	4号住居跡	30	第56図	グリッド出土石器	70
第23図	4号住居跡	31	第57図	グリッド出土石器	71
第24図	4号住居跡出土土器	32	第58図	グリッド出土石器	72
第25図	4号住居跡出土土器	33	第59図	グリッド出土石器	73
第26図	4号住居跡出土土器	34	第60図	グリッド出土石器	74
第27図	4号住居跡出土石器	35	第61図	グリッド出土石器	75
第28図	4号住居跡出土石器	36	第62図	グリッド出土石器	76
第29図	小型竪穴状遺構	37	第63図	グリッド出土石器	77
第30図	埋設土器(2号・3号)	38	第64図	グリッド出土土器	78
第31図	土坑(陥穴)	40	第65図	石器の器種と石材構成	86
第32図	土坑(陥穴)	41	第66図	石器の器種構成・住居別石器表	87
第33図	土坑及び出土遺物	43			
第34図	土坑及び出土遺物	44			
			付 図	五目牛南組遺跡遺構配置図	

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	5	第3表	縄文石器観察表	83
第2表	縄文土器観察表	80			

図 版 目 次

- PL 1-1. 1号住居跡全景
2. 1号住居跡遺物出土状態
3. 1号住居跡炉跡
4. 1号住居跡遺物出土状態
5. 1号住居跡炉跡
- PL 2-1. 1号住居跡遺物出土状態
2. 1号住居跡遺物出土状態
3. 2号住居跡全景
4. 2号住居跡
5. 2号住居跡
- PL 3-1. 3号住居跡全景
2. 3号住居跡遺物出土状態
3. 3号住居跡遺物出土状態
4. 3号住居跡遺物出土状態
- PL 4-1. 4号住居跡全景
2. 4号住居跡遺物出土状態
- PL 5-1. 4号住居跡遺物出土状態
2. 4号住居跡炉跡
3. 4号住居跡遺物出土状態
4. 4号住居跡遺物出土状態
5. 4号住居跡遺物出土状態
6. 4号住居跡遺物出土状態
7. 4号住居跡遺物出土状態
8. 4号住居跡遺物出土状態
- PL 6-1. 小型竪穴状遺構
2. 小型竪穴状遺構遺物出土状態
3. 2号埋設土器
4. 3号埋設土器
5. 140号土坑
6. 195号土坑
7. 202号土坑
8. 203号土坑
- PL 7-1. 211号土坑
2. 212号土坑
3. 213号土坑
4. 214号土坑
5. 215号土坑
6. 216号土坑
7. 217号土坑
8. 218号土坑
- PL 8-1. 219号土坑
2. 220号土坑
3. 221号土坑
4. 225号土坑
5. 226号土坑
6. 227号土坑
7. 228号・229号・231号土坑
8. 232号土坑
- PL 9-1. 233号土坑
2. 234号土坑
3. 284号土坑
4. 286号土坑
5. 285号土坑
6. 285号土坑
7. 287号土坑
8. 288号土坑
- PL 10-1. 290号土坑
2. 293号土坑
3. 291号土坑
4. 291号土坑セクション
5. 292号土坑
6. 294号土坑
7. 295号土坑
- PL 11. 出土土器
PL 12. 出土土器
PL 13. 出土土器
PL 14. グリッド出土土器
PL 15. グリッド出土土器
PL 16. 出土石器
PL 17. 出土石器
PL 18. 出土石器
PL 19. 出土石器
PL 20. 出土石器
PL 21. グリッド出土土器
PL 22. グリッド出土土器
PL 23. グリッド出土土器
PL 24. グリッド出土土器
PL 25. グリッド出土土器
PL 26. グリッド出土土器



II区全景

I 遺跡の立地と周辺の遺跡

(旧石器～縄文時代)

1. 遺跡の立地

赤城山山麓を源とする粕川は流長約40kmで、広瀬川と伊勢崎市馬見塚で合流する中河川である。平常の水量は少ないが、台風などの災害時には必ずといってよほど、頻繁な氾濫が見られ、言い換えれば地域の開発にとっては歴史的に重要な河川である。この粕川以外に周辺には、神沢川・桂川などの中小河川が台地間を蛇行し、肥沃な沖積低地を形成している。この沖積低地の微高地部分は、居住域または基域として、さらに畑地に利用され、低地部は水田などの土地利用が指向されている。一方、台地部分は殆どが洪積台地で、前述の沖積低地微高地部分と同様な土地利用がなされているが、安定した居住域として利用され、生活の痕跡、開発の集中は洪積台地を中心にして認められるものである。

五目牛南組遺跡の東側には、粕川の氾濫による広大な沖積低地が展開し、西には東桂川が南流している。いうなれば、本遺跡は中小河川に挟まれた、洪積台地上に占地する集落跡あるいは基域と位置付けられよう。周辺の遺跡地を概観しても、同様な沖積低地に挟まれた洪積台地に住居跡や古墳が占地する例が多く、本遺跡の性格もこの洪積台地を中心とした人間活動の痕跡といえよう。ただし、前述の本遺跡東側に展開する、粕川の氾濫原には五目牛清水田遺跡が位置し、洪積台地と同様な集落形態・古墳分布が認められている。时期的な要因が考えられるが、清水田遺跡が提起する沖積低地の土地利用とその変遷は、周辺の遺跡研究に一石を投じる評価が期待されている。

2. 調査区域内の地形

台地東西に中小河川の氾濫による沖積低地が存在する本遺跡の特徴だが、遺跡全体は、周辺地形と同様に北から南に緩やかに傾斜する舌状台地のほぼ中央部分である。ただし、遺跡内にも湿地ともいえる

沖積低地が確認されている。この低地は遺跡を南北に区分する結果となり、また調査工程上も調査区をⅠ・Ⅱ区という2区分調査をした際の目安とした。

Ⅰ区は東側の洪積台地で比較的広い平坦面を持つ。東に粕川の氾濫原を望む居住域としても良好な環境である。Ⅱ区は狭小な馬の背状の洪積台地であるが、調査区域内の地形は、周辺地形とやや趣を異にし南側が僅かながら標高としては高い。おそらく台地の最標高部分と考えられる。また、西に桂川の沖積低地が展開するが、この低地には遺跡は確認されていない。Ⅱ区は狭小な台地のためⅠ区に比して頻繁な居住は認められない。しかし本章の中核的な報告となる花積下層式期の住居跡が検出され、时期的な居住の占地傾向の差が認められる。

このように2つの台地を持つ本遺跡の地形的特徴だが、縄文時代の遺構占地状況から見ると、若干ながらも时期的な偏りがみられ、当時の集落移動と居住地選定の一端が顕著に現れた結果とされよう。

3. 基本土層

旧石器試掘時に各地点を選んで土層柱状図を作成した。しかし、Ⅰ区においては近世～現代にかけての開発の集中が著しく、ローム層上面の遺存状況は極めて悪かった。良好な柱状図が作成されたのはⅡ区に限られ、図示した柱状図もその一部である。

各土層の説明を加える。

- Ⅰ 現表土層 におい褐色を呈する耕作土。
- Ⅰ' 旧表土層 暗褐色を呈す。近世遺物包含。
- Ⅱ 暗褐色土層 As-Bを含む。
- Ⅲ 褐色土層 軟質ローム層に近似。縄文時代の遺物を包含。
- Ⅳa 黄褐色軟質ローム層 ソフトローム層 下面に不連続面を持つ。
- Ⅳb 黄褐色軟質ローム層 ソフトローム層。微量だがAs-Ypを含む。地点的

I 遺跡の立地と周辺の遺跡

- に認められ層位をなすものではない。
- Va 黄褐色硬質ローム層 ハードローム層。As-S Pを散状に含む。
- Vb 暗褐色硬質ローム層 As-B Pの塊状堆積。
- VI 黄褐色軟質ローム層 粘性を持ち漸移的に変化。ATは下位に認められる傾向がある。
- VII 淡黄褐色軟質ローム層 粘性を持つ。地点によっては確認されない。
- VIII 暗褐色硬質ローム層
- IX 暗褐色硬質ローム層 VIII層とともに暗色帯と呼ばれる。累下でも石器の出土量が豊富に認められる層である。

4. 周辺の遺跡

本遺跡の周辺には、多くの遺跡が包蔵されている。要因としては、前述の小中河川の氾濫で沖積低地の肥沃化が進み、生産領域の拡大が常にとの時期においても図られた結果、定着した集落と安定した生産域が生活基盤として保証されたものと考えられる。また、沖積低地を主な生産領域とし得なかったと予想されている縄文時代においても、狩猟採集活動の基点として赤城山麓域が良好な食物提供空間と捉えられ、その山麓の延長線上にあたる本遺跡周辺の洪積台地上では、積極的な集落活動が行われたものと想起されよう。さらに、本遺跡が位置する赤堀町の地理的な位置を考えると、背後に赤城山麓を抱えながらも、関東平野のあらゆる地域との交換が容易な地域でもあることに注意しなければならないだろう。具体的には、東関東などの海岸地域であり、栃木県などの東北関東地域である。この地域との交換実態は未だ明らかにされていないが、本遺跡にしても出土土器の様相から当該地域との交流は図られていたものと確信する。

ここでは、周辺遺跡を明らかにするうえで、特に縄文時代の遺跡様相を、既発掘調査・報告遺跡に限定し概観していきたい。

(早期)：明確な遺構が伴わないが、遺物は各遺跡から出土している。代表的なものとして、堀下八幡遺跡(4)からは押型文・撫糸文・無文の三戸式が出土している。また、下触向井遺跡(9)では条痕文系土器群が良好な出土を見せる。

(前期)：非常に濃密な遺跡分布を見せる。本遺跡で良好な初頭期に比定される花積下層式土器の出土を見るが、隣接する五日牛清水田遺跡(5 近刊)でも、花積下層式の非常に良好な資料が提示されている。赤堀町内では、八幡林古墳群および縄文住居跡(16)で当該期の住居跡が検出されている。

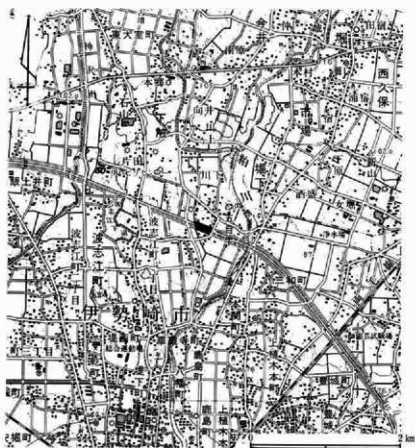
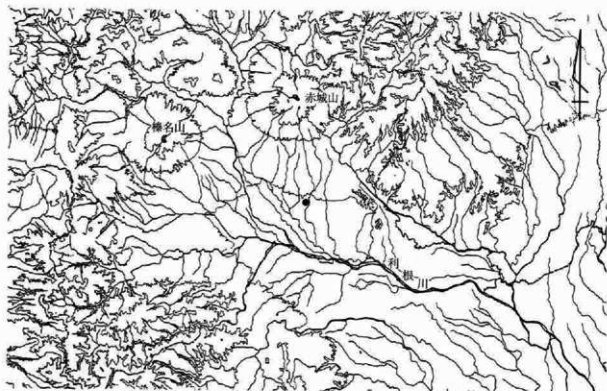
後半期の諸磯式期の遺構は各遺跡で良好な検出状況を見せる。堀下八幡・下触牛伏遺跡(9)・今井柳田遺跡(8)・今井赤坂南遺跡(10)・今井南原遺跡(11)・寺回遺跡(12)・鷹巣遺跡(14)・北通遺跡(15)・五日牛東遺跡(18)などが赤堀町で報告された当該期の住居跡を検出した遺跡である。特に五日牛東遺跡は本遺跡の南に隣接する遺跡であり、非常に興味深いデータを提示している。

中期：比較的少ない。しかし、各遺跡とも破片資料としては報告されており、中西原遺跡(園芸試験場遺跡)のような集落遺跡の調査も見られる。

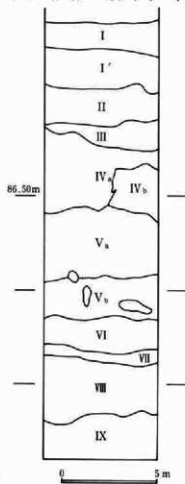
地域的にも東関東地域との対比が可能な土器様相が考えられ、今後の調査例増加が期待されよう。

後期：中期遺跡に比して以外に多い。図上には掲載していないが、赤堀町曲沢遺跡は堀ノ内式の良好な集落遺跡である。また、五日牛洞山遺跡(17)も住居跡が検出されており、前述の五日牛清水田遺跡も住居跡は確認されていないが、包含層より良好な遺物出土状況を見せる。

以上のように、本遺跡を取り巻く縄文時代の遺跡を提示したが、殆どが舌状の洪積台地上に立地する集落跡である。出土物も多く、各時期の様相は次第に把握されつつある。しかし、縄文時代の遺構としては、例えば陥穴などの居住に伴わない遺構を検出した例も多く、集落以外の該期研究に対しても、諸問題を提起する地域である。今後当該地域の縄文時代遺跡の性格を吟味しなければならないだろう。

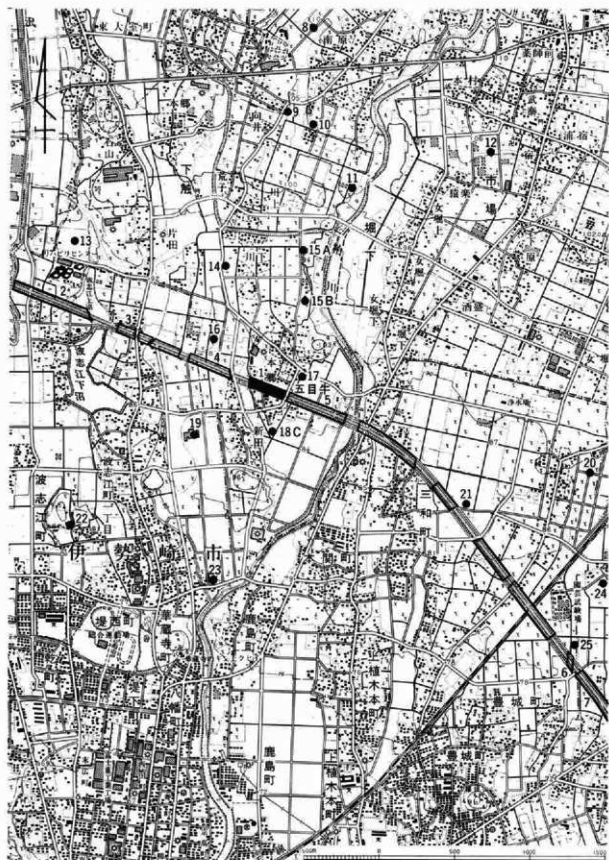


(国土院院図50,000分の1「前橋」[高崎])



第1図 遺跡の位置と基本土層図

I 遺跡の立地と周辺の遺跡



(国土地理院25,000分の1「大須」〔伊勢崎〕)

第2図 周辺の遺跡

4. 周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	時期	調査状況					遺跡の概要	参考文献
			旧石	調査	発見	古墳	近中		
1	五日牛南組遺跡 (佐波郡赤堀町五日牛)			○	○	○	○	本報告の遺跡	
2	流志江今宮遺跡 (伊勢崎市流志江町)			○		○	○	神沢川左岸に位置する。縄文時代の土坑、東側の台地上にある6～7世紀にわたる8基の古墳、奈良時代住居跡1軒を抽出。台地の西側には浅間B群石下の水田跡と溝が検出されている。(古墳は富貝戸古墳群に含まれる。)	1・2
3	流志江天神山遺跡 (伊勢崎市流志江町)			○			○	流志江東側の台地上に位置する。縄文時代の陥穴4基・土坑2基、近世以降の土坑23基・溝跡6条・セク状遺構等を抽出。	2
4	堀下八幡遺跡 (佐波郡赤堀町堀下)		○	○			○	旧桂川右岸の洪積低台地上に位置する集落遺跡。認識期の住居跡1軒・土坑4基、平安時代の住居跡9軒を抽出。別天文字等の墨書土器が出土。調査区西縁部では暗色帯から約1,000点の旧石器時代の遺物が出土。	3・4
5	五日牛清水田遺跡 (佐波郡赤堀町五日牛)			○		○	○	粕川右岸に位置する。洪積微高地では縄文時代前期から奈良時代に及ぶ55軒の住居跡と前方後円墳1基・登壇跡等を、沖積地では古墳～平安時代の鳥・水田跡、中近世の掘立・井戸・基壇を調査。	2・4
6	霧上下吉祥寺遺跡 (伊勢崎市雲城町)			○		○	○	天ヶ池湧水地による開所谷右岸の台地上。縄文時代住居跡3軒・土坑1基、古墳時代住居跡9軒、平安時代住居跡1軒、中世基壇1基、近世掘立6棟・溝跡13条、土坑7基検出。伊教委調査の「下吉祥寺遺跡」との関連大。	5・6 7
7	八寸大道上遺跡 (佐波郡東村東小保方・西小保方)		○		○	○	○	天ヶ池湧水地による開所谷左岸の洪積台地上に位置する。縄文時代黒石遺構10基、古墳時代後期の住居跡4軒、奈良・平安時代の住居跡11軒・掘立9棟等を抽出。子持器台や古墳時代の工房跡から多量の滑石製品が出土。	7・8
8	今井柳田遺跡(A区) (佐波郡赤堀町今井)			○				毒島から続く沖積地の左岸台地上に位置する。縄文時代住居跡前期1軒・後期9軒・土坑3基。古墳時代後期住居跡12軒、奈良・平安時代住居跡7軒・土坑25基検出。	9
9	下船内井遺跡 (佐波郡赤堀町下船)			○		○	○	毒島湧水地による開所谷右岸の微高地上に位置する。古墳時代住居跡26軒、奈良・平安時代の住居跡14軒検出。縄文土坑からは早期末の糸張土器が、平安時代の住居跡・土坑からは「中臣」等の墨書が出土。	10
10	今井赤坂南遺跡 (佐波郡赤堀町今井)			○		○	○	毒島から続く湧水による小沢の左岸の低台地に古地。縄文時代前期の住居跡1軒。古墳時代の住居跡13軒・土坑10基検出。	11
11	今井南原遺跡 (佐波郡赤堀町今井)			○	○	○	○	粕川右岸の洪積低台地上に位置する集落遺跡。縄文時代前期住居跡1軒・土坑1基、弥生時代住居跡36軒、古墳～奈良・平安時代の住居跡112軒、掘立3棟、土坑7基、「南原古墳群」に属する4世紀後半の古墳1基調査。小形の乳文鏡が出土。墨書・線刻跡等も出土。	12
12	寺岡遺跡 (佐波郡赤堀町市場)			○				粕川と御木川の合流点の東、大林寺の西300mに位置する。縄文時代前期の土坑22基他、土器・石器を多量に出土。	13
13	下船牛伏遺跡 (佐波郡赤堀町下船)		○	○		○	○	神沢川左岸のローム台地上に位置する旧石器～平安時代の複合遺跡。旧石器時代文化層を2層検出し、約3,000点の遺物を出土。縄文時代住居跡3軒・陥穴25基・土坑18基・集石3基、古墳時代住居跡13軒・古墳10基(円墳・方墳・横穴式石室?世紀中葉以降)を抽出。	14・15
14	栗巣遺跡 (佐波郡赤堀町下船)			○			○	旧桂川左岸の洪積台地西縁部に位置する。縄文時代前期の住居跡2軒・土坑3基、平安時代の住居跡18軒・掘立4棟・土坑等を抽出。「川郎」「中」等の墨書土器出土。	16
15	北通遺跡A・B (佐波郡赤堀町下船)			○			○	粕川右岸の台地縁辺。縄文時代前期住居跡7軒・土坑5基、遺構後に後期の土偶が出土。古墳時代住居跡1軒、平安時代住居跡2軒検出。「大門」の墨書土器出土。	16
16	八幡林古墳群 及び縄文住居跡 (佐波郡赤堀町堀下)			○		○	○	旧桂川右岸に位置する高さ7mの独立丘の南側斜面に位置する。6世紀初頭～7世紀前半構築の4基の横穴式石室の円墳を調査。墳丘下に縄文時代前期住居跡を4軒抽出。	17
17	五日牛洞山遺跡 (佐波郡赤堀町五日牛)			○				粕川右岸の洪積台地の東縁部に位置する。縄文時代後期の住居跡5軒・土坑13基、古墳時代の古墳の周縁が調査され、土偶・石棒等が出土。	18・19

I 遺跡の立地と周辺の遺跡

No	遺跡名	時期	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	遺跡の概要	参考文献
18	五日牛東遺跡 A・B・C (佐波郡赤堀町五日牛)			○		○	○		A地点:粕川右岸の低台地上に位置する。古墳時代住居跡12軒を検出。 B地点:粕川及び旧桂川の氾濫による沖積微高地上に位置する。古墳時代後期～平安時代住居跡22軒を検出。墨書土器出土。中世以降の遺跡検出。 C地点:粕川左岸の洪積台地上に位置する。縄文時代前期の住居跡2軒検出。	20
19	蟹沼東古墳群 (伊勢崎市波志江町)			○					西桂川左岸の低独立丘(大穴台)上に築かれた古墳群。地蔵山古墳群の西側500mに位置する。約80基が確認され、内69基の古墳を調査。6～7世紀前半の構築。他、縄文時代陥穴5基、方形周溝墓6基、溝1条検出。(間之山古墳群を含む)	21・22 23・24 25・26
20	天ヶ滝遺跡 (伊勢崎市三和町)			○					尾ヶ池湧水地の開析谷に面する台地上に位置する。縄文時代住居跡1軒、古墳時代住居跡7軒検出。	27・28
21	蟹沼東遺跡 (伊勢崎市三和町)			○		○	○		大井戸湧水地の開析谷に挟まれた洪積微高地上に位置する縄文時代中期～平安時代の集落遺跡。33軒の住居跡・井戸跡9基検出。	27・29
22	波志江権現山遺跡 (伊勢崎市波志江町)			○					伊勢崎市北部、波志江権現山の山裾部に位置する。縄文時代早期の土器・石器が出土している。	21
23	間之山遺跡 (伊勢崎市波志江町)			○	○				西桂川が粕川に合流する手前右側の舌状台地上に位置する。付近一帯は間之山古墳群であり、古墳下から縄文・弥生・古墳時代の住居跡・方形周溝墓等検出。	21
24	中西原遺跡 (佐波郡東村西小保方)			○		○	○		天ヶ池湧水地より南下する開析谷の東側台地上に位置する。縄文時代住居跡・墓石・土坑、古墳時代住居跡、奈良・平安時代住居跡等出土。(奥園芸試験場遺跡)	30・31
25	下吉祥寺遺跡 A・B (伊勢崎市豊城町・三和町)			○		○	○		天ヶ池湧水地による開析谷右岸の洪積台地上に位置する。縄文時代住居跡3軒、古墳～奈良・平安時代住居跡64軒、溝跡2条、瓦葺・墨書土器出土。	21・33 53

参考文献

- 石塚久則「上武国道地域埋蔵文化財発掘調査略報」『今宮遺跡』1981 群馬県教育委員会
- 昭和60年度一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査・整理概要 1986 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 原 雅信 岩崎泰一他「堀下八幡遺跡」1990 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「昭和59年度一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査・整理概要」1985 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 原 雅信 飯塚 誠 坂井 隆他「上船木町田遺跡 曹上上原之城遺跡 曹上下吉祥寺遺跡」1988 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 昭和58年度一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査・整理概要 1984 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 「昭和57年度・実績報告 上武国道地域埋蔵文化財発掘調査」1983 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 原 雅信・坂井 隆他「八寸大遺跡」1989 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 松村一昭「群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告18」『今井柳田遺跡発掘調査概報』1982 赤堀村教育委員会
- 松村一昭「群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告13」『下船井遺跡発掘調査概報』1980 赤堀村教育委員会
- 松村一昭「群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告30」『今井赤坂南遺跡発掘調査概報』1990 赤堀村教育委員会
- 松村一昭「群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告15」『今井南遺跡発掘調査概報』1981 赤堀村教育委員会
- 松村一昭「群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告28」『昭和63年度埋蔵文化財発掘調査概報』1989 群馬県教育委員会
- 「群馬県史 資料編1 原始古代1」1988 群馬県史編さん委員会
- 小島敦子 惣江秀夫 岩崎泰一他「下船牛伏遺跡」1986 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 松村一昭「群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告20」『淵山古墳群及び北沼、廣原遺跡発掘調査概報』1983 赤堀村教育委員会
- 松村一昭「群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告19」『八幡林古墳群及び龍文住居跡発掘調査概報』1982 赤堀村教育委員会
- 松村一昭「群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告14」『五日牛川遺跡発掘調査概報』1980 赤堀村教育委員会
- 松村一昭「群馬県佐波郡赤堀町文化財調査報告32」『五日牛地区町道106号線拡張工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』1990 赤堀町教育委員会
- 松村一昭「群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告11」『五日牛東遺跡及び赤堀村8号墳発掘調査概報』1980 赤堀村教育委員会
- 伊勢崎市史 通史編1 原始古代中世 1987 伊勢崎市
- 中澤貞治「宮貝戸古墳群 蟹沼東古墳群」1983 伊勢崎市教育委員会
- 中澤貞治 村田喜久夫「蟹沼東古墳群 宮貝戸下遺跡」1978 伊勢崎市教育委員会
- 中澤貞治「蟹沼東古墳群」1979 伊勢崎市教育委員会
- 中澤貞治 村田喜久夫「蟹沼東古墳群」1981 伊勢崎市教育委員会
- 原長泰一「蟹沼東古墳群」1988 伊勢崎市教育委員会
- 「群馬県史 資料編2 原始古代2」1986 群馬県史編さん委員会
- 中澤貞治「高山遺跡 天ヶ滝遺跡 天野沼遺跡 下書上遺跡」1978 伊勢崎市教育委員会

4. 周辺の遺跡

- 29 中澤貞治 村田喜久夫『御沼東遺跡 舞台遺跡』1977 伊勢崎市教育委員会
- 30 群馬県佐波郡『東村誌』1979 東村誌編纂委員会
- 31 横山 巧『佐波郡東村の遺跡—村内遺跡詳細分布調査報告書—』1988 佐波郡東村教育委員会
- 32 中澤貞治『原之城遺跡 下吉祥寺遺跡』1982 伊勢崎市教育委員会
- 33 村田喜久夫『下吉祥寺遺跡』1980 伊勢崎市教育委員会
- 34 『群馬県遺跡台帳Ⅰ（東巻編）』1971 群馬県教育委員会
- 35 『群馬県遺跡地図』1973 群馬県教育委員会
- 36 『全国遺跡地図 群馬県』1977 文化庁文化財保護部

II 検出された遺構と遺物

1. 旧石器時代の出土遺物

(1) 概要

五目牛南組遺跡は洪積台地に占地しているため、I区・II区毎の縄文時代～近世の遺構調査後、旧石器時代の遺物の有無を、4×4mの試掘坑を基本に調査区全域にわたって試掘調査をした。その結果、該期の遺構やユニットなどの遺物集中箇所は認められなかったが、いわゆる暗色帯（Ⅷ-Ⅸ層）下より、大形の礫が確認されている。ただし、出土箇所が低地にかけての傾斜部分に集中する傾向が認められ、火熱を受けた痕跡も無いことから、自然礫の可能性が強く、遺構、遺物として認知しなかった。

また、I区試掘坑の一部は縄文時代の陥穴などの遺構が検出される結果となり、必ずしも旧石器時代の調査に即した試掘方法ではなかった。

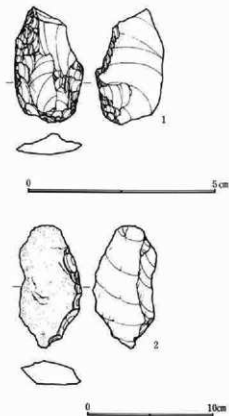
その中で、I区S-10GrとW-11Grより2点の石器が出土している。ただ、2箇所とも近世遺構の攪乱が著しい箇所ので、2点の石器も縄文時代の遺物と共に出土したため、層位的な裏付けはなく、今回の報告では2点を図示するのみにとどまった。おそらく近世の開発が集中したため、旧石器時代の包含層のかかりは逸失したものと考えられよう。

(2) 遺物

1はS-10Grより出土した黒曜石製の尖頭器である。小型の縦長剥片を素材とし、先端部と右側縁が欠損する。表面に細かな調整が集中し、特に左側縁から基部にかけて丁寧な調整を施している。また、欠損する右側縁から表面には細かな調整が施されるが、再調整の痕跡であろうか。計測値は3.0×1.8cm 2.81g

2はW-11Grより出土している。黒色安山岩製のスクレイパーで、大型の縦長剥片を素材とし、自然面を多く残す。左右の側縁から表裏交互に大まかな調整を施すことによって、刃部先端を突出している。計測値は9.2×4.9cm 87.31g。

2点とも帰属する層位の根拠が明らかではないが、周辺では上武道路関連の調査により、旧石器時代の調査が集中し、例えば本遺跡の西方向約0.6kmの堀下八幡遺跡では暗色帯上部から約1000点の石器が検出されているし、東方約0.7kmに位置する上植木光仙房遺跡ではソフトルーム中より槍先型の尖頭器が出土したが、未だ線状の調査例であり、これらの該期遺跡群の広がりや明瞭にする作業が今後は臨まれていくのであろう。このような状況の中で、本遺跡の2点の石器を詳細に位置付けることは差し控えるべきであろう。しかし、1の尖頭器は、光仙房遺跡のソフトルーム層より出土した尖頭器との類似性を考える際には非常に良好な資料であり、今後同様な尖頭器の出土が見られた際に、比較資料として分析を行わなければならないだろう。



第3図 旧石器時代の出土遺物

1. 旧石器時代の出土遺物 2. 縄文時代の遺構と遺物

2. 縄文時代の遺構と遺物

(1) 遺構の概要と土器の分類

本遺跡の縄文時代の遺構は、住居跡4軒・土坑37基・埋設土器2基等が検出されている。その殆どの遺構が縄文時代前期に時期が求められ、住居跡は前期初頭の花積下層式土器が出土し、埋設土器や土坑の多くもこの時期に並行する。土坑には前期後半の諸磯b式土器が出土するものも認められるが、客体的な存在に過ぎず、本遺跡の縄文時代の遺構は花積下層式期に属するものが主体を占めるといえる。

さらに、調査区による偏りも指摘できる。I区は五目牛清水田遺跡に面する調査区であり、比較的平坦で広い洪積台地が形成されているにもかかわらず、住居跡は検出されておらず、陥穴等の土坑や不明遺構が確認されている。一方II区は、小形の馬の背状台地の割に、住居跡・埋設土器・集石土坑が検出されており、花積下層式期の居住域として積極的に利用された傾向が把握できよう。

また、近世遺構等から出土する縄文土器片やグリッド出土遺物からの傾向としては、I区は花積下層式土器や諸磯b・c式土器、加曾利E式、堀ノ内式土器などバラエティーに富むのに対し、II区は花積下層式土器と諸磯b・c式に限定されている。これは、

より広い居住域であるI区に中期以降の居住が指向された現象とも捉えられるが、台地全容の把握には至っていないため、詳細は不明である。

各遺構の概要を述べる。

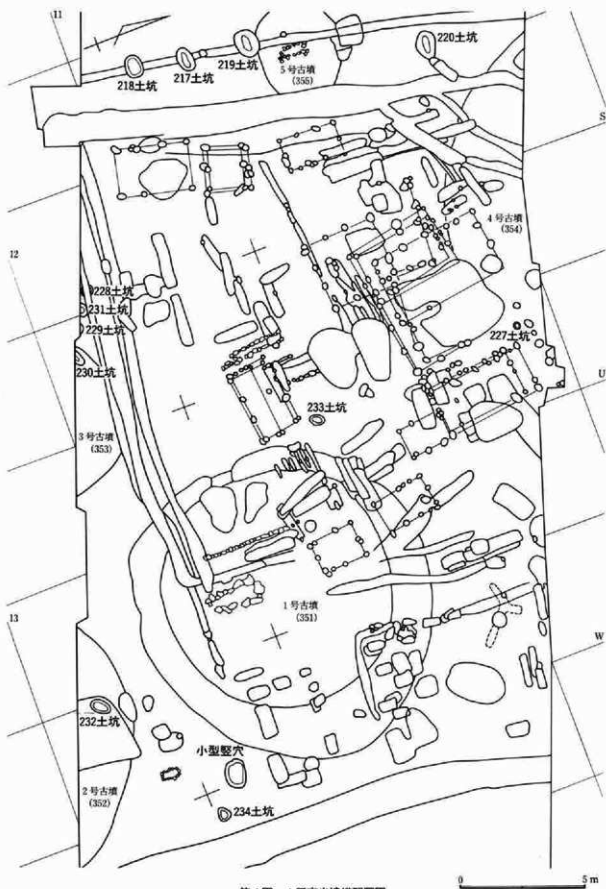
- a 住居跡 4軒の竪穴住居跡が検出されている。II区で検出されており、そのうち、残存状態の良い1・4号住居跡は出土遺物も豊富である。
- b 小型竪穴状遺構 1基検出された。遺存状態は悪く、使用目的等は特定できないが、加曾利E3式の深鉢が出土している。
- c 埋設土器 2基検出された。いずれも花積下層式の深鉢である。調査時は3基の埋設土器を命名したが、内1基は包含層中の破片を誤認したもので、掘り込みを持たなかった。よって遺構としては2基を埋設土器として認定した。
- d 土坑 総計37基が検出されている。陥穴6基・集石を伴う土坑5基・その他26基である。完形土器を伴出する土坑はなく、285号土坑の諸磯b式の大形破片が目立つ。その他の遺物を伴出する土坑は、土器破片と小形の石器が出土し、副葬品を伴う墓墳のような在り方ではない。

次に出土土器を概観する意味で大別を試み、下記に呈示する。

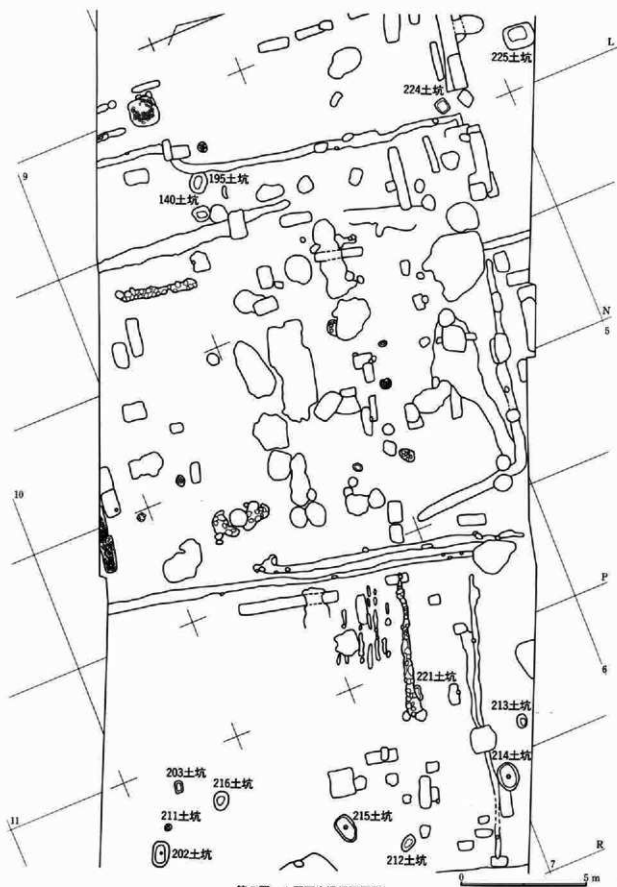
- I群 早期：無糸文系の土器が1点のみ出土している。ただし、スタンプ形石器も認められることから、希少な存在ではなく、隣接地域に濃密な分布が予想されよう。
- II群 前期初頭：主に花積下層式期に比定され得る一群で、本遺跡で主体を占める時期である。文様要素から7分類をした。また、原形は0段3条縄を基本とし、胎土に繊維を含む。
 - 1類 器厚は厚く、原形を斜位に回転施文するため縦位の象が施される。
 - 2類 0段3条～多条の羽状縄文構成。原形幅は比較的短い。
 - a 結節による羽状縄文
 - b 結節を持たない羽状縄文
 - c その他の原形による縄文構成
 - 3類 羽状縄文だが、菱形状の構成を取るもの。
 - 4類 口唇部に矢羽状の刻みなどを施すもの。
 - 5類 隆線などの貼付文を設ける例。
 - a 隆線間に刺突文を施す。
 - b 隆線間に橋永任文を施す。
 - 6類 格子目状の沈線文を施す。
 - 7類 その他の含繊維土器 無文など。
- III群 前期後半：諸磯b・c式期に比定される土器。
 - 1類 諸磯b式土器。浮線文・平行沈線文・爪形文を施すものや、ボタン状の貼付文を設ける終末段階の土器も認められる。
 - 2類 諸磯c式土器 集合沈線を地文とし、貼付文を設ける一群。

- 3類 興津・浮島式系統の土器 口唇部に指頭などの押圧を施す例や、連続する刻み目を施す例が認められる。
- IV群 中期：勝波式・加曾利E式土器が認められているが、遺構に伴うものは少量である。
- V群 後期：遺構には伴わない。堀ノ内式・加曾利B式が多い。文中及び土器観察表にも上記の分類を援用した。

II 検出された遺構と遺物

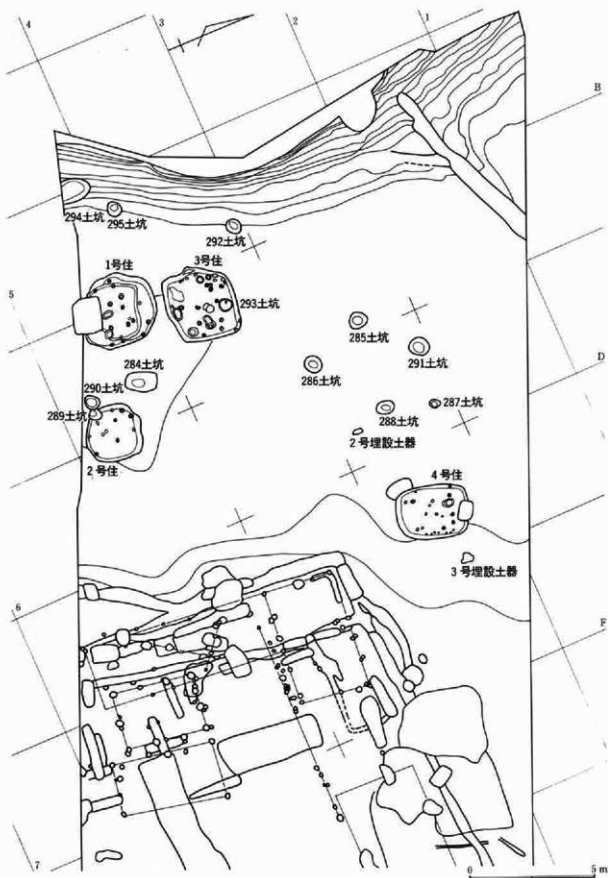


第4図 I区東半遺構配置図



第5図 I区西半遺構配置図

II 検出された遺構と遺物



第6図 II区遺構配置図

(2) 住居跡

1号住居跡

調査区(Ⅱ区)西端のA・B-3・4Grに位置する。北に3号住居跡が近接し、東約5mに2号住居が検出されていることから、本遺跡の縄文時代前期前半の居住域であったことが窺われる。本住居跡の南側は現代の掘立坑によって壊されており全体の平面形は判然としない要素ではあるが、凡そ径約6mの円形を呈する。掘り込みも深く壁高約70cmを測る。

床面は中央部が一段低くなり方形の床面形状を呈す。中央に向かってやや傾斜が認められるがほぼ平坦面を築いている。貼床は認められず中央部に若干の硬化面が存在するが全体に軟弱な地床である。

炉は住居跡中心からやや南にずれた場所に設けられ、この位置は床面のほぼ中央にあたる。楕円形の掘り方で、自然礫を炉石として長軸方向に並べ、2個体の深鉢を埋設する。炉石・深鉢とも火熱を受けている。炉内は埋設土器内を中心にして焼土・炭化物が認められている。

主柱穴は特定できない。位置的にはPit1・2・6・7が妥当だが、規則性は認められず判断を避ける。その他は小型で浅く主柱穴ではないが、Pit11~18は壁柱穴として考えることができる。また、Pit10は土坑の重複ではなく、本住居の何等かの施設である。貯蔵穴などの用途が想起されよう。

覆土は上層は黒褐色、中層は暗褐色、下層は黄褐色を基調として、ゆるやかな自然堆積状態を呈する。2層にAs-Cが認められており、いわゆるC経石降下時には本住居跡は埋没が完了しておらず、凹地となっていたことが窺われる。

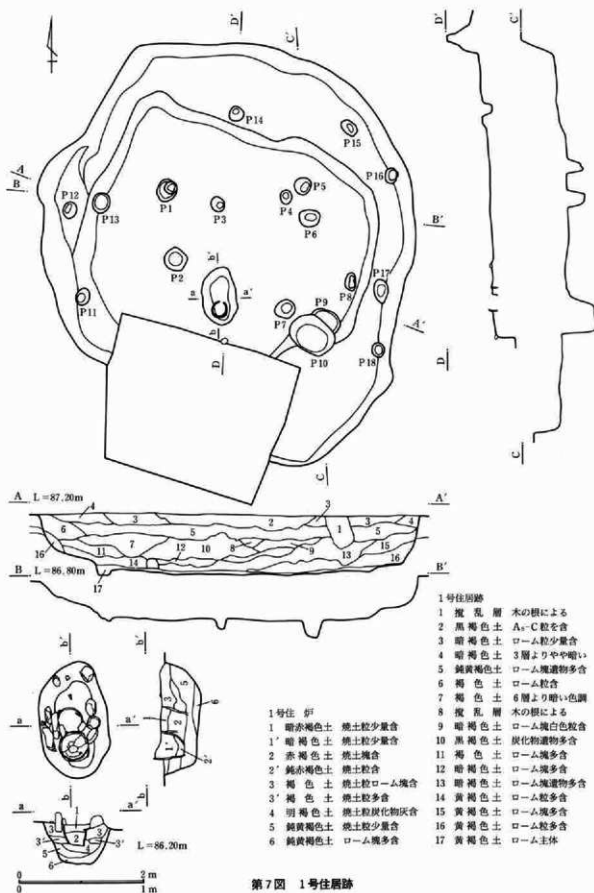
遺物は、住居跡の遺存度の割合にしては比較的小量である。1・2は炉に埋設された深鉢である。外表面が過熱を受けている。両個体とも口縁部と底部を欠損しており、空容は把握できない。1は胴部中に膨らみを持たせ、頸部にかけて緩やかに湾曲しながら開く。底部は恐らく小型の平底となる可能性が高い。器面全面を0段3条LR・RLの羽状縄文が充填される。2も1と同様な器形・施文である。

1・2とも前期前半花積下層式に比定されよう。覆土から出土する土器片も花積下層式が多く、比較的薄手の器厚を呈するものが認められる。おそらく花積下層式後半段階の所産と考えられよう。3は浮線で渦巻を描き、刺突状の短沈線を充填する。4は折り返し口縁で、口唇端部は尖る。横位隆線に刻みが施され、空白部は刺突文で埋められる。横位隆線以下は0段多条のLR縄文が施される。5は口唇部に隆線を貼付し隆線上に刺突を加えている。7の口唇端部にも縄文が施される。8は波状縁で結節羽状縄文である。薄手で焼成も堅硬である。10は胴部の大型破片だが、菱形の効果も羽状縄文で表している。羽状縄文には、結節によるものや、結節を持たないものがあり、多少の文様要素の差は認められるものの、0段3条~多条の羽状縄文が基調となっている。20のように無節の縄文を施す例もある。また、この時期の底部に普遍的な縄文施文の例も21などに顕著である。この他では、前期後半の諸畿式や後期の土器片などが出土しているが、混入であろう。

石器の出土は多い。26は石鏝の未製品と捉えた。27~29の石匙は横長剥片を素材とし、小型である。28は未製品であろう。撥形の打製石斧も小型である。いずれも、片面からの調整で刃部を作り出す。スクレイパーは2点出土した。33は横長剥片を素材とし、稜面を多く残す。周縁を調整するが剥片端部の調整が意識的であり刃部を凹状にする。34は、棒状の礫の両端を加工したもので、特に下端は凸状の刃部を作る。38は磨石だが下端を加工し、僅かながらの刃部が作出されている。剥片石器は3点出土している。横長剥片を素材とする黒色頁岩製のものである。

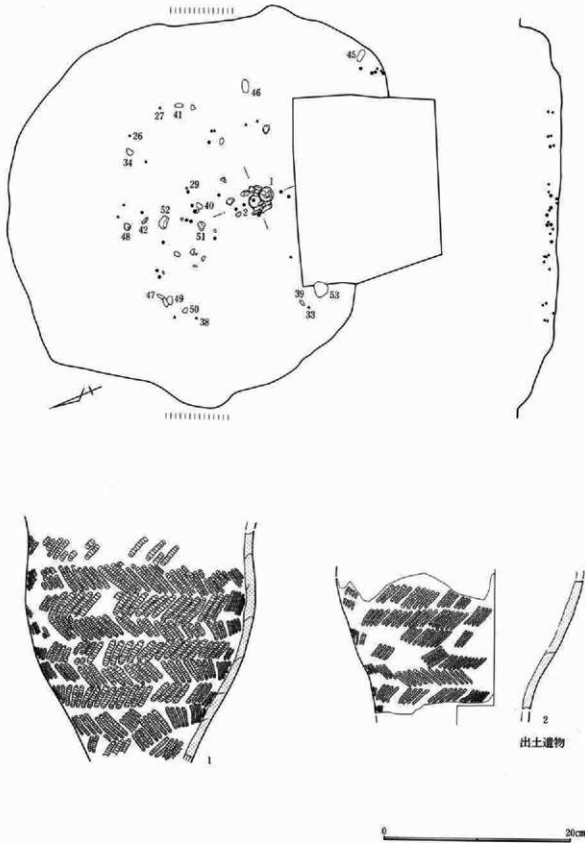
磨石類は多い。粗粒安山岩を素材とするもので、42は使用痕が著しい。凹石は3点を図示した。特に48は両側からの凹みが極端であり、貫孔している。あるいは凹石ではなく、他の用途を意図したのかもしれない。また、条痕状研磨器も1点だけが出土している。完形であり、両面とも研磨痕が筋状に現れている。砂岩製。その他に石皿片(52)・多孔石(53)の出土を見ている。

II 検出された遺構と遺物



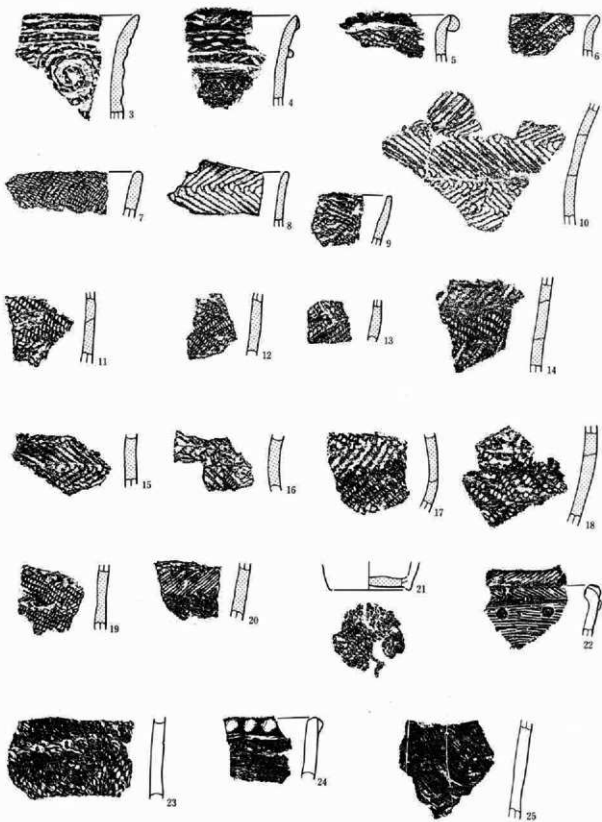
第7図 1号住居跡

2. 縄文時代の遺構と遺物



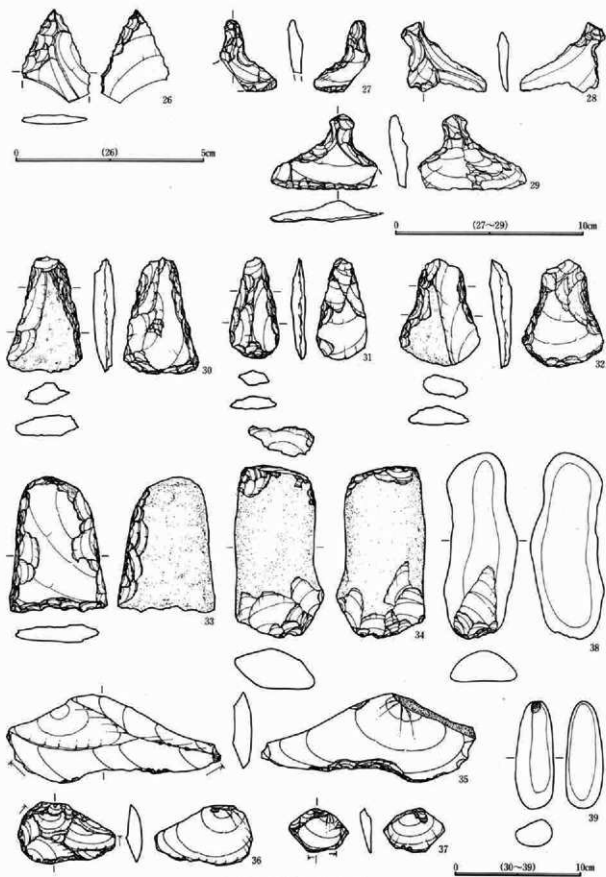
第6図 1号住居跡遺物分布

II 検出された遺構と遺物



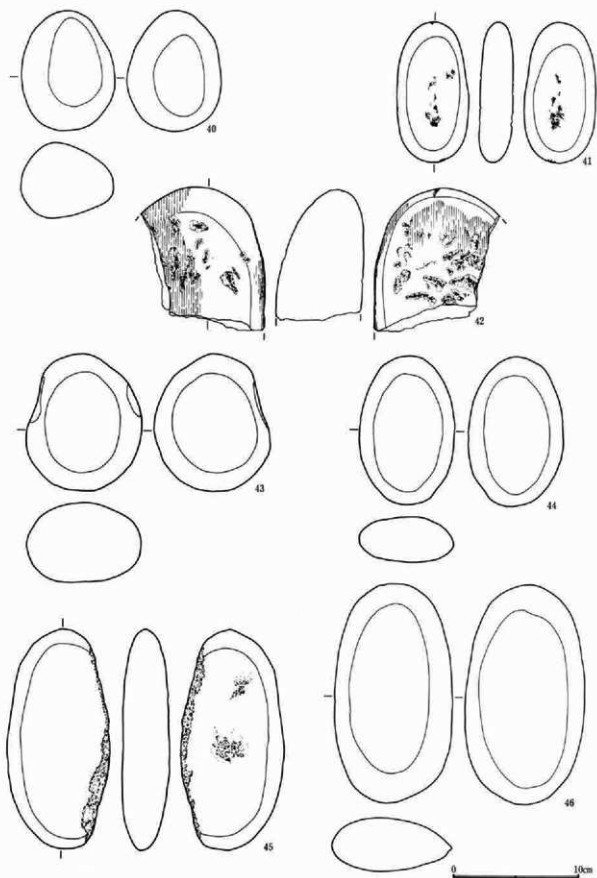
第9図 1号住居跡出土土器

2. 縄文時代の遺構と遺物

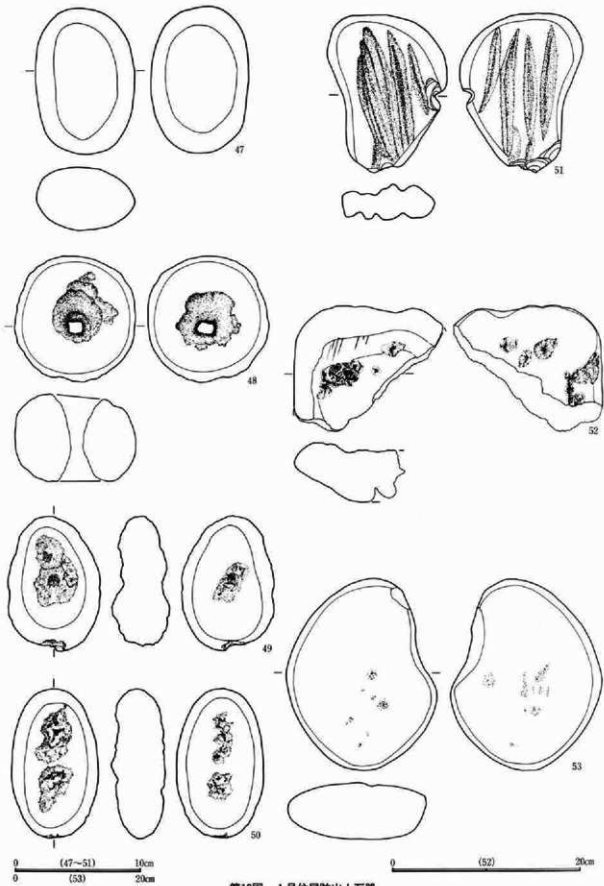


第10図 1号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物

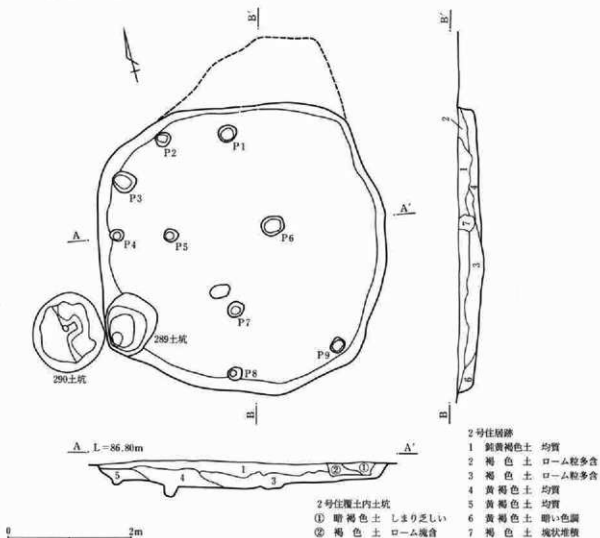


第11図 1号住居跡出土石器



第12図 1号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物



第13図 2号住居跡

2号住居跡

B・C-4Grに位置する。II区台地部の南東にあたり、前述の1号住居跡が西5mに近接する。南東隅に289号土坑が重複し、住居外に290号土坑も接する。土坑が新しい。また土層観察の際に、東壁に接する土坑が観察されたが平面形などの把握には至らなかった。なお本住居跡の北側は調査の不手際により、正確なプランを明確にはできなかった。

平面形は円形を基調とした、隅丸正方形で近接する1号住居跡のプランに類似する。径は約4.5m、壁高は約30cmを測る。

床面は、硬質ローム層を掘り込み、中央部分が僅かに凹む。貼床はなされておらず、全体に軟弱な床

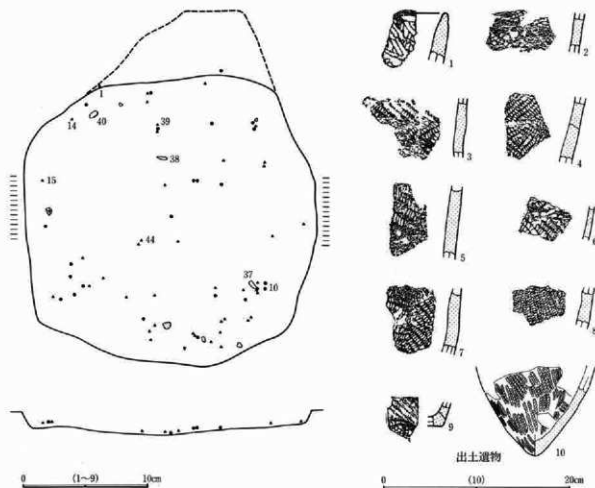
面といえよう。

炉は検出されなかった。Pit 7の北に接し、炭化物と極微量の焼土粒が確認されたが、掘り込みを持たず、積極的に炉と認定する根拠はない。

主柱穴も特定できない。9ヶの小Pitを検出したが規則性を把握できない。しかしPit 5・6は大きさ・位置からその可能性を指摘できよう。また、Pit 1~4・8・9は壁柱穴として位置付けられよう。ただし、これらの小Pitは住居跡北側から東側にかけては設けられておらず問題は残る。

覆土は褐色土を基調として、均質な状態である。自然堆積として捉えられよう。土層註には明記しなかったが、3・4層には炭化物が含まれていた。

2. 縄文時代の遺構と遺物



第14図 2号住居跡遺物分布

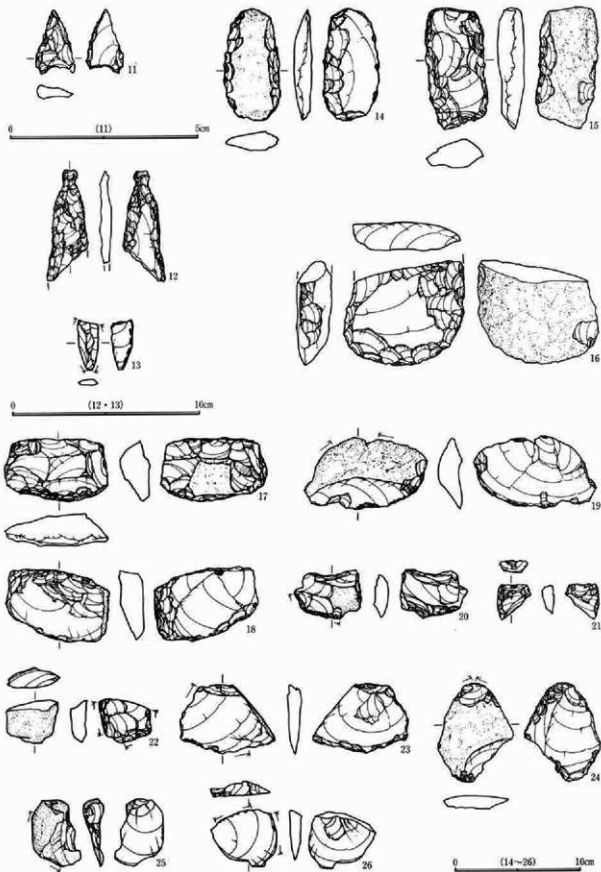
遺物は少ない。土器片は十数点出土したのみである。その中で、南東側壁下に尖底深鉢底部が出土したことは特筆すべきであろう。この底部を含めて出土土器はすべて花積下層式に比定されるものである。1は口唇部下に沈線を施す。2～8は羽状縄文を施す一群だが、5～8は条が縦位に施される兆しをみせ、同様な施文をする尖底との関連を窺わせる。9は無節縄文を施す平底の破片である。

石器の出土量は比較的多い。特に剝片を素材とする石器の出土は良好といえよう。11はチャート製の石錐で調整は表面のみに集中している。未製品の可能性もある。12は縦長剝片を素材とするチャート製の石匙。剝片端部を大きく欠損しているが、周縁は丁寧な調整を施している。13は加工痕を持つ剝片石器だが側縁に使用痕も看取される。14～16の短冊形

の打製石斧は黒色頁岩製で、3点とも大きく礫面を残す。14の側縁には丁寧な調整が施される。スクレイパー(17・18)も黒色頁岩製で横長剝片を素材とする。加工痕を持つ剝片石器(19～24)は剝片端部の一部に調整が及ぶものが多く、20のように規則性を持たせるものは少ない。使用痕を持つ剝片石器(25～36)の刃部及び側縁に痕跡が認められ、剝片の先鋭な箇所を使用したものと思われる。磨石類(37・38)は比較的数量が少ない。37は四面に面を持つ。凹石は2点(39・40)のみの出土である。

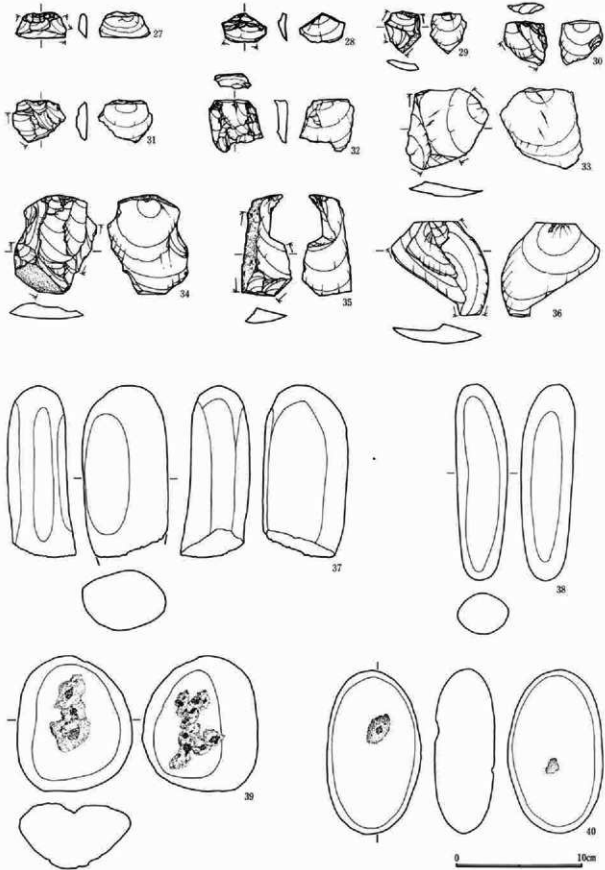
本住居跡は、炉も認められず、遺物の出土量も少ないことから、長期的な居住などが行われなかった住居跡と考えられる。その中で、尖底深鉢片の存在は、本遺跡の花積下層式においても、比較的古手の様相であることは注目して良いだろう。

II 検出された遺構と遺物



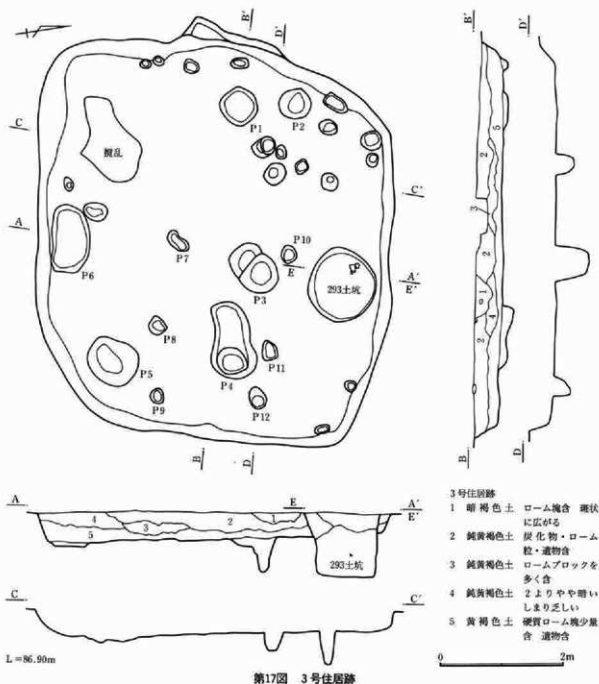
第15図 2号住居跡出土石器

2. 縄文時代の遺構と遺物



第16図 2号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物



3号住居跡

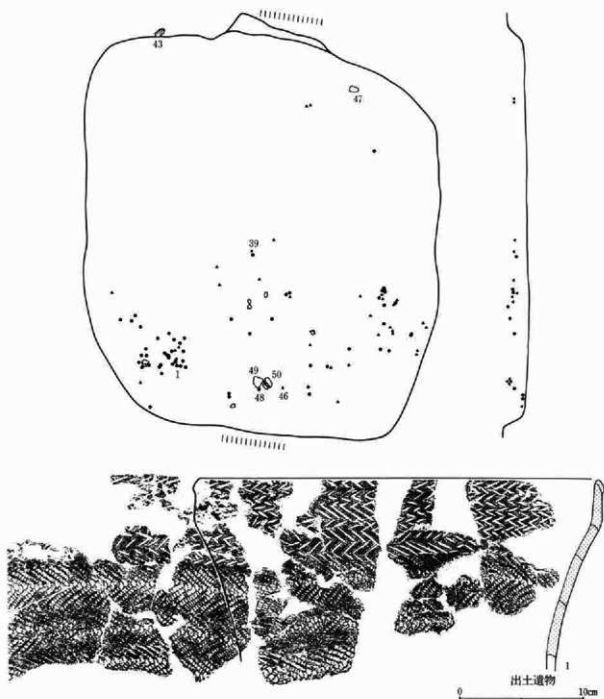
A・B-3Grに位置する。1号住居跡の北に近接し床面北側は293号土坑が切る。また、浅い落ち込みが西側壁上端に認められたが、自然のものであり、本住居跡や他遺構とは無関係のものと判断した。

平面形は方形を基調とした隅丸方形を呈し、約6.0×5.5mの規模を呈し、壁高は約40cmを測る。

床面はほぼ平坦だが、南西隅に向かって若干緩や

かに傾斜している。全体に軟弱で中央部に硬化面が認められた。床面からは多くのPitが検出されたが、支柱穴に特定できるものはその配置からは断定できない。Pit 1～4は大きさから柱穴として妥当だが、規則性は認められない。また、Pit 7～12がほぼ等間隔に設けられ、小Pitながら注意を要する。

炉は無い。調査当初はPit 4を考えていたが焼土・炭化物等の痕跡はなく炉としては認定できない。



第18図 3号住居跡遺物分布

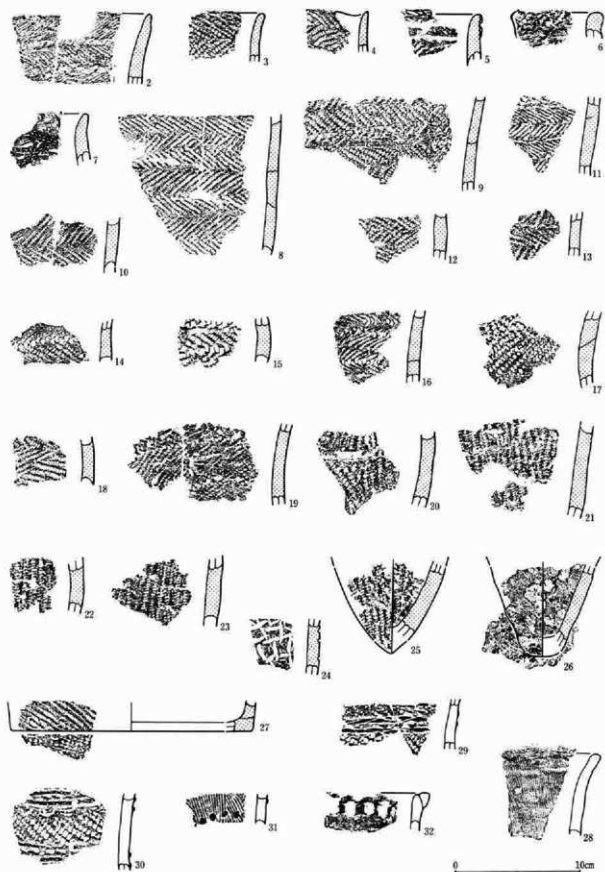
覆土は、黒褐色～暗褐色土を基準として緩やかな自然堆積状態を呈する。

遺物は比較的多い。しかし、完形土器の出土はなく、1が床直上よりまともに出てきたに過ぎない。その他は覆土中よりの土器片の出土であり、殆どが羽状縄文を施す花積下層式に比定されよう。1は折り返し口縁で、矢羽状の刻みが口縁部の膨らみにか

けて横位に施文される。以下は0段3条の結節縄文が胴部を覆う。出土土器片は前述の花積下層式以外には撫糸文系土器が1点、前期・後期の土器が出土しているが客体的な存在であり混入であろう。

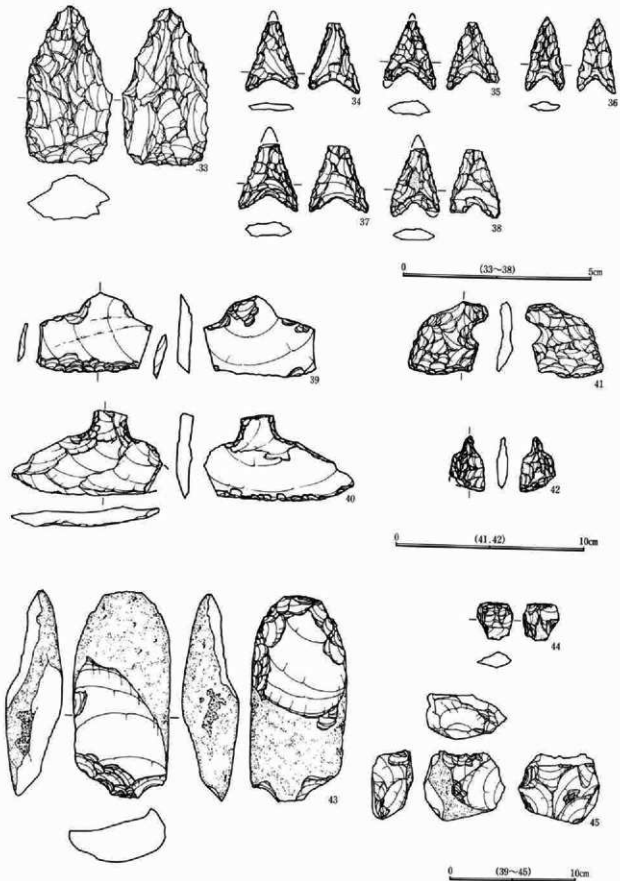
石器では、石鏃の出土が目立つ。総計6点が出土している。1は未製品の可能性がある。チャート製で厚手の横長剥片を素材とする。34～38は比較的小

II 検出された遺構と遺物



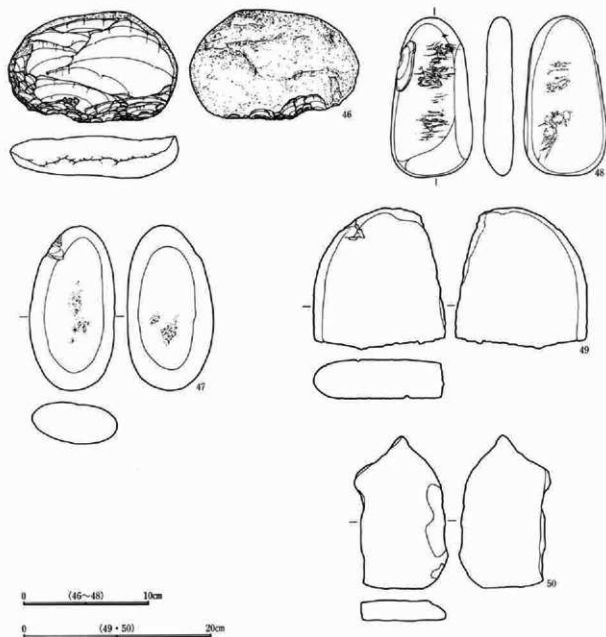
第19図 3号住居跡出土土器

2. 縄文時代の遺構と遺物



第20図 3号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物



第21図 3号住居跡出土石器

型の石鏃だが、長さ・幅とも類似する傾向を見る。石匙は粗製のもの2点(39・40)が特徴的である。41は未製品か。42は小型の石匙と捉えたが石鏃の可能性もある。尖端部の作出技法は石鏃ではなく、問題は多い。その他の剥片を素材とする石器はスクレイパーが3点(43・44・46)が見られる。43は中型の円礫を素材とし、表裏相対する方向から加工を加えている。粗粒安山岩製。44は小型のチャート製の縦長剥片を素材とし、側縁・頭部に調整を施す。46は円

礫の横長剥片を素材とし、反対面に礫面を多く残す。刃部の作出は丁寧で側縁にまで及ぶ調整である。石核は1点(45)出土した。黒色頁岩製で他方向からの打撃が看取できる。磨石類・凹石は各1点(47・48)ずつ認められる。47は礫の短軸方向の使用痕が見られる。48の凹みは浅く、凹石に見られるような円形の孔ではない。台石は2点(49・50)が出土した。破砕された状態だが、表面の平坦部には使用痕が認められる。

4号住居跡

調査II区台地部分の北東緩斜面端部のD-2Grに位置する。1～3号住とは距離を持ち、調査範囲内では単独の立地を示すが、近接して花積下層式期の埋設土器(2・3号埋設土器)が検出されていることから、調査区域外の北東側に同時期の遺構が展開するものと予測される。本住居跡はその一端をなすといえよう。

規模は5.8×4.2mの北々東に長軸を持つ隅丸長方形を呈し、壁高も約40cmを測る比較的良好な遺存状態といえよう。ただし、北側壁は近～現代の抜根のため大きく攪乱されており、また南側壁は調査時の不手際から検出にとまどり若干過掘状態である。よって図はセクションと調査時の所見により過掘部分を修正した。また、南西壁には浅い土坑が重複しているが、無遺物で有機的な土坑ではなく、新旧関係も本住居跡が切る。

床面は中央部分が僅かに凹むものの、ほぼ平坦で貼床を持つ。掘り方にローム塊を多量に含む褐色土を埋め、上面が踏み固められている。炉周辺と東側壁にかけて硬化面が認められた。

炉は床面北西部で検出された。長軸を住居跡と一致させ北々東に向く。1号住とはほぼ同様に自然礫を炉石として、さらに深鉢を埋置することによって構成され、上面に焼土粒や炭化物が認められた。炉石は掘り込みの内側の北側を開放して囲み、南側奥に土器を埋置する。また、炉のほぼ中央には偏平な自然礫を置き、安定を図っている。該期の炉施設としては非常に良好な状態といえよう。

主柱穴はPit 1～4が配置・規模からその蓋然性が強い。その他では、Pit 5・6は大きさが良好なことから、補助柱穴として捉えられる。また、Pit 7～10はPit 1と併せて、3号住のPit 7～12と類似しており、近縁性を指摘しておきたい。上屋の構成として、炉の直上に棚のような施設を考えることも可能である。東側と西側壁下の小Pitは壁柱穴として位置付けられよう。

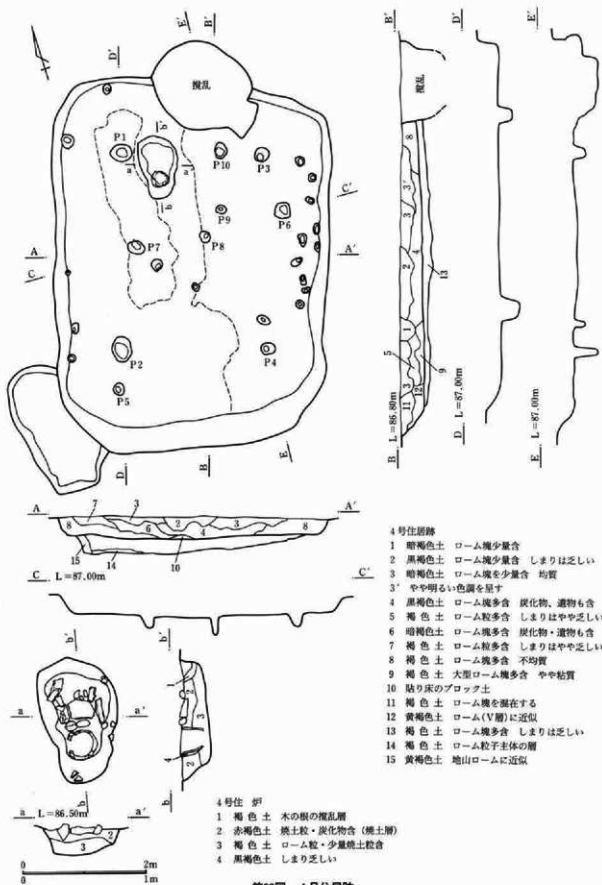
土層は黒～暗褐色土を基調として、ローム塊を含

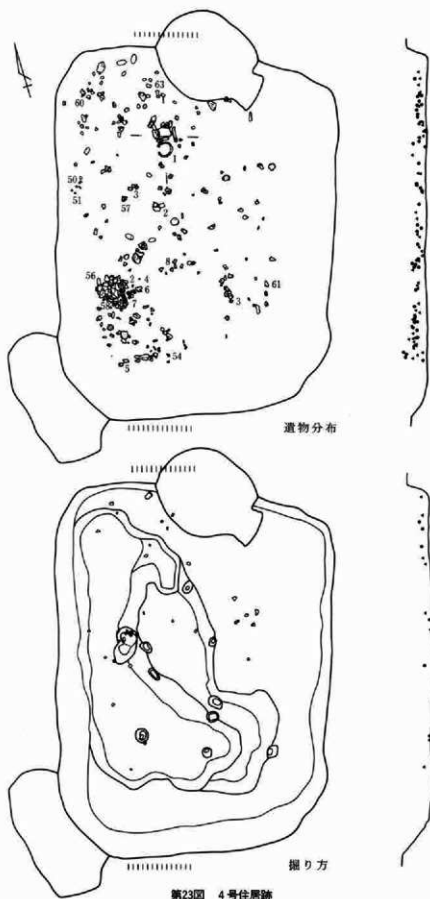
むものの自然堆積状態を呈す。

遺物は非常に多く、床直・直上の出土が主体であり良好な出土状態といえよう。また、掘り方下面からは、剥片類が集中して出土した。接合関係は認められなかったが、偶然性にその要因を求めることはできない。今後の検証が必要だろう。

1は炉内埋置土器である。口辺部が外反する深鉢で、胴部下半は丸みを帯びる。器面全面が過熱のため荒れてるが、0段3条のLR・RLによる羽状縄文が施される。内面も著しく荒れており剥落している箇所もある。2は南東隅の床直から、4・6・7などとまとまって出土した。折り返し口縁で、バケツ型の器形を示す。器面は荒れており、全体の2分の1以上が欠損している。羽状縄文を施し、口唇部にまで及ぶ。図反対面に補修孔を穿つ。3は小型の深鉢で、胴部下半および上半の3分の2を欠損する。緩やかな波状口縁を呈し、直線的に底部に至るのであろう。あるいは尖底かもしれない。4も恐らく尖底の深鉢であろう。器面は荒れ、疎らな羽状縄文を施す。5は平底の底部破片である。結節羽状縄文を施し、菱形の効果を見せる箇所もある。6は胴部上半に大きく膨らみを持つ深鉢で、頸部に2条の隆線を平行させる。隆線は恐らく4単位に瘤状の突起でまとまり、この隆線に沿って爪形状の刻み目が平行する。該期の土器群にはあまり例がない文様要素であり、今後の類型増加を待ちたい。7は緩やかな外反を見せる口縁部に内屈する口唇部を持たせる。2と近似する器形であるが、全体に直立気味である。底部を欠損し、全体の2分の1の残存だが、器面全体をLR縄文の2連短足ループが施される。8は緩やかな波状口縁で頸部までの大型破片。3条の燃糸圧痕による蕨手状のモチーフが特徴的である。また、頸部括れ部の平行隆線には円形の貼付文が付きされる。薄手の器厚である。9～17は羽状縄文構成の口縁部破片。11～15は結節第1種である。18は刺突文、19・20は燃糸圧痕文の文様要素である。21は渦巻状の、22には円形の貼付文が施される。23～29は横位隆線に燃糸圧痕文という文様構成である。30～33

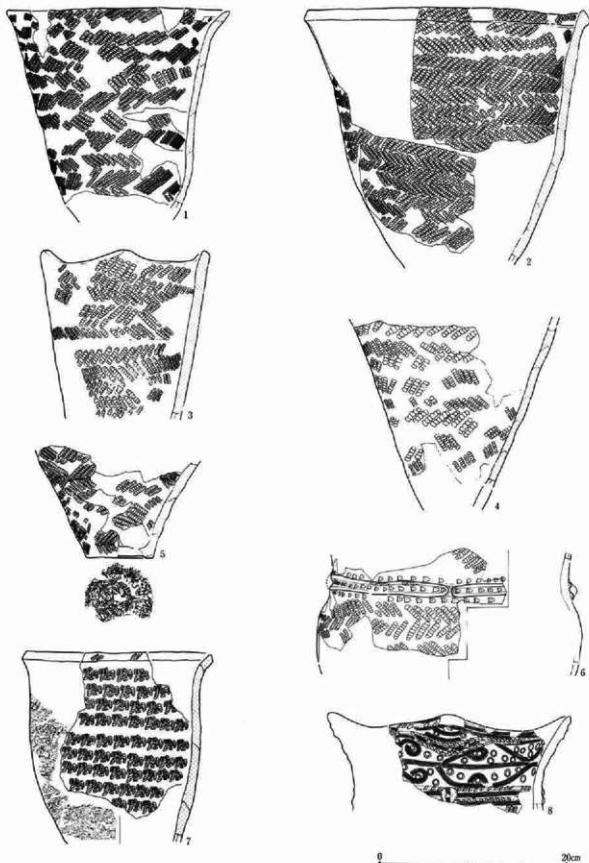
II 検出された遺構と遺物



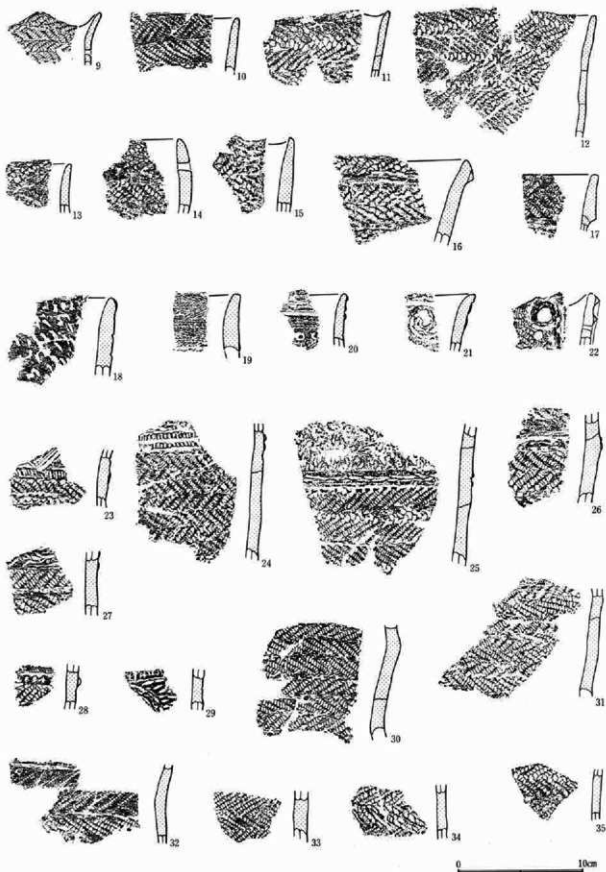


第23図 4号住居跡

II 検出された遺構と遺物

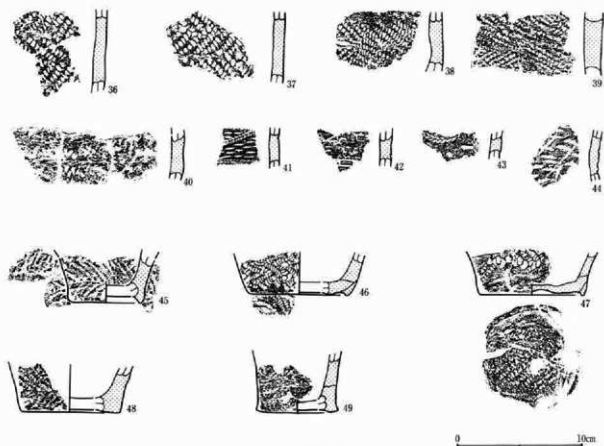


第24図 4号住居跡出土土器



第25図 4号住居跡出土土器

II 検出された遺構と遺物



第26図 4号住居跡出土石器

は羽状構成の胴部文様。原体幅は短く結節を持たない。34の羽状下位は付加条であろう。35～37は0段3条の羽状縄文。38は多条。39は菱形の効果を見せる羽状構成である。40は羽状構成。摩擦が著しい。41～44は燃糸圧痕文と刺突文が施される。45～49は平底の底部を集めたが、いずれも小径で上げ底気味である。

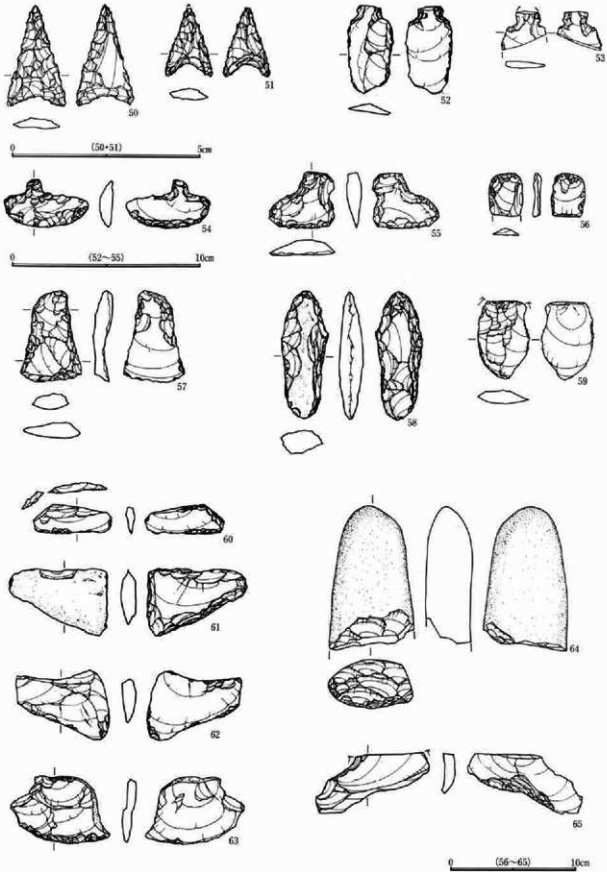
石器の出土量も多いが、磨石類が少なく図示に至らなかった。石器組成として、偏った傾向を示しており問題は残る。

50・51は完形の石鏃で、両者ともチャート製。50は片面に古い剝離面を残す。横長剥片を素材とする。51は対称的に入念な調整を施している。石匙は4点が出土している。52・53は黒色頁岩製の縦長剥片を素材とする。52は側縁に僅かな調整を施し、53もつまみ部以外の調整は雑である。粗製の石匙であろう。反面、横長剥片を素材とする54・55は丁寧な調整を

加えており、54は凸刃・55は直刃を呈する。いずれも黒色頁岩製。56は小型の打製石斧の頭部と判断した。57は撥形の打製石斧。湾曲した縦長剥片を素材とし、調整は片面に集中する傾向を見せる。58～63にスクレイパーを集めたが、58は石槍状の形態を呈する。横長剥片を素材とする。59は縦長剥片の左側縁の上下を表裏交互に加工を加えている。60～63は横長剥片端部を刃部とし直刃(60)・凸刃(62)など数種類の系統を見せる。61・63は横長の台形状の剥片を素材とし、端部に調整を加え刃部を作り出している。64はスタンプ形石器に類似する礫器。半割した自然石端部に調整を加えるが、明瞭な敲打痕などはなく礫器とした。用途はスタンプ形石器に共通するものがあるだろう。

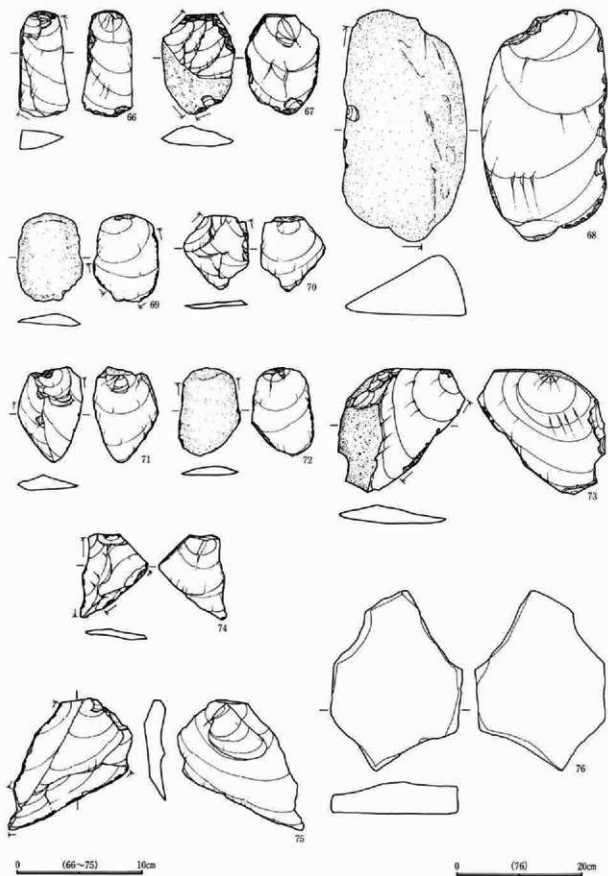
加工痕を持つ剥片石器として65～68、使用痕を持つ剥片石器は69～75を挙げた。すべて黒色頁岩製である。また、台石片として76を図示した。

2. 縄文時代の遺構と遺物



第27図 4号住居跡出土石器

II 検出された遺構と遺物



第28図 4号住居跡出土石器

2. 縄文時代の遺構と遺物

出土遺物としては、竪穴底面中央よりやや西より大型の深鉢が破片状態でまとまって出土している。加曾利E 3式であり、本遺跡の中期唯一の完形土器である。内傾する口辺部下に胴部上半の膨らみを持たせ、緩やかに底部にいたる。口辺部下端に凹線が横位に施され、胴部は縦位RL縄文が施される。

(4) 埋設土器

2号埋設土器

C-2Grに位置する。東約6mに4号住、北約2mに288号土坑が近接する。後述する3号埋設土器は4号住を挟んで東に約12mに位置する。

2号埋設土器は288号土坑平面プラン検出中に、包含層として捉えられるIV層上面より、掘り込みを持たず、2個体の深鉢が破片状態で一括出土したもので、周辺には微量の炭化物が認められたが焼土等はないことから、屋外の施設としては積極性を持たず包含層中の一括出土としての認識が妥当であろう。

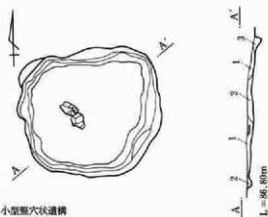
出土土器は2個体であり、両方とも花積下層式期の所産である。第30図2埋-1は胴部上半に大きく膨らみを持たせる特異な器形で、下半にかけて径は極端に小さくなる。口～頸部と底部を欠損する。器面全面を0段多条のLR・RL縄文で結節羽状構成で覆う。2埋-2は口辺部が僅かに開く小型の深鉢で、底部を欠損する。0段3条のLR・RL縄文で羽状構成であるが、若干原体幅が長い。

3号埋設土器

北東の緩傾斜面のE-2Grに位置する。西2mに4号住が近接する。

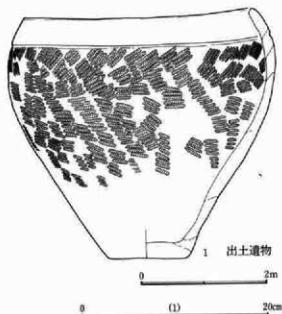
3号埋設土器は掘り込みを持ち、前述した2号埋設土器とは性格を異にすると考えられよう。屋外施設として、4号住などとも関連が想起される。ただし、覆土は褐色土を主体としており、焼土・炭化物は認められなかった。掘り込みは深さ40cm程の浅い土坑であり、土器は上面に斜位に設けられていた。

土器(30図3埋-1)は口唇部に刻みを施す隆線を付し、器形は口径と胴径の差が少ない直胴形の深鉢で、底部と胴上半の2分の1を欠損する。口唇部以下は0段多条のLR・RL縄文を羽状に施す。



小型竪穴状遺構

- 1 鈍黄褐色土 ローム地塊状含 炭化物少量含
- 2 黄褐色土 ローム粒多含 炭化物少量含
- 3 褐色土 ローム粒少量含



第29図 小型竪穴状遺構

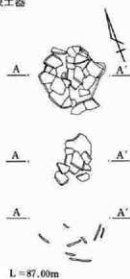
(3) 小型竪穴状遺構

I区東端部のV・W-11Grに位置する。東南に234号土坑が近接する。調査時は縄文不明遺構として判断され、整理段階においてもその性格は判然としない。よって、とりあえず小型竪穴状遺構として、用途不明のまま報告する。

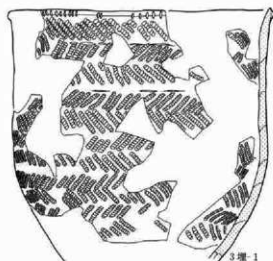
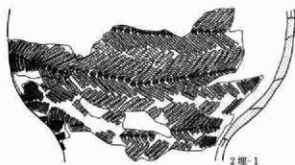
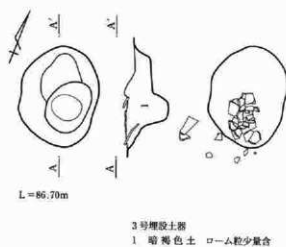
平面形は1辺約2mの隅丸方形を呈し、壁高は著しく浅く遺存度は低い。壁に沿って周溝が巡り、この壁溝の存在で全体形状が把握できる。竪穴底面は凹凸が激しく全体に軟弱である。ただ、数箇所に硬化面が認められ、また中央の出土土器により、本遺構が有機的な遺構としての立場を物語る。

II 検出された遺構と遺物

2号埋設土器



3号埋設土器



第30回 埋設土器(2号・3号)

5) 土 坑

本遺跡では総計37基の土坑が検出された。内訳は陥穴6基・集石を伴う土坑5基・その他26基である。このうち、陥穴は赤堀町下輪牛伏遺跡で25基・前橋市飯土井二本松遺跡15基が検出されており、当地域の陥穴の様相を把握する意味で、本遺跡の陥穴群も上記の遺跡と等質の評価を与えなければならない。ここでは冒頭に陥穴を列挙し、その後調査時の遺構番号順に述べていきたい。

(202号土坑)

I区P-9・10Grに位置する。北西1mに211号土坑、東4mに217号土坑が近接する。長軸を北西に持ち、隅丸長方形の平面形を呈する。規模は上面で2.0×1.4mで、確認面から坑底面までの深さは約1.6mを測る。断面形は漏斗状を呈し、坑底面はほぼ平坦である。坑底面中央に不整形の小Pitを穿つが、土層観察では坑痕は確認されなかった。

(214号土坑)

I区Q-6・7Grに位置する。他の陥穴とはやや距離を保ち、南約13mに215号土坑・南東約10mに220号土坑が認められる。本土坑は調査区北壁に接するため、区域外に他の陥穴が存在し、一群を為すかも知れない。長軸を西に持ち、楕円形の平面形を呈する。規模は上面で2.4×2.0m、深さ約1.5mを測る。南東部を近世土坑に重複されている。坑底面はほぼ平坦で、中央に小Pitを設ける。小Pit内より自然礫が出土したが土坑埋設時の流れ込みと判断した。

(215号土坑)

I区P・Q-8Grに位置する。北東約8mに220号土坑・南約8mに219号土坑が認められる。西方向に長軸を持ち、平面形は上面2.2×1.4mの不整形円形を呈し、深さは約1.4mを測る。また坑底面の平面形は方形を呈し、上面との差は崩落によるものと捉えられよう。坑底面中央には小Pitが設けられる。

(217号土坑)

I区Q-9Grに位置する。北約4mに219号土坑が同軸で隣接し、関連性を窺わせる。長軸を西に持ち、平面規模は上面1.9×1.3mで西辺がやや丸みを帯びる

ものの隅丸長方形を呈する。深さは約1.5mを測る。東側に近代の複乱坑が重複するが浅い。坑底面形態も方形で東側に傾斜し、中央に小Pitが設けられる。土層も比較的均質な安定した自然堆積状態を呈する。壁等の崩落は少なかったと思われる。

(219号土坑)

I区Q-9Grに位置する。前述の217号土坑が南に隣接する。長軸を西に持つ。平面規模は2.0×1.8mで上面平面形は不整形円形だが、坑底面は1.2×0.8mの長方形を呈し、著しい壁崩落を窺わせる。深さは約1.5mを測る。坑底面は僅かに中央部に向かって傾斜し、中央部にはやや大きめの小Pitが設けられ、小型の自然礫が出土している。

(220号土坑)

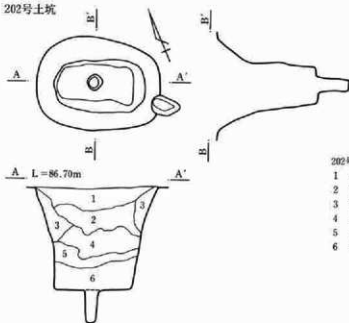
I区Q・R-7・8Grに位置する。南西約8mに215号土坑が認められているが、距離を保つといえよう。長軸を西に持ち、平面規模は1.9×1.6mの南辺が円弧を描く不整形長方形を呈する。深さは約1.6mを測り、坑底面はほぼ平坦である。坑底面の平面形は1.1×0.4mの長方形を呈し、上面形態との差は壁崩落を示唆し、特に南から東辺の壁に著しく認められよう。坑底面の中央よりやや南側に小Pitが設けられる。

以上のように、本遺跡で確認した陥穴6基を概観したが、共通点として

- 1 坑底面の小Pitは1箇所のみである。他の遺跡では対になるような2ヶであったり、複数設けられる例も認められており、単穴のみの陥穴群として本遺跡の特性を捉えられよう。
- 2 平面形態・深さに一定の方向性が認められる。概ね、隅丸長方形を基調として、深さ1.5m前後の規模を基準としているようだ。
- 3 長軸は北西及び西方向を基準とする。おそらく労働対象物に左右されたものと考えられるが、縁辺の傾斜地への立地ではなく台地中央部分の立地である。陥穴の長軸も鹿・猪といった対象物の通り道に沿った設定の結果であろうと考えられる。

II 検出された遺構と遺物

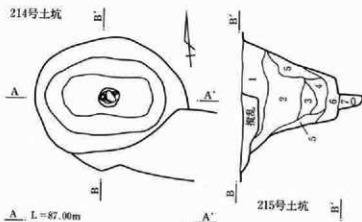
202号土坑



202号土坑

- 1 黄褐色土 白色粒・小型ローム塊微量含
- 2 鈍黄褐色土 白色粒・ローム塊斑状含
- 3 鈍黄褐色土 白色粒・黒褐色土塊斑状多含
- 4 黒褐色土 ローム塊斑状多含
- 5 鈍黄褐色土 軟質
- 6 鈍黄褐色土 ローム粒多含 軟質

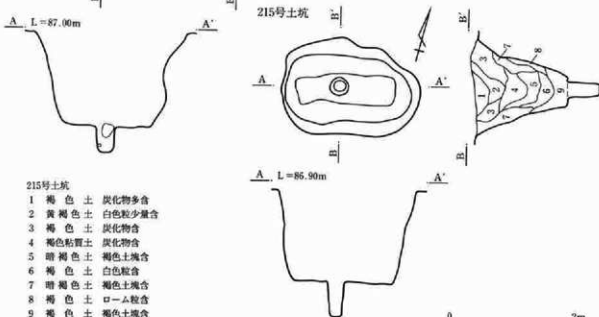
214号土坑



214号土坑

- 1 褐色土 白色粒・黄色粒・炭化物粒多含
- 2 暗褐色土 1層塊状土多含
- 3 暗褐色粘質土 白色粒少量含
- 4 褐色粘質土 白色粒含 硬質
- 5 暗褐色土 褐色土塊含
- 6 褐色粘質土 褐色土塊含
- 7 褐色土 軟質 褐色土粒含

215号土坑



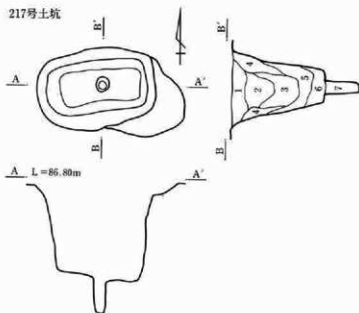
215号土坑

- 1 褐色土 炭化物多含
- 2 黄褐色土 白色粒少量含
- 3 褐色土 炭化物含
- 4 褐色粘質土 炭化物含
- 5 暗褐色土 褐色土塊含
- 6 褐色土 白色粒含
- 7 暗褐色土 褐色土塊含
- 8 褐色土 ローム粒含
- 9 褐色土 褐色土塊含

0 2m

第31図 土坑(陥穴)

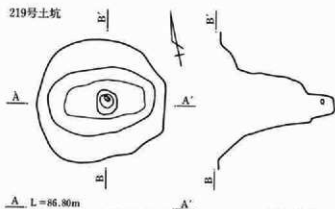
217号土坑



217号土坑

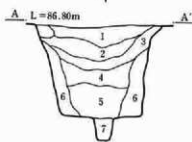
- 1 暗褐色土 炭化物含
- 2 褐色土 褐色土塊含
- 3 暗褐色土 褐色土塊含
- 4 褐色土 白色粒含
- 5 黄褐色土 やや粘質
- 6 褐色土 やや粘質
- 7 褐色土 ローム粒含

219号土坑

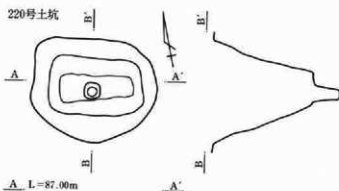


219号土坑

- 1 褐色土 白色粒含 均質
- 2 褐色土 均質
- 3 黄褐色土 白色粒含
- 4 褐色土 均質
- 5 褐色土 均質 しまり乏しい
- 6 黄褐色土 白色粒含
- 7 褐色土 ローム粒含

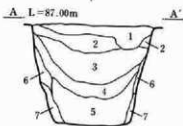


220号土坑



220号土坑

- 1 褐色土 均質
- 2 褐色土 ローム粒多含
- 3 暗褐色土 ローム粒少含
- 4 褐色土 ローム粒多含
- 5 褐色土 均質
- 6 黄褐色土 均質
- 7 褐色土 均質



0 2m

第32図 土坑(陥穴)

II 検出された遺構と遺物

その他の土坑

(140号土坑)

I区K-L-7Grに位置する。西1mに195号土坑が隣接。近世遺構との重複のため土層観察は十分とはいえないが、均質な覆土の様子から縄文時代の所産と判断した。径約1.4mのほぼ円形の平面径を呈し、深さも約0.9mを測る。断面形は中位に段を持つ形態である。坑底面は平坦で径0.8mの円形を呈する。遺物は花積下層式期の土器片1点が出土。

(195号土坑)

I区K-7Grに位置する。前述の140号土坑が東に隣接し、近世の溝と重複するが、溝は浅く本土坑の遺存に影響は少ない。2.0×1.2mの楕円形を平面形とし、深さは約0.5mを測る。断面形は浅い皿状で坑底面に若干の凹凸を持つ。

(203号土坑)

I区P-9Grに位置する。北東に216号土坑が約3mに近接する。小型の不整形円形を呈し、小Pitが重複する。深さは約0.3mを測り比較的しっかりした掘り込みである。

(211号土坑)

I区P-9Grに位置する。小型の不整形円形を呈する小Pit状の土坑で浅い。覆土中より剥片が出土したため縄文時代の所産としたが、疑問は残る。

(212号土坑)

I区Q-7・8Grに位置する。不整形円形状の土坑である。坑底面も不連続で有機的な土坑ではない。

(213号土坑)

I区P-6Grに位置する。陥穴の214号土坑が南西に近接する。小型の円形を呈し、深さは約0.2mを測る。掘り込みは比較的しっかりしている。

(216号土坑)

I区P-6Grに位置する。南東に202号土坑が近接する。径約1.4mの不整形円形を呈し、深さは約0.5mを測る。掘り込みは比較的しっかりしているが、坑底面は明瞭な平坦部を持たず、緩やかに立ち上がる断面形態である。遺物は黒曜石製の石鏃が覆土上層より出している。平基鏃で丁寧な調整を施す。

(218号土坑)

I区Q-10Grに位置する。周辺に217号土坑・202号土坑という陥穴が近接する。1.6×1.5mのほぼ円形を呈し、深さも約0.9mと良好な遺存状態を示す。断面形も方形でしっかりした掘り込みである。集石土坑ではあるが、集石は覆土下位から坑底面にかけて密集し、また、東西の壁よりに集中する特徴を持つ。礫はほとんどが火熱を受けた痕跡を持つ粗粒安山岩の自然石で、他に多孔石1点が出土している。

(221号土坑)

I区P-7Grに位置する。土坑上面を近代の遺構に攪乱されており、明瞭な平面形などを把握できない。図示した2ヶのPitはおそらく土坑下位の落ち込みと判断され、同一の遺構である。周辺には自然礫が散布しており、攪乱前は集石土坑であった可能性も考えられよう。

(224号土坑)

I区K-5Grに位置する。1.3×1.2mの不整形円形を呈すが、2基の土坑の重複と捉えられる。深さは0.5mを測りしっかりした掘り込みである。坑底面は僅かな凹凸が認められるものの平坦である。

(225号土坑)

I区K-4Grに位置する。2.8×2.0mの隅丸長方形を呈し、深さは0.4mを測る。この土坑も重複が考えられ南西に不整形の落ち込みが重なる。坑底面は凹凸が多く緩やかな立ち上がりを示す。

(227号土坑)

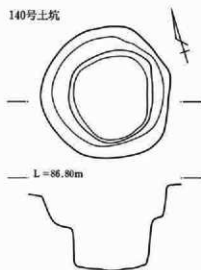
I区T-8Grに位置する。径約0.8m程の小型円形土坑で旧石器試掘時に確認された土坑である。恐らく上面径は1m以上の規模を持つものと思われる。坑底面は皿状で緩やかな立ち上がりである。

(228号土坑)

I区R-11Grに位置する。229号土坑・231号土坑と近接し、列をなすが柱穴列ではない。平面形は径1.1mの円形を呈し、深さは0.3mを測る。坑底面は西側に若干傾斜するがほぼ平坦で、掘り込みもしっかりしている。覆土中より土器細片と石器剥片が出土したが、本土坑の性格を裏付けるものではない。

2. 縄文時代の遺構と遺物

140号土坑



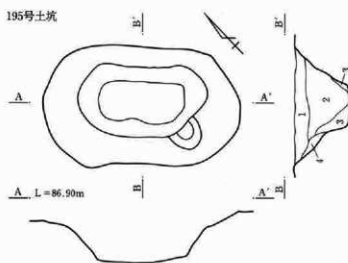
203号土坑



211号土坑



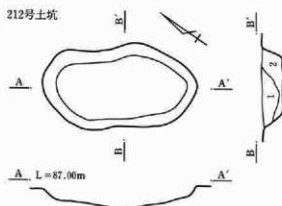
195号土坑



195号土坑

- 1 暗褐色土 若干砂質
- 2 暗褐色土 白色粒微量含 粘性強い
- 3 暗褐色土 ローム粒含 粘性強い
- 4 黄褐色ローム塊

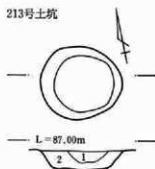
212号土坑



212号土坑

- 1 暗褐色土 白色粒・黄色粒多含
- 2 褐色土 暗褐色土塊多含

213号土坑



203号土坑

- 1 褐色土 ローム粒少量含
- 2 暗褐色土 均質 白色粒少量含
- 3 暗褐色土 ローム粒多含
- 4 黄褐色土 ローム塊主体

213号土坑

- 1 暗褐色土 白色粒・黄色粒多含
- 2 褐色土 暗褐色土塊含

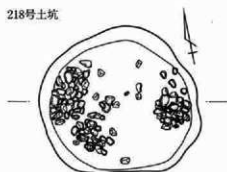
0 (140号坑-1) 10cm

0 2m

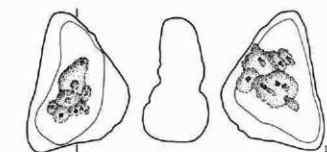
第33図 土坑及び出土遺物

II 検出された遺構と遺物

218号土坑



L = 86.70m



218号土坑

- 1 褐色土 ローム塊・暗褐色土塊状多含
- 2 暗褐色土 ローム粒・炭化粒少量含
- 3 暗褐色土 大型ローム塊多含 軟質土
- 4 褐色土 ローム粒少量含 粘性有
- 5 黄褐色土 硬質ローム塊
- 6 褐色土 ローム粒・炭化粒少量含
- 7 褐色土 ローム粒主体 壁刷痕土
- 8 黒褐色土 小型ローム塊多含
- 9 黒褐色土 ローム粒・炭化物含

216号土坑



L = 86.80m

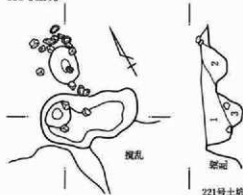


216号土坑

- 1 暗褐色土 白色粒多含
- 2 褐色土 暗褐色土塊含



221号土坑



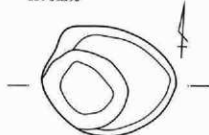
L = 86.80m



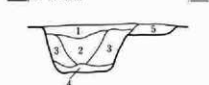
221号土坑

- 1 褐色土 白色粒・ローム粒含
- 2 黄褐色土 褐色土・ローム粒含
- 3 褐色土 ローム粒多含

224号土坑



L = 87.00m



224号土坑

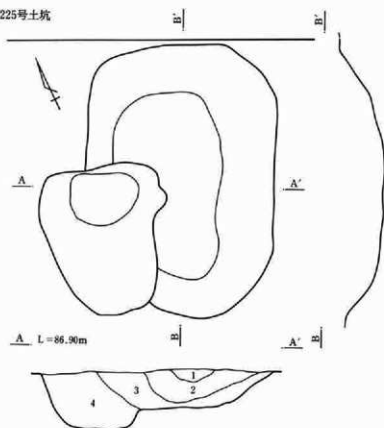
- 1 褐色土 ローム粒含
- 2 褐色土 白色粒含む
- 3 黄褐色土 2層に似るがやや明色
- 4 黄褐色土 均質
- 5 黄褐色土 均質 しまり弱いがローム土

0 (218坑-1) 20cm

第34図 土坑及び出土遺物

2. 縄文時代の遺構と遺物

225号土坑



225号土坑

- 1 暗褐色土 炭化・焼土粒少量含
- 2 黒褐色土 白色粒・ローム粒含
- 3 褐色土 ローム粒多含
- 4 黄褐色土 軟質ローム 地山か

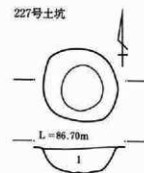
227号土坑

- 1 褐色土 白色粒・ローム粒含

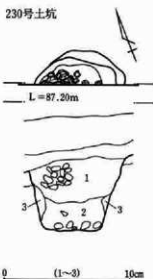
230号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒含む
- 2 褐色土 褐色土塊含
- 3 褐色土 白色粒含

227号土坑



230号土坑



228号土坑



228号土坑

- 1 黄褐色土 ローム塊多含
- 2 鈍黄褐色土 ローム塊多、炭化粒少量含
- 3 鈍黄褐色土 ローム粒・白色粒含
- 4 黄褐色土 白色粒含



第35図 土坑及び出土遺物

II 検出された遺構と遺物

(229号土坑)

I区S-11Grに位置する。231号土坑と密接する。土坑南半は調査区域外に求められ、今回の調査は北半分を検出することになった。おそらく径約1.2m程度の円形の土坑であろう。深さは掘り込み面からは約0.9mを測り、良好な遺存状態といえよう。遺物は縄文土器片を覆土上層より検出した。すべて諸磯b式期に比定され、本土坑の性格を考える上で参考となる資料である。

(230号土坑)

I区S-11Grに位置する。南半は調査区域外になるため、北半のみの検出にとどまった。おそらく円形の集石土坑であろう。深さは約0.7mを測る。集石は覆土上層の一群と坑底面の一群とに分けられ、集石の使用が多時期にわたった事を物語る。集石は殆どが焼礫で構成され、すべて粗粒安山岩製である。

(231号土坑)

I区R-11Grに位置する。前述の228・229号土坑と一群をなす。1.2×1.1mの不整形を呈し、深さは0.4mを測る。土層軸を坑底面突出部に設けたが、断面形態は全体に袋状を呈する。坑底面は中央部にかけて僅かに凹む。出土土器は縄文土器細片が覆土中位より検出された。諸磯b式に比定される。

(232号土坑)

I区V-12Grに位置する。旧石器試掘時に壁断面において確認されたため、半掘調査にとどまった。小型の不整形円形を呈し、深さは約0.5mを測る。傾斜地に立地しながらも坑底面は平坦である。

(233号土坑)

I区T-9・10Grに位置する。旧石器試掘時に壁断面において確認されたため、半掘調査にとどまった。長楕円形の平面形を呈し、断面形は皿状をみる。

(234号土坑)

I区W-11Grに位置する。旧石器試掘時に試掘坑隅で確認された。故に上端の4分の1は推定線で図示した。恐らく径約1m程度の円形の土坑で、深さも0.7mを測る良好な遺存状態を呈す。坑底面は西南方向に傾斜し凹凸を見る。

(284号土坑)

II区B-4Grに位置する。周辺には1～3号住が近接し、これらの住居跡との関連性も重視される。土坑は重複しており、北側に浅い皿状の自然的な土坑が本土坑を切る。本土坑の規模は、径約1.6mの不整形円形を呈し、深さも0.7mを測る良好な遺存である。断面形態は西側にかけて段を持ち、坑底面が平坦な形態である。遺物は覆土上層から中層にかけて自然礫と土器片が出土した。土器は花積下層式期に比定され、周辺の住居跡との関連を窺わせる。

(285号土坑)

II区B-2Grに位置する。II区台地部分のほぼ中央に位置する箇所であり、周辺には286～288号土坑や2号埋設土器が分布する。平面規模は1.6×1.3mの不整形を呈し、深さは0.4mを測る。断面形は東西では方形を呈するが、南北方向では若干袋状を呈し坑底面も平坦ではない。このように土坑形状からは、人為的な有機性は認められないが、覆土上層から中層にかけて、深鉢の大形土器片と多孔石・使用痕を持つ剥片石器が出土している。土層は褐色土の塊状土が主体となっており、人為的な埋土として捉えられる。ただし、本土坑の性格を確定付ける作業は類似資料の蓄積を待って行うべきであろう。

(286号土坑)

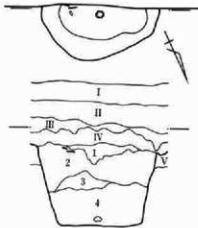
II区C-2Grに位置する。1.5×1.3mの不整形円形を呈する。深さは0.4mを測り掘り込みはしっかりしている。小Pitと重複し、新旧は把握できなかった。坑底面は緩やかに窪み、なだらかな立ち上がりを見せる。遺物は花積下層式期の土器細片・凹石・加工痕を持つ剥片石器・および破砕された自然礫が出土している。いずれも覆土上層から中層にかけての出土である。

(287号土坑)

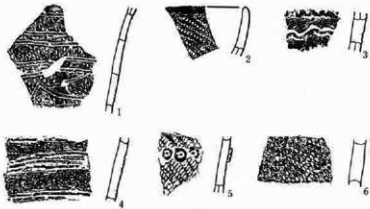
II区C-2Grに位置する。288号土坑・291号土坑が近接する。径約0.9mの円形を呈し、深さは0.8mを測る。小Pit状の土坑だが、覆土上層から中層にかけて遺物の出土を見る。土器細片は花積下層式期に比定され、石器は加工痕を持つ剥片石器である。

2. 縄文時代の遺構と遺物

229号土坑



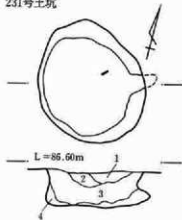
L = 87.60m



229号土坑

- 1 褐色土 軟質
- 2 褐色土 褐色土塊含
- 3 鈍黄褐色粘土 白色粒・ローム塊含
- 4 鈍黄褐色土 白色粒・炭化粒・ローム塊含

231号土坑



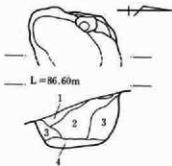
L = 85.60m



231号土坑

- 1 鈍黄褐色土 軟質 白色粒少量含
- 2 褐色土 炭化物・白色粒少量含
- 3 鈍黄褐色土 硬質 ローム塊含
- 4 鈍黄褐色土 軟質 ローム塊含

232号土坑

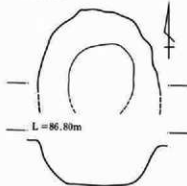


L = 86.60m

232号土坑

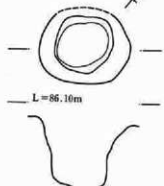
- 1 褐色土 軟質
- 2 暗褐色土 ローム塊含
- 3 褐色粘質土 硬質
- 4 黄褐色粘質土 硬質 ローム塊含

233号土坑



L = 86.80m

234号土坑



L = 86.10m

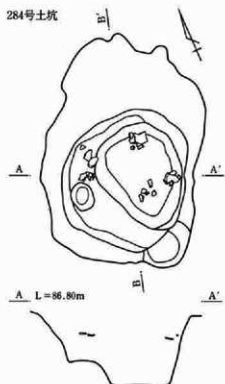
0 10cm

0 2m

第36図 土坑及び出土遺物

II 検出された遺構と遺物

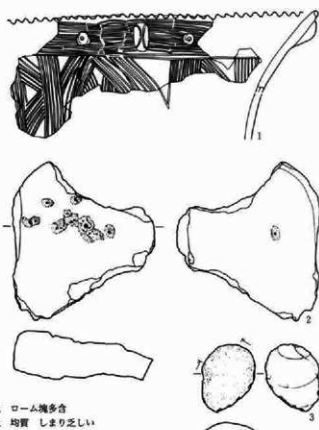
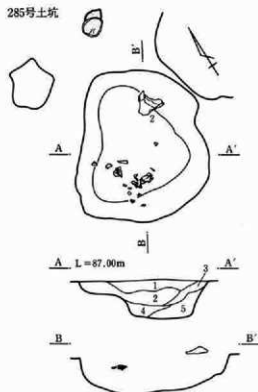
284号土坑



284号土坑

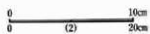
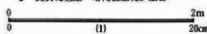
- 1 暗褐色土 黒味を帯びる
- 2 褐色土 炭化物含 均質
- 3 鈍黄褐色土 ローム塊主体の層
- 4 暗褐色土 ローム塊多、炭化物少量含
- 5 黄褐色土 大型ローム塊多含
- ① 暗褐色土 均質 ローム塊含
- ② 褐色土 小型ローム塊多含

285号土坑



285号土坑

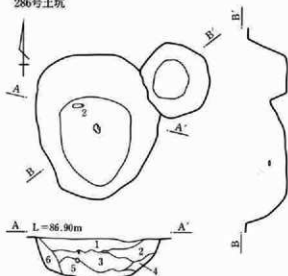
- 1 褐色土 ローム塊少量含
- 2 鈍黄褐色土 暗褐色土塊少量含
- 3 鈍黄褐色土 ローム塊多含
- 4 黄褐色土 均質 しまり乏しい
- 5 黄褐色土 均質



第37図 土坑及び出土遺物

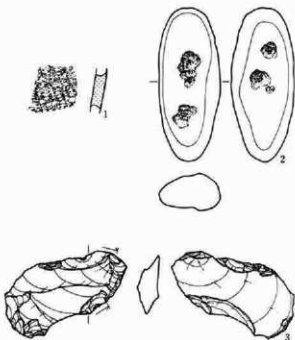
2. 縄文時代の遺構と遺物

286号土坑

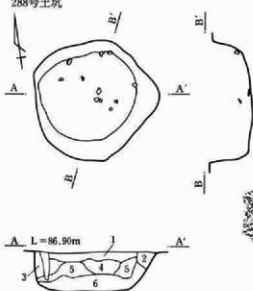


286号土坑

- 1 暗褐色土 炭化物・白色粒少量含
- 2 褐色土 暗褐色土塊・ローム塊含
- 3 暗褐色土 ローム塊・黒褐色土塊・炭化物含
- 4 褐色土 ローム粒子多含 均質
- 5 褐色土 4層よりやや暗い ローム塊多含
- 6 鈍黄褐色土 ローム粒多含

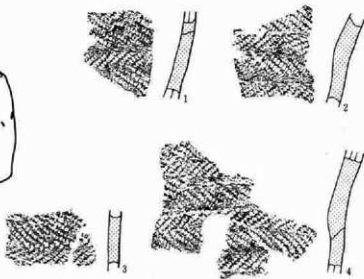


288号土坑



288号土坑

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 暗褐色土 ローム塊含 | 4 黒褐色土 炭化物少量含 比較的均質 |
| 2 褐色土 大型ローム塊含 | 5 黒褐色土 ローム粒含 比較的均質 |
| 3 暗褐色土 ローム塊多含 | 6 黒褐色土 ローム塊多含 |



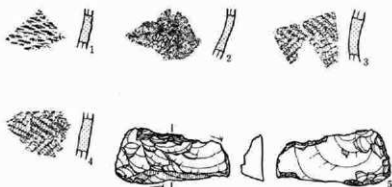
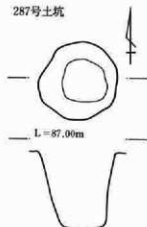
0 2m

0 10cm

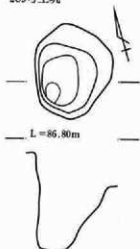
第38回 土坑及び出土遺物

II 検出された遺構と遺物

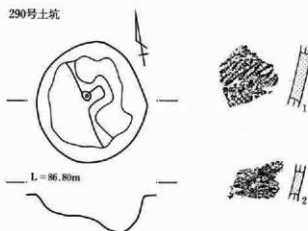
287号土坑



289号土坑



290号土坑



0 10cm

0 2m

第39図 土坑及び出土遺物

(288号土坑)

II区C-2Grに位置する。2号埋設土器と近接する。1.3×1.1mの不整形を呈し、深さは約0.4mを測り掘り込みもしっかりしている。坑底面は緩やかに窪み、立ち上がりは東南壁以外は直立気味である。遺物は覆土下層から坑底面にかけて花積下層式期の土器片が数点出土した。1・2・4は同一個体であろう。また、4号住30・31とも類似しており、同種の土器群として位置付けられる。

(289号土坑)

II区B-4Grに位置する。2号住と重複し、新旧関係は不明である。径1.0×0.7mの不整形を呈し、1.0mの深さを測る。西側の壁は2号住の壁と一致し、あるいは2号住に伴う施設の可能性も指摘しておか

なければならない。

(290号土坑)

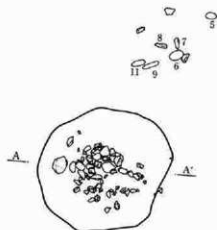
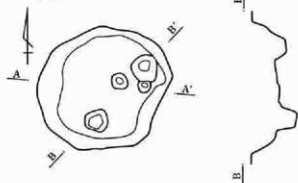
II区B-4Grに位置する。289号土坑の西に接して検出された。径約1.1mの不整形を呈し、深さは0.3mを測る。坑底面や立ち上がりも不連続である。遺物は上層より花積下層式期に比定される土器細片が出土した。

(291号土坑)

II区C-2Grに位置する。287号土坑・288号土坑と一群をなすものと思われる。集石土坑であり径約1.2m、深さ0.3mの不整形を平面形とする。坑底面は比較的連続だが、立ち上がりはしっかりしている。集石は殆どが焼燼で、覆土上層より出土した。花積下層式期の土器細片や剝片石器も混入するが主

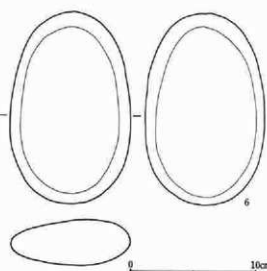
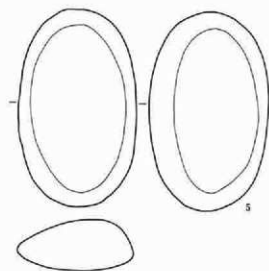
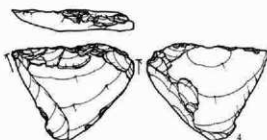
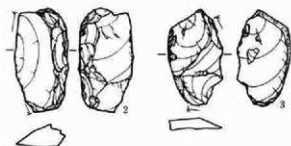
2. 縄文時代の遺構と遺物

291号土坑



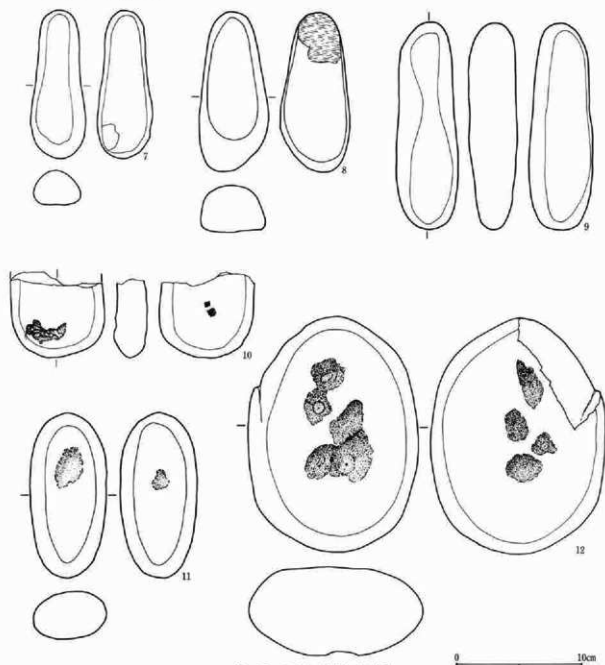
291号土坑

- 1 黒褐色土 炭化物・ローム粒少量含
- 2 褐色土 ローム塊多含
- 3 褐色土 大型ローム塊多含



第40回 土坑及び出土遺物

II 検出された遺構と遺物



第41図 土坑出土遺物 (291号)

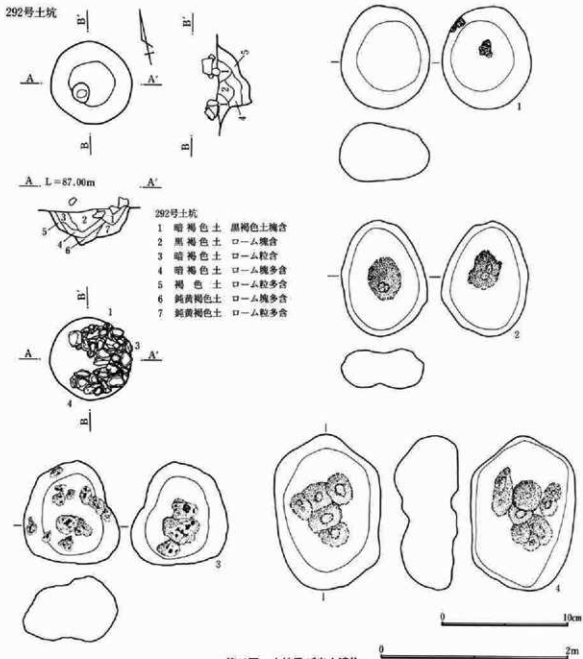
体となる遺物ではない。また、土坑外に北2mほどの距離を持って磨石や凹石がまとまって出土した。本土坑に密接に関連するかは判然としないが、磨石類の集中出土の例として注目されよう。

この291号土坑及び周辺の土坑の占地状況を見ると、明らかに住居跡との区分がなされていたものと考えられる。集落内の中央土坑群の存在は、縄文時代中期に顕著な現象だが、本遺跡に見られる前期におい

ても中期ほど大規模ではないが、居住域との区別により、土坑群が一定の場所に集中する傾向を取るのではないだろうか。今後該期集落の様相が明らかになるに従い、検証を加えていかなければならないだろう。

(292号土坑)

II区A-3Grに位置する。調査区西の傾斜上端部分に占地し、他の土坑とは距離を保つ。小型の集石土坑である。径約0.8mの円形を呈し、深さ0.4mを測



第42図 土坑及び出土遺物

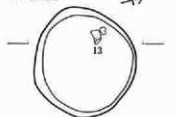
る。坑底面は不連続で凹凸が激しいが、立ち上がりはしっかりしている。集石の殆どは焼礫であり、凹石数点が混入していた。集石は覆土上層に集中し、西側を開放した「コ」字状に設けられている。殆どが粗粒安山岩製である。本土坑のような形態は他に類例がなく、時期的な検証も出土土器が認められないため言及できない。しかし、焼礫の存在、覆土内の炭化物の散布から、何等かの調理施設としての機能を想起することができよう。

(293号土坑)

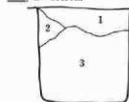
II区B-3Grに位置する。3号住北壁に接するよう
に検出された。本土坑が住居跡を切る。径約1.1m
の円形を呈し、深さも1mと深い。坑底面も平坦でし
っかりした作りである。出土遺物量も多く、花積下層
式期の土器片を見る。0段3条・多条の羽状縄文構
成で、原体幅は短い。また3は3号住1と同一個体
の可能性が高い。7は異系統か。縄文原体の圧痕で
はなく、貝殻背圧痕を施文している。8・9は無文

II 検出された遺構と遺物

293号土坑

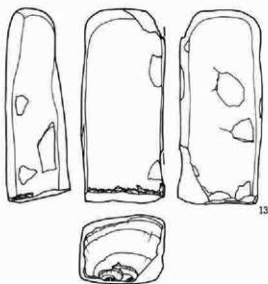
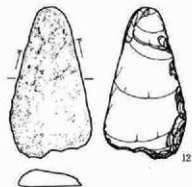
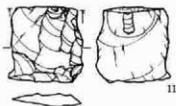
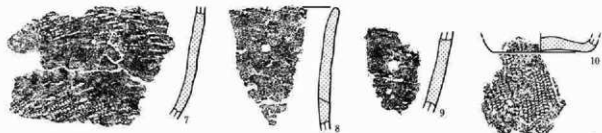
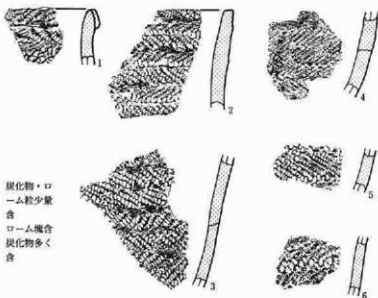


L = 86.90m



293号土坑

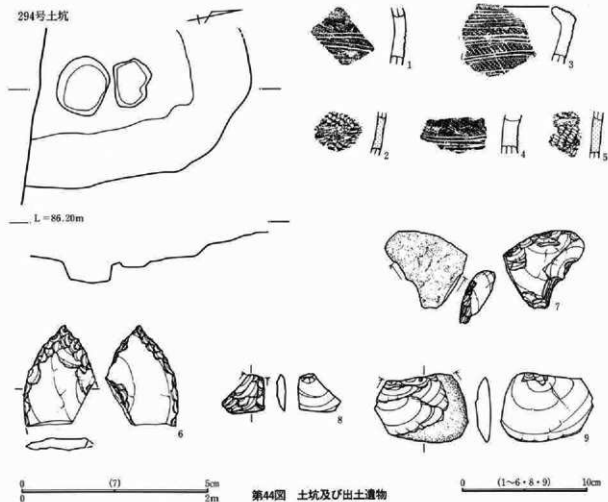
- 1 褐色土 炭化物・ローム粒少量含
- 2 褐色土 ローム塊含
- 3 暗褐色土 炭化物多く含



0 10cm

0 2m

第43図 土坑及び出土遺物



第44図 土坑及び出土遺物

の含繊維土器。おそらく花積下層式土器の組成に認められる一群として考えている。石器では剥片石器2点が覆土中層より、13の磨石類が坑底面直上から出土した。13は端部を打ち欠き、僅かながら加工を施す。磨石の再利用とも捉えられ、例えば1号住34の礫器との共通性も考えられよう。

(294号土坑)

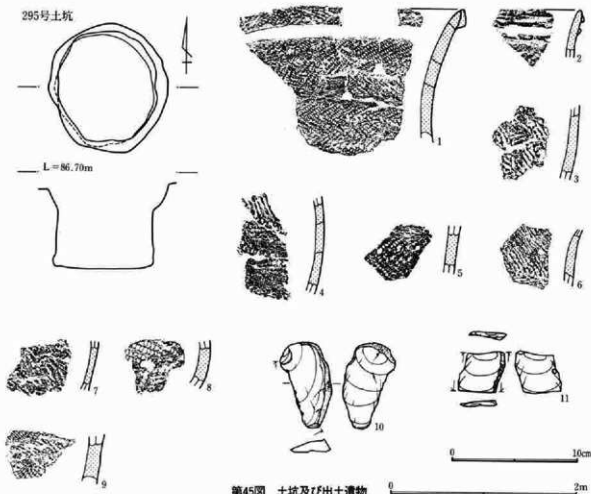
II区Y・A-4Grに位置する。調査区最西端で土坑南半が調査区域外に延びる。また、西壁は傾斜地のため削平されていた。大型の土坑で恐らく長楕円形を呈するものと思われる。立ち上がり、坑底面は不連続で、有機的な所産とは考えられない。坑底面で2ヶのPitを検出したが、いずれも浅く柱穴などではない。遺物は花積下層式や諸磯B式が混在して出土した。また石器は石鏃や剥片石器が出土した。石鏃はチャート製の横長剥片を素材とし、側縁を丁

窄な調整を施し、先端部を作り出している。あるいは未製品の可能性もある、また、本遺跡の石鏃の在り方から、粗製の石鏃も可能性として考えておく必要がある。なお、土器片も石器も流れ込みと考えられる。

(295号土坑)

II区A-3Grに位置する。294号土坑に近接する。上面径約1.3mの円形の平面形で、深さは0.9mを測る。断面形は僅かではあるが袋状を呈し、底面径は1.1mである。坑底面は平坦で、しっかりした立ち上がりを示す。遺物は花積下層式期の土器片が数点、使用痕を持つ剥片石器が2点出土している。1は折り返しの口縁部を持ち、口唇端部は尖り気味である。0段3条LRと0段多条RLの羽状縄文を施す。覆土下層より出土している。4・6は無節縄文Rを施す。使用痕を持つ剥片石器は黒色頁岩製の小型の縦長剥

II 検出された遺構と遺物



第45図 土坑及び出土遺物

片を素材とする。本土坑は他の土坑群とは距離を保つものの、1～3号住とは近接し、恐らく調査区域外南側に延びる該期遺構群の一端をなすものと位置付けられよう。

以上のように本遺跡の土坑の説明をしてきたが、I区では、近世～近代の遺構群との重複およびその段階での開発により、縄文時代の遺構群の多くは逸失した可能性が認められる。例えば、掘り込みの浅い傾向が常に認められる縄文時代後期の遺構は、出土遺物が検出されるものの、住居・土坑といった有機的な遺構は確認できなかった。I区は周辺の地形でも比較的広い台地平坦面を持ち、通常ならば集落跡や多数の土坑群が存在するのだが、本遺跡では残念ながら、古墳周廻や近世民家によって量的な把握に至らなかった。その中で、縄文時代前期の土坑は

掘り込みが深いものは遺存しており、良好な資料を提示している。また、時期的な断定はできないが、陥穴群も良好に検出された。前述しているが、その形態・設定方法に一定の基準が認められ、当地域の縄文時代の狩猟形態の一端を明らかにするものと確信している。

II区は馬の背状の狭小な台地ながら、住居跡と土坑群の意識的な配置が認められ、縄文時代前期の集落形態を把握するのに、良好な資料を示唆したことになる。II区の土坑は縄文時代前期が主体であり、前半の花積下層式期の所産の土坑と後半の踏磯b式期の土坑に分けられる。住居跡は花積下層式期に時期が求められており、土坑との積極的な関連が想起される。しかし、踏磯b式期の住居跡は確認されておらず、この時期の居住域の特定に興味を覚える。周辺の調査例の充実が望まれよう。

6) グリッド出土遺物

本遺跡から出土した縄文時代の遺物は住居跡などの遺構出土のもの以外に、IV層上面の遺物包含層や、古墳周堀や近世遺構の覆土・埋土から出土したものが多。ここでは、それらの遺物をグリッド出土遺物として扱い説明をする。遺物全体の観察は、巻末に表組みしているので参照していただきたい。なお、古墳周堀や近世遺構出土のものも、可能な限りその遺構の位置するグリッド名を付し、出土位置の傾向を探るものである。

土 器

前期から後期にかけての土器片をみる。II群からV群に比定され、I群、早期の土器は見られない。

II群（前期初頭）：46図1～48図79

花横下層式に比定される一群である。1～14は0段3条～多条のL・R・L縄文を斜位に施し、その結果、条が縦位となるものが多い。1・2は直立気味の口縁部で、折り返し状に肥厚する。1は0段3条のL・R・Lで縦位羽状縄文構成をとる。また、原体を縦位に施し、羽状ではなく菱形の構成を取るもの（5）も認められる。傾向として、これらの一群の器内は厚く、粗砂粒を混入する。14は横位施文の菱形構成である。15は付加条縄文の軸部無施文によるものか。17は尖底部。

18～32・66は口縁部以下に羽状縄文を施す例。ただ28だけは0段多条縄Lの閉端部を施文しており、羽状縄文ではない。18～21・25は口唇部が尖る。25は波状口縁である。22～24は口唇部上端に面を持つ。この上端面にまで縄文を施す例は29・66などに見られる。26は折り返し状の口縁部に幅狭の面を持ち、口唇上端部にかけて浅い刻みを矢羽状に施す。27は口縁部に円形の貼付文を付した後、羽状縄文を施す。口唇上端部にまで縄文は及ぶ。30は器厚が薄く、緩やかな波状縁を呈する。0段多条のL・R縄文であり、口唇部以下にまで施文される。31は折り返し状口縁で、縦位羽状縄文を口唇部に施す。0段多条L・Rと無節Rの羽状構成である。32・33は26と同様に口唇部を沈線による矢羽状構成。口縁部屈曲下は

0段多条のR・L・L縄文の羽状構成である。

34～40・44・46は燃糸側面圧痕文を施す口縁部を集めた。この一群には、側面圧痕文以外に円形の刺突文（34・36・39）・棒状工具による刺突文（34～38）や浮線を貼付し刻みを施す例（36～40）などその文様要素は多様である。また、側面圧痕によるモチーフも蕨手状・菱形・円弧を描くものがあり、また、意匠的なモチーフを当てるもの（44・46）もある。44・46は同一個体の可能性もある。

燃糸側面圧痕文は花横下層式土器のメルクマールともいえる文様要素だが、本遺跡では意外に少なく細かな検証はできない。その内訳は殆どが3本単位の交互矢羽状効果を描出す手法をとり、口縁部文様帯に集中するといえよう。胴部以下は羽状構成の縄文施文を主な文様構成方法とするようである。

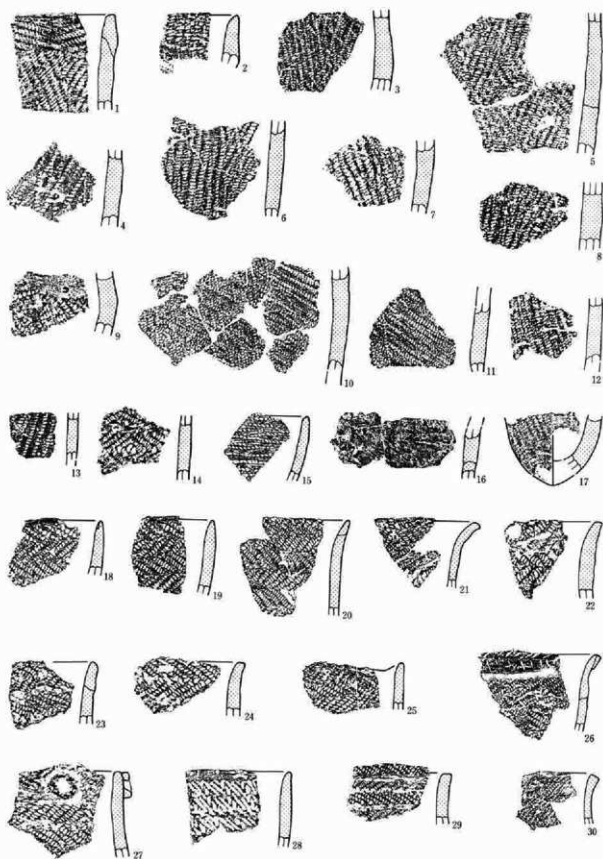
浮線を口縁部下に横位に貼付する例は多い。燃糸側面圧痕文以外でも、41～43・45などに見られる。41は隆線下に浅い沈線文が縦位、斜位に施される。また、浮線ではなく隆線を貼付し刺突文と平行沈線文が充填される47は県内では類例は多くない。波状口縁の可能性もある。48は無文の口縁部である。

49～52は燃糸側面圧痕文を口縁部下に施す例として挙げた。51と36は同一個体。52は2本1組の燃糸で逆U字状のモチーフが当てられる。細かな刺突文も施される。53～55は横位浮線、隆線を持つ土器。浮線以下は羽状縄文を施す文様構成例が多い。

56～65・67～71は羽状縄文を施す胴部破片。殆どが0段3～多条のL・R・L縄文を原体とし、原体幅は短いものが多い。結束第1種による羽状構成として72～74。72は羽状構成から菱形構成への変化形か。横位施文の連続性は短い。73は0段多条L・Rと0段3条Lによる結束羽状縄文。74は無節縄文同士の結束例である。

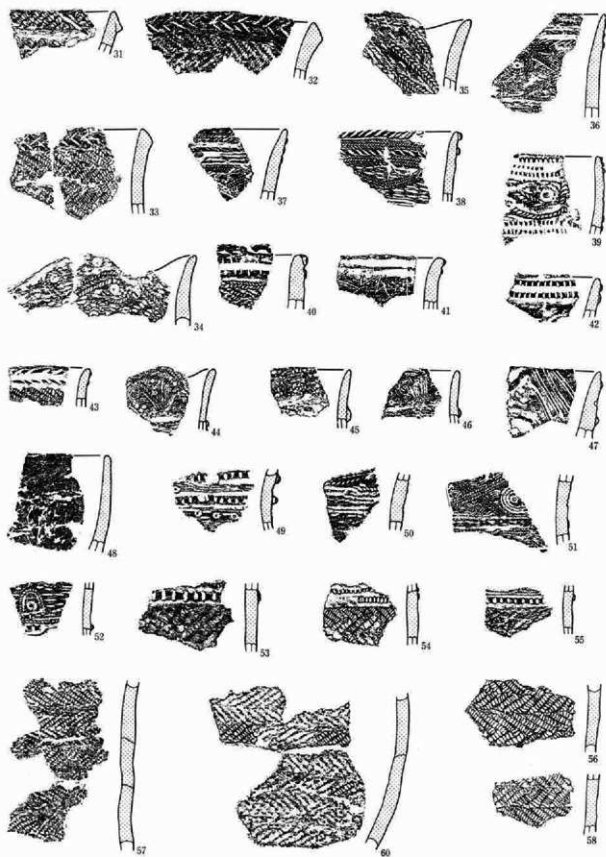
75～79に平底の底部を集めた。僅かに上げ底で底面に縄文を施す例が非常に多い。76の底面外縁は刺突文が巡る。77は小型の底径で羽状構成の縄文施文。78・79は沈線文による格子目を施す。79の底面は羽状縄文を施す。

II 検出された遺構と遺物



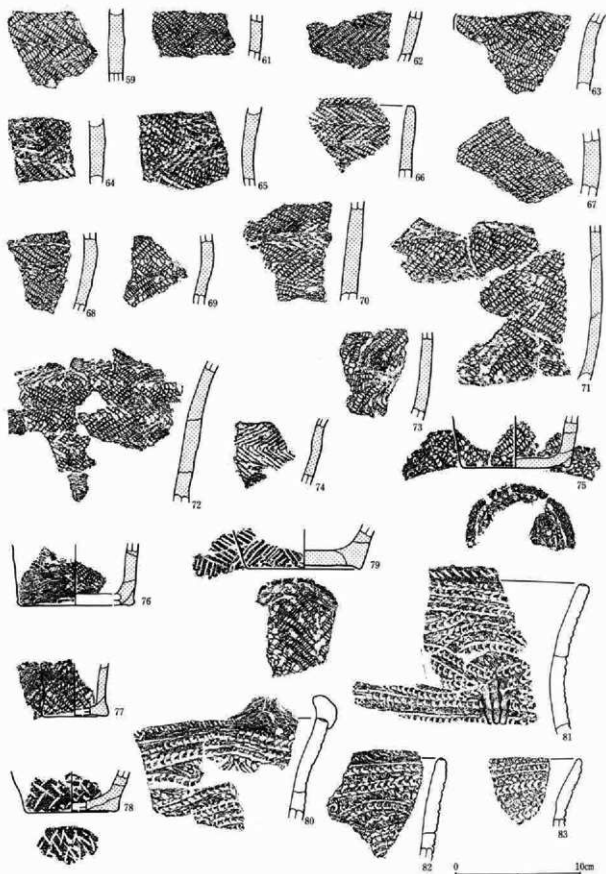
0 10cm

第46図 グリッド出土土器

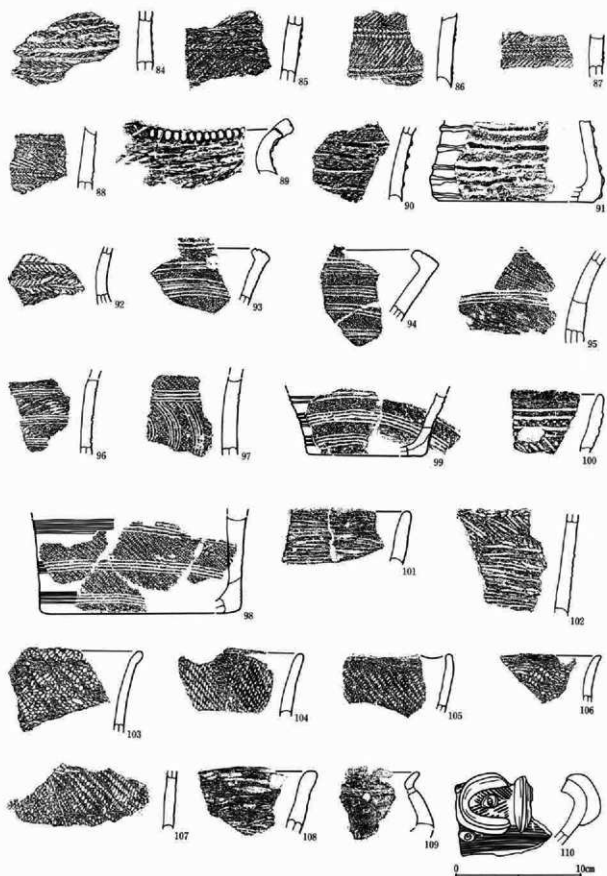


第47図 グリッド出土土器

II 検出された遺構と遺物

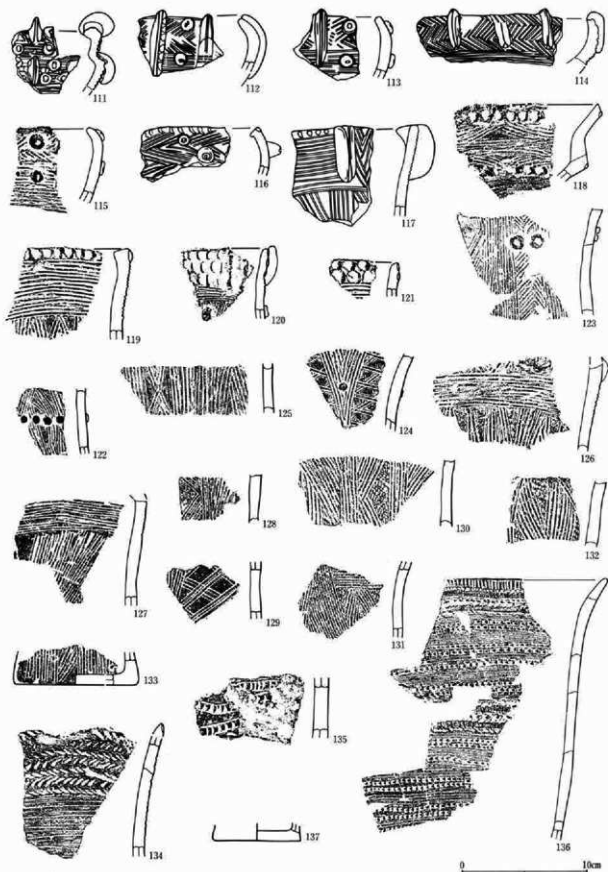


第48図 グリッド出土土器



第49図 グリッド出土土器

II 検出された遺構と遺物



第50図 グリッド出土土器

III群（前期後半）：48図80～50図137

諸磯b・c式及び東関東系の興津式などの土器群が含まれる。諸磯b式として80～109を充てた。

80～83は多岐竹管による爪形文を主な文様要素とする一群。80は双波状の突起を付すのであろう。81は木葉状の入組文下端より3条のナゲ線が垂下する。口唇端部刻みを施す。同一個体。

84～91は浮線文を付す一群。浮線上に刻みを細かく施し、浮線間に刺突文を連続させる（84～89）もの。88は浮線が剥落している。一方、90・91はやや太めの浮線文で刻みは施さない。89も太めの浮線で口唇部下のものは刻みを入れない。突起には沈線文が交差している。また、92は浮線を付さないが、矢羽状の刻みは類似する。

93～102は平行沈線文を施す例。横位平行沈線が多い。93・94は屈曲する口縁部。97には縦位弧状沈線文が連続する。100は幅広い平行沈線を施し以下に斜位沈線が施される。101・102の平行沈線文は密接化し、102は斜位沈線文が施されるが矢羽状になる。103～107はR L縄文施文のみのもの。108は口縁部に幅広い無文部を設け、平行沈線文を巡らせる。109は浅鉢。口縁部屈曲下に小孔が連続する。

110～133は諸磯c式に比定されるものを集めたが、諸磯b式終末段階のものも含まれる。

ボタン状貼付文などを付す口縁部の例として110～117を示した。口縁部は内湾するものが多く、地文に集合沈線を施し各種の貼付文を付す。111は2段に屈曲する口縁部で貼付文も積極的である。また、116・117の口唇部に施される刻みは特徴的で、118～121に顕著になり、興津式に見られる凹凸文との関連を窺わせる。122～132は集合沈線を施す胴部片、縄文が残るもの（130～132）もありb式とされよう。133は底部破片。内傾する端部が特徴的である。

134～136は興津式として捉えた。134・135は幅広い爪形文を施す。134は口唇部に刻みを施し爪形文が横位に施され、以下は平行沈線文を施す文様構成である。136は口唇部に幅広い刻みを施し、横位平行沈線間を小型刺突文が多段に充填施文される。

IV群（中期）：51図138～152、52図182・184

中期の土器は加曾利E式が多い。E 3式を伴出した小型堅穴状遺構の存在も無視できないが、前期の出土量と比較すると希薄な存在といえよう。

138は結束羽状縄文を地文とし、横位平行沈線以下波状沈線文を施す。中期初頭の所産か。139・140は中期中葉の深鉢胴部に付される突起。143も中葉段階であろう。口唇部端部にも浅く縄文が施される。141・142・144～150・182は加曾利E 3式、182はII区北端で破片ながらまとまって出土している。3条の沈線による懸垂文で器面を分割し空白部を縦位L Rが充填される。内面は丁寧なナゲ調整。151・152は加曾利E 4式として捉えられよう。184は中葉段階の浅鉢。I区出土だが、周辺には該期の遺構はない。内面は研磨されるが、さほど丁寧ではない。

V群（後期）：51図153～52図181・183

後期の土器は遺構が検出されていないにもかかわらず、I区を中心に散見される。恐らく調査区域外に該期集落跡などの存在が予想される。

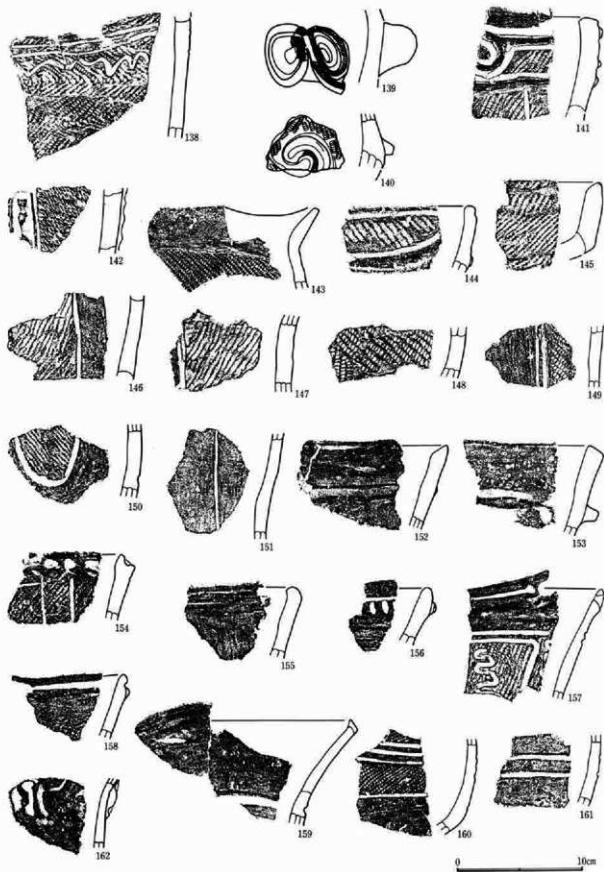
図示したものは殆どが細片で全容が把握されるものが少ない。称名寺式（153・162・163）、堀ノ内1式（154・156～158・160・162・172～174）、同2式（155・159・161・164・169～171・183）と加曾利B式（165～168・175～177）である。162は念転状突起。157は口縁部破片で単孔を穿つ。胴部文様は沈線による方形区画を基調としたものか。波状懸垂文も充填される。183は直立気味の口縁部で橋状把手を持つ。口唇部の一部が僅かに残る。163は渦巻状の突起か。円孔を中位に穿ち沈文を口唇部に沿わせる。

その他、底部も出土しているが、内面の研磨が著しいことから堀ノ内式に比定されるものであろう。

土 鉢

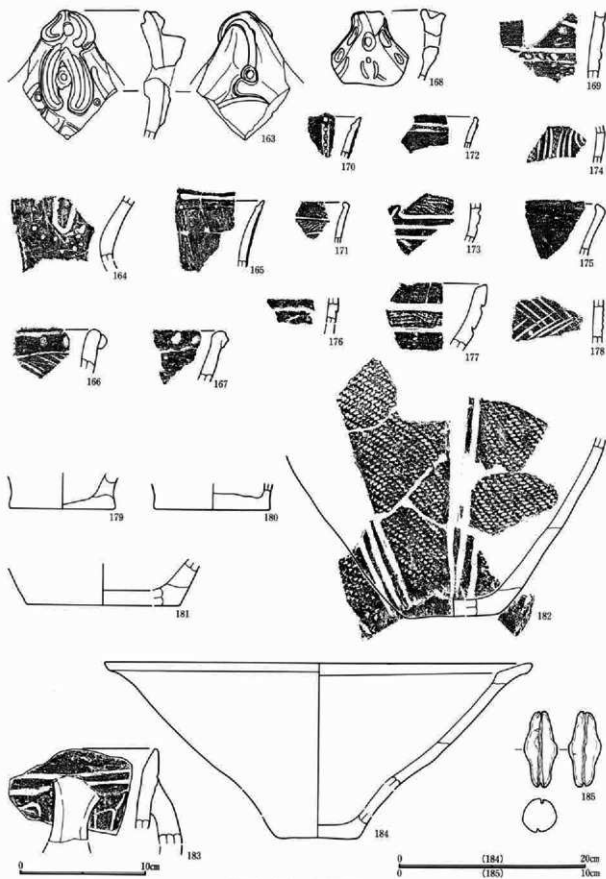
I区P-8 GrIV層上面より土鉢が出土している。小形で11.19gと軽量だが、切り込みも周縁し完形である。外面を丁寧に磨く。時期的な帰属は不明である。

II 検出された遺構と遺物



第51回 グリッド出土土器

2. 縄文時代の遺構と遺物



第52図 グリッド出土土器

II 検出された遺構と遺物

石器

石器の出土量は豊富である。ただし、前述の土器においても前期から後期にかけて、複合的に土器が散在する傾向を見ても、ここで図示した石器群も、時間的位置を前期に求めることはできない。以下器種別に説明を加える。

石鏃 (53図1~10)：1~5は無茎の凹基鏃である。1は中央に磨面を残す。2は基部を裏面より大きく調整する。器厚も厚い。3・4は典型的な凹基鏃。周縁を入念な加工で整える。5は長身の石鏃。6~8は有茎鏃。6は黒曜石製で丁寧な調整を施し、側縁を僅かに湾曲させる。舌部欠損。7は黒色頁岩製。8は側縁を鋸歯状に調整する。9・10は凸基鏃。9は横長剝片を素材とし右側縁など入念な調整を施すが厚く未製品の可能性を持つ。10も未製品かもしれない。縦長剝片を素材とする。

石槍状石器 (53図11・12)：11は4住58の石槍状スクレイパーに類似する。横長剝片を素材とし、側縁特に主要剝離面の加工は入念である。先端部・基部は尖らないが、石槍状石器とした。12も石槍状石器としたが、石匙の可能性を持つ。

石匙 (53図13~54図20)：13~15は縦長剝片を素材とする。13は刃部を凹状に処理し周縁に細かな調整を施す。14の刃部は尖鋭で側縁調整は細かい。15は刃部の大半を欠損し全容は判然としませんが、粗製品と判断できよう。黒色頁岩製の横長剝片を素材とする16~20も調整は入念ではない。16・17は比較的丁寧である。

磨製石斧 (54図21・22)：21は乳棒状の変玄武岩を素材とする。巖位の擦痕が認められ刃部片面は欠損する。22も変玄武岩製。刃部を欠損する。

打製石斧 (54図23~56図46)：量的に充実する。小形のものも多く、大型の重量を持つ打製石斧は無い。短楕形のものも多く、楕形ものは29~36・38・40である。また、46は分銅形と捉えられよう。このうち楕形の打製石斧では29~33・35・38・40は花積下層式期の住居跡から出土する小形打製石斧に共通性が求められ、該期の所産と思われる。小形の剝片を

素材とし、刃部加工はさほど施されず、剝片素材をそのまま利用したものが多く、加工が行われるものも片面からのものが主体である。側縁の調整もこの傾向が認められ、一方は直立気味の調整を入念にし、主に自然面を持つ片面は浅い調整がラフに行われている。このような小形片刃打製石斧ともいべき一群は、他の時期には認められず、該期の特徴的な石器と位置付けられよう。同様な調整を施す石器として、粗製の石匙が想起され、用途・機能などを今後検証しなければならないだろう。

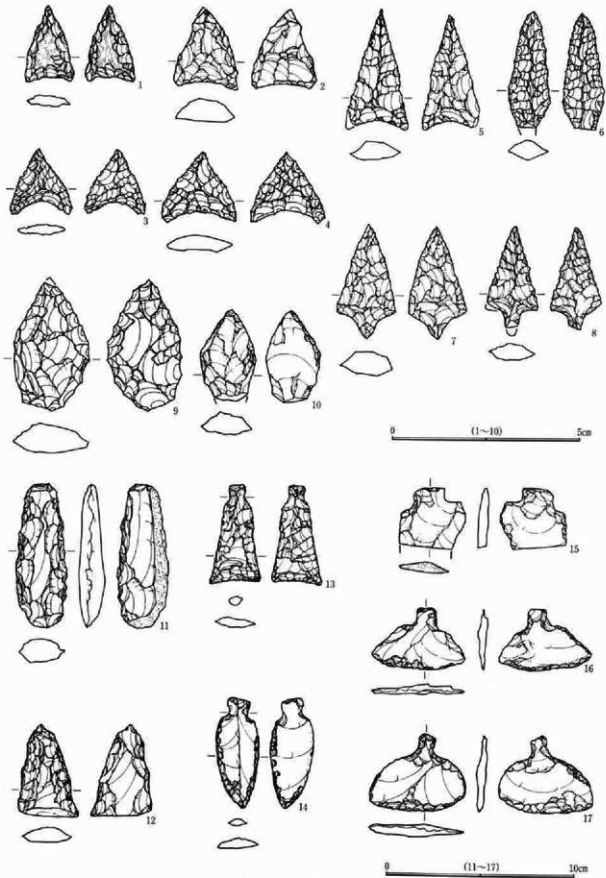
礫器 (56図47)：47は形状・折れ面の剝離方法などスタンプ形石器に類似するが、敲打痕などが認められず礫器とした。

スクレイパー (56図48~57図66)：スクレイパーも充実した量を誇り多様性に富む。48・49は大型で側縁・剝片端部の加工は入念に行われている。50・51は側縁に著しい。黒曜石製。52は周縁に調整が及ぶ。53は剝片端部の一部を加工し緩やかな湾曲した刃部を作る。54・55は側縁調整が片面だけである。56は周縁を調整するが定形的ではない。57は剝片端部の調整が丁寧で直刃を作り出す。58・59は周縁を加工するが、入念でなく片面のものである。60は横長剝片を素材として端部の加工が丁寧である。61・63は蛤状の横長剝片を素材とし端部・側縁を調整する。62・64は周縁を加工する。65は剝片端部の加工範囲が狭く刃部もやや凹状である。66は剝片端部と側縁に調整が及ぶ。

加工痕を持つ剝片石器 (57図67~59図90)：定形的ではなく、また調整加工も規則性や形態に対する方向性が認められ剝片石器を一括した。しかし、近年の研究動向も、不定形石器に対しても積極的な検討がなされつつあり、この一群にも有る程度の共通性が指摘されるものと期待している。

67・68は側縁調整で剝片端部は尖り気味である。69も側縁に調整が集中する。上半は欠損。70は周縁に加工を施すが、石材のためか顕著ではなく判然としない部分が多い。71~77も縦長剝片を素材とし、側縁調整を施す。78~90は横長剝片を素材とし、端

2. 縄文時代の遺構と遺物



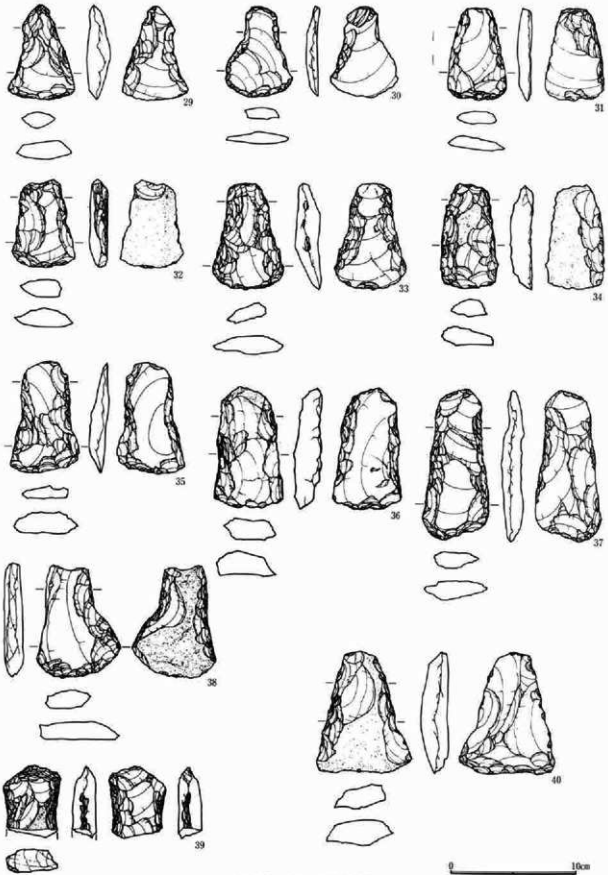
第53図 グリッド出土石器

II 検出された遺構と遺物



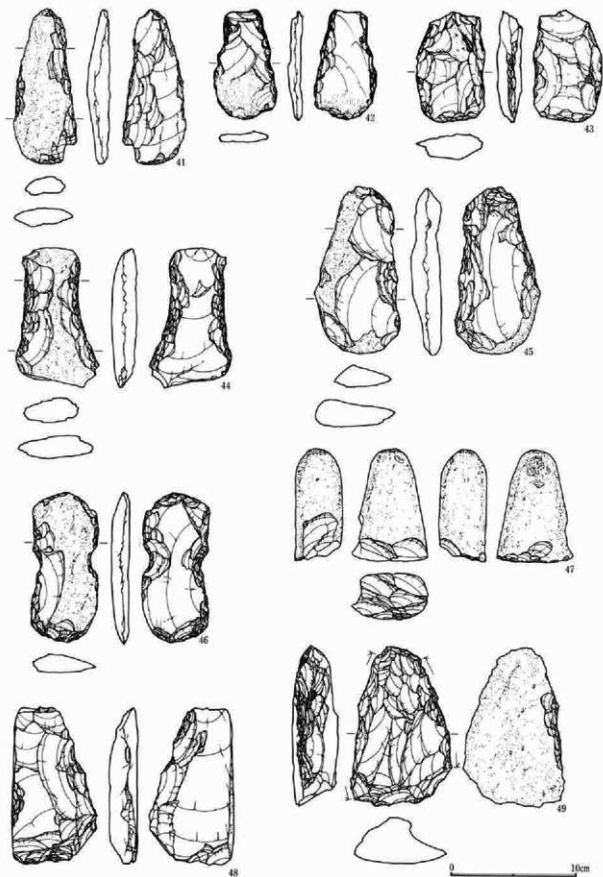
第54図 グリッド出土石器

2. 縄文時代の遺構と遺物

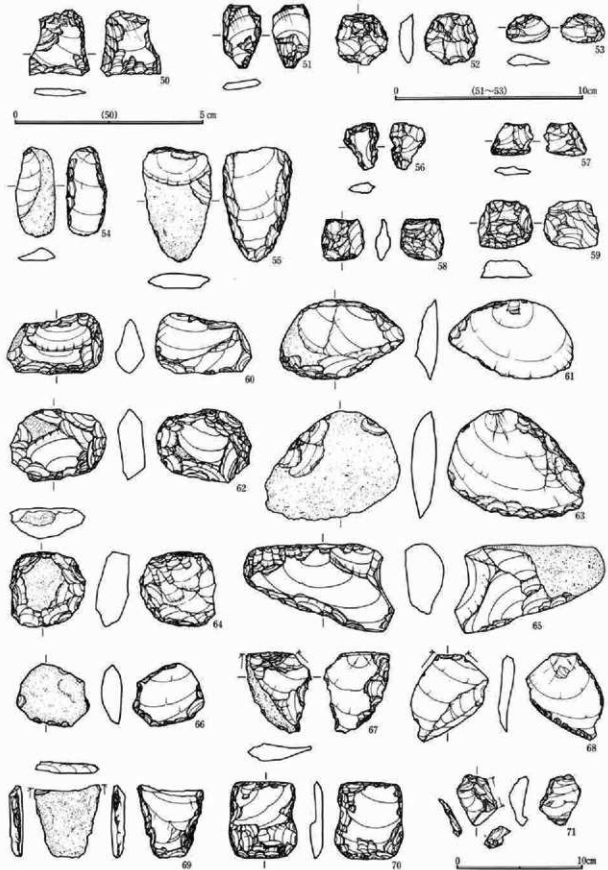


第55図 グリッド出土石器

II 検出された遺構と遺物

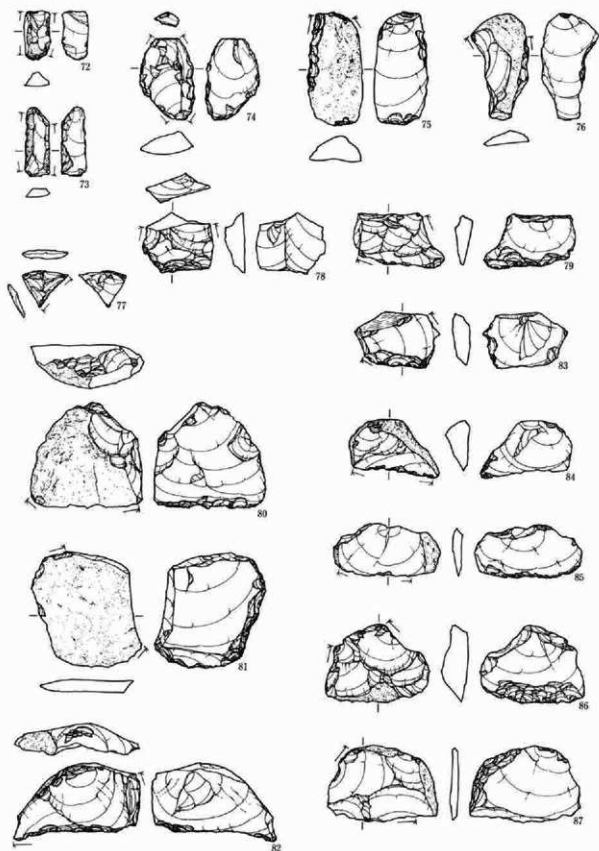


第56図 グリッド出土石器

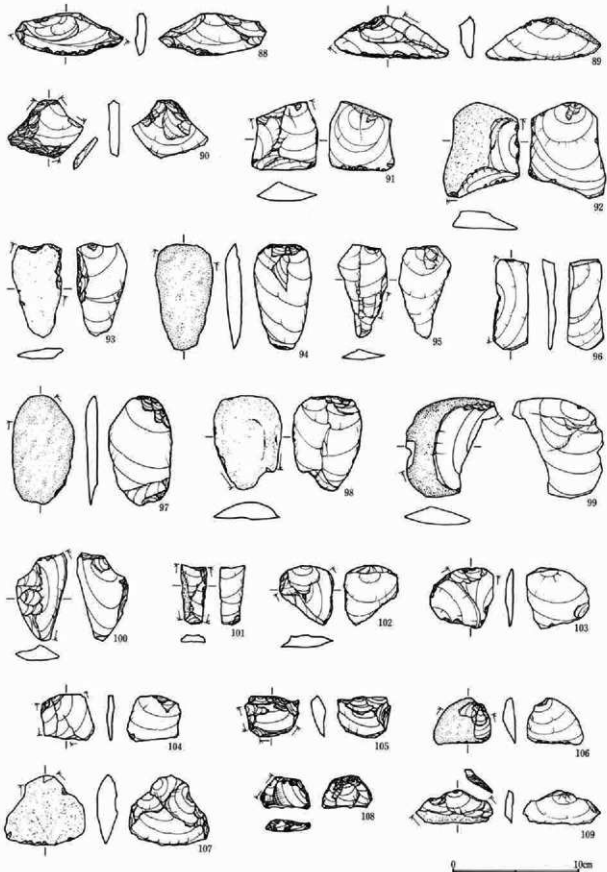


第57図 グリッド出土石器

II 検出された遺構と遺物

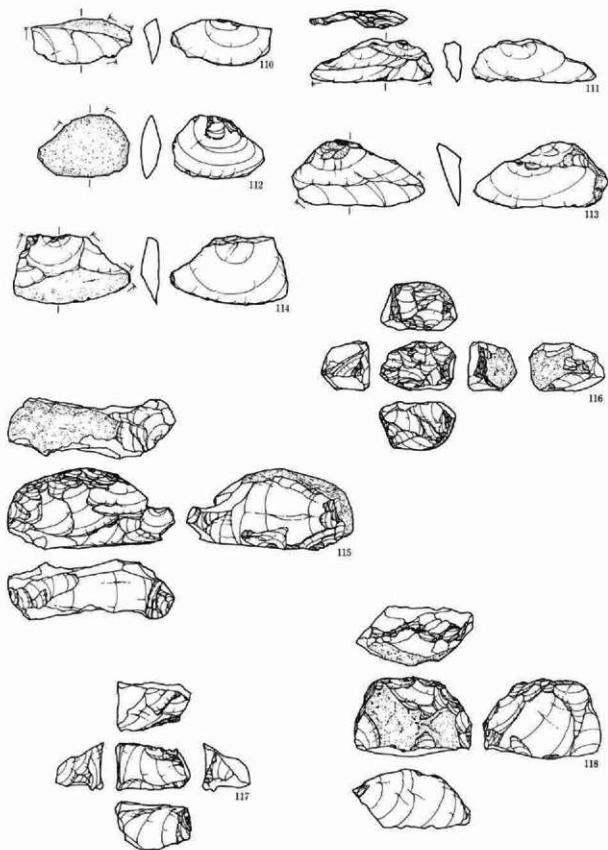


第58図 グリッド出土石器



第59図 グリッド出土石器

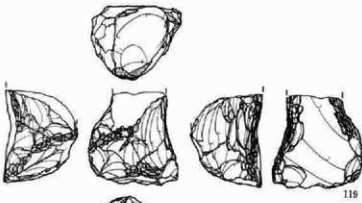
II 検出された遺構と遺物



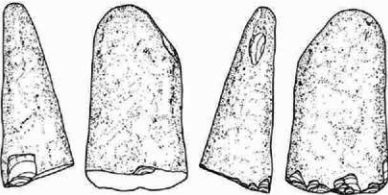
0 10cm

第60図 グリッド出土石器

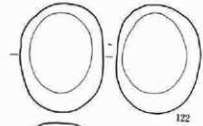
2. 縄文時代の遺構と遺物



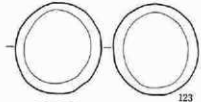
119



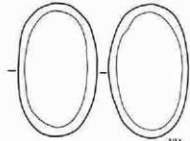
120



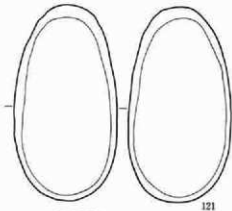
122



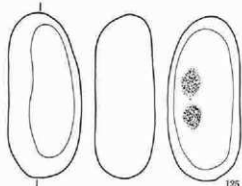
123



124



121

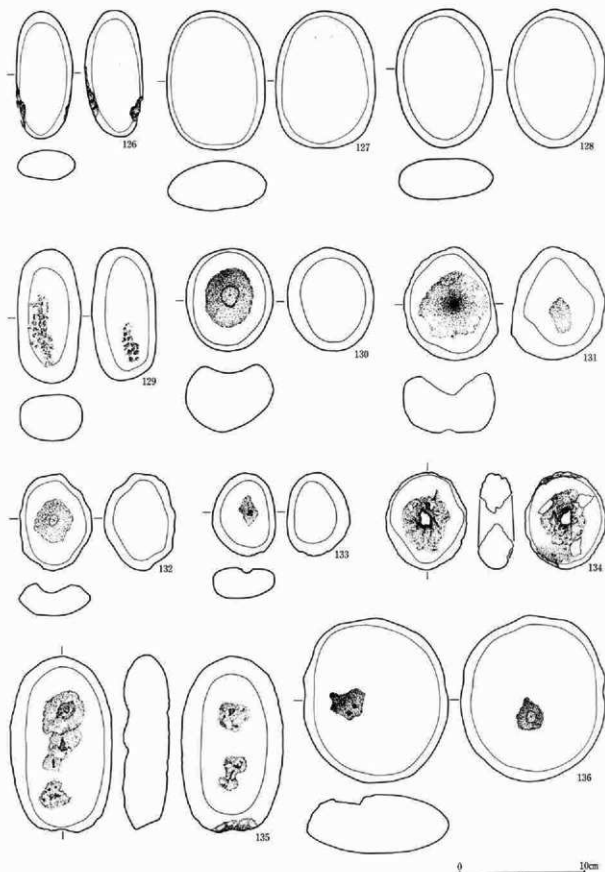


125

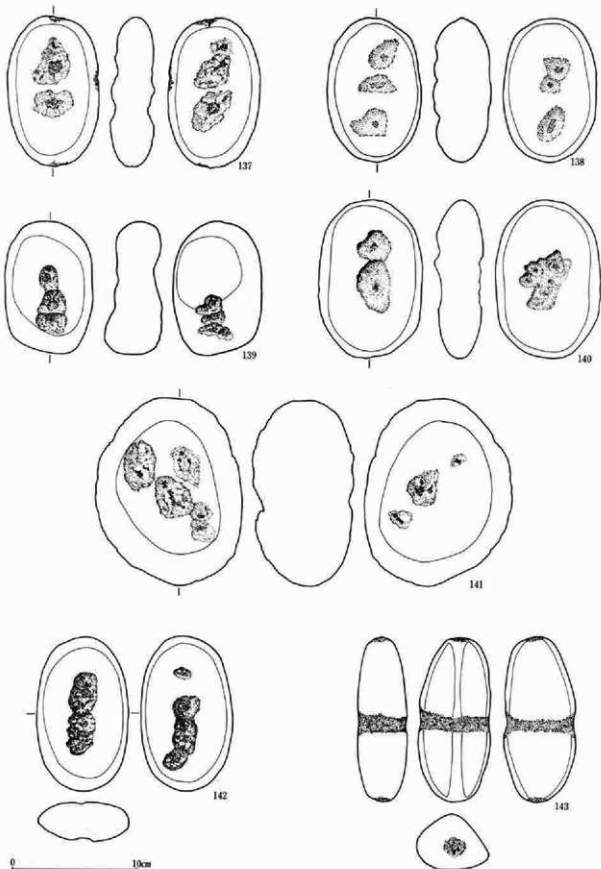


第61図 グリッド出土石器

II 検出された遺構と遺物

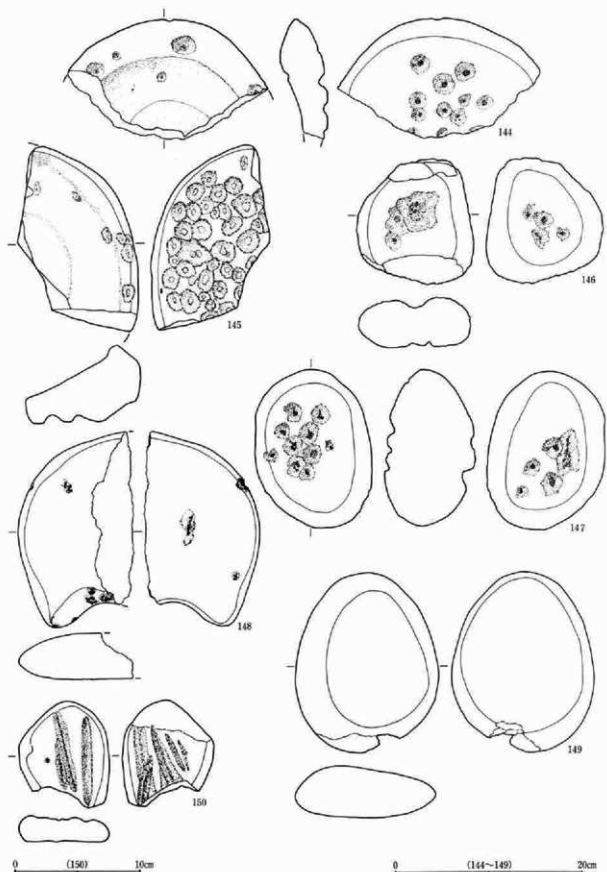


第62図 グリッド出土石器



第63図 グリッド出土石器

II 検出された遺構と遺物



第64図 グリッド出土石器

部に調整が集中する。80のように端部が直刃となるものが多く、凸刃(81)・凹刃(82)は比較的少ない。また剥片片面からの加工が多く、両面からの丁寧な意識は少ない。90は細かな調整を施しているが不定形であり、未製品の可能性が高い。

使用痕を持つ剥片石器 (59図91～60図114)：この一群も、加工痕を持つ剥片石器と同様に不定形石器である。使用痕も摩耗痕・歯こぼれなど石器の用途により様々で、それらを一概に一器種とするには抵抗があるが、不定形石器の一種として本報告では一括して図示した。

91～104は縦長剥片を素材としている。多くは割線に歯こぼれなどの痕跡が認められる。105～109は小型の横長剥片を素材とし、側縁から端部にかけて使用痕が認められる。108は端部が欠損しているが、歯こぼれが認められる。110～114はやや大型の横長剥片を素材としている。使用痕は刃部である剥片端部に集中する。

石核(60図115～118)：4点を図示した。いずれも他方向からの打撃を加えており、規則性は特に顕著ではない。115は黒色頁岩製。大型の縦長剥片を剥取したのち、横長剥片を取っている。116は黒色安山岩製。小型の横長剥片を意識しているようだ。117は小型の縦長剥片を剥取している。118は横長剥片を取る。

三角錐形石器 (61図119)：1点出土している。大型の黒色頁岩を素材とし、端部と縁辺に細かな敲打痕を認めることができる。

スタンプ形石器 (61図120)：1点出土している。変質安山岩を素材としており、下端部縁辺より加工を加え、下端底面には使用痕が認められる。

磨石類(61図121～62図129)：出土は多い。多くは粗粒安山岩が使用され、両面に多方向の擦痕や摩滅痕が認められる。

凹石(62図130～63図142)：磨石類とともに出土は多い。すべて粗粒安山岩製で1穴～3穴のものが目立つ。1穴のものでは、両面からの凹みが著しく、貫通したもの(134)が認められる。1住48との類似

性が求められる。

敲石(63図143)：1点の出土である。表採品だが、石英閃緑岩の自然石両端に敲打痕が認められる。また中央に帯状に凹みを入れており、何らかの装着を意識した加工とも捉えられる。

石皿 (64図144・145)：2点図示したが、両者とも破砕されている。表裏ともに凹みが集中するが裏面に顕著である。

多孔石 (64図146・147)：2点を挙げた。板状の片岩質のものではなく粗粒安山岩製の円盤に3ヶ以上の凹みがあてられたものをここでは多孔石とした。よって、凹石との形態などの差は多くはない。146は過熱を受けた痕跡をもつ。147は凹みの集中が片側に寄る特徴を持つ。

台石 (64図148・149)：2点出土している。表裏とも擦痕が認められるが、方向は顕著ではない。

条痕状研磨器 (64図150)：1点を図示した。1住51と類似するが、小型である。表裏ともに溝状の研磨痕跡がある。

II 検出された遺構と遺物

第2表 縄文土器観察表

1号住居跡(第8・9回)

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	分類・他
1	床直	①織織 ②良好 ③鈍褐色	II群2b期
2	床直	①織織 ②良好 ③鈍褐色	II群2b期
3	覆土	①織織 ②粉軟 ③橙	II群5a期
4	覆土	①織織 ②良好 ③鈍褐色	II群4-5a期
5	覆土	①織織 ②良好 ③明褐色	II群5a期
6	覆土	①織織 ②堅緻 ③鈍黄褐色	II群2b期
7	覆土	①織織 ②堅緻 ③鈍黄褐色	II群2b期
8	覆土	①織織 ②軟質 ③鈍褐色	II群2a期
9	覆土	①織織 ②軟質 ③鈍褐色	II群2b期
10	覆土	①織織 ②良好 ③明褐色	II群3期
11	覆土	①織織 ②良好 ③鈍褐色	II群2b期
12	覆土	①織織 ②良好 ③鈍褐色	II群2b期
13	覆土	①織織 ②良好 ③橙	II群2b期
14	覆土	①織織 ②粉軟 ③明褐色	II群2b期
15	床直	①織織 ②良好 ③鈍褐色	II群2a期
16	覆土	①織織 ②堅緻 ③鈍褐色	II群2b期
17	覆土	①織織 ②粉軟 ③橙	II群2b期
18	覆土	①織織 ②軟質 ③鈍褐色	II群2b期
19	覆土	①織織 ②粉軟 ③鈍黄褐色	II群
20	床直	①織織 ②良好 ③明褐色	II群 無節
21	覆土	①織織 ②軟質 ③鈍褐色	II群
22	覆土	①粗砂粒 ②良好 ③褐灰	III群2期
23	覆土	①粗砂粒 ②堅緻 ③橙	IV群
24	覆土	①粗砂粒 ②堅緻 ③橙	V群
25	覆土	①粗砂粒 ②堅緻 ③鈍褐色	V群

2号住居跡(第14回)

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	分類・他
1	覆土	①織織 ②良好 ③褐灰	II群
2	覆土	①織織 ②粉軟 ③鈍褐色	II群2期
3	覆土	①織織 ②良好 ③橙	II群2b期
4	覆土	①織織 ②良好 ③橙	II群3期
5	覆土	①織織 ②粉軟 ③鈍褐色	II群
6	覆土	①織織 ②堅緻 ③橙	II群2b期
7	覆土	①織織 ②良好 ③鈍褐色	II群2b期
8	覆土	①織織 ②良好 ③褐灰	II群1期
9	覆土	①織織 ②堅緻 ③黒褐色	II群2c期
10	床直・覆土	①織織 ②粉軟 ③橙	II群1期

3号住居跡(第18・19回)

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	分類・他
1	覆土	①織織 ②良好 ③明褐色	II群4期
2	覆土	①織織 ②粉軟 ③褐	II群2a期
3	覆土	①織織 ②軟質 ③褐	II群2b期
4	覆土	①織織 ②堅緻 ③鈍黄褐色	II群2b期
5	覆土	①織織 ②良好 ③橙	II群5期
6	覆土	①織織 ②粉軟 ③鈍褐色	II群5期
7	覆土	①織織 ②良好 ③鈍黄褐色	II群
8	覆土	①織織 ②堅緻 ③鈍赤褐色	II群2b期
9	覆土	①織織 ②堅緻 ③橙	II群2b期
10	覆土	①織織 ②堅緻 ③鈍黄褐色	II群2b期
11	覆土	①織織 ②良好 ③黒褐色	II群2b期
12	覆土	①織織 ②粉軟 ③橙	II群2b期
13	覆土	①織織 ②堅緻 ③鈍褐色	II群2b期
14	覆土	①織織 ②堅緻 ③鈍褐色	II群2a期
15	覆土	①織織 ②良好 ③橙	II群2a期
16	覆土	①織織 ②良好 ③明褐色	II群2a期
17	覆土	①織織 ②粉軟 ③鈍褐色	II群2b期

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	分類・他
18	覆土	①織織 ②良好 ③橙	II群2b期
19	覆土	①織織 ②粉軟 ③橙	II群2a期
20	覆土	①織織 ②軟質 ③橙	II群1期
21	覆土	①織織 ②粉軟 ③明赤褐色	II群1期
22	覆土	①織織 ②軟質 ③明赤褐色	II群1期
23	覆土	①織織 ②粉軟 ③明赤褐色	II群1期
24	覆土	①織織 ②堅緻 ③鈍黄褐色	II群6期
25	覆土	①織織 ②軟質 ③明褐色	II群1期
26	覆土	①織織 ②良好 ③橙	II群7期
27	覆土	①織織 ②堅緻 ③橙	II群2c期
28	覆土	①砂粒 ②堅緻 ③橙	I群
29	覆土	①粗砂粒 ②堅緻 ③橙	II群1期
30	覆土	①粗砂粒 ②堅緻 ③明赤褐色	II群1期
31	覆土	①粗砂粒 ②堅緻 ③鈍褐色	II群2期
32	覆土	①粗砂粒 ②堅緻 ③橙	V群

4号住居跡(第24~26回)

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	分類・他
1	床直	①織織 ②良好 ③鈍褐色	II群2b期
2	床直	①織織 ②堅緻 ③鈍黄褐色	II群2b期
3	床直	①織織 ②堅緻 ③明赤褐色	II群2b期
4	床直	①織織 ②粉軟 ③橙	II群2b期
5	覆土	①織織 ②軟質 ③明赤褐色	II群2a期
6	床直	①織織 ②粉軟 ③鈍褐色	II群5a期
7	床直	①織織 ②堅緻 ③橙	II群2c期
8	床直・覆土	①織織 ②堅緻 ③橙	II群5b期
9	覆土	①織織 ②堅緻 ③鈍褐色	II群2b期
10	覆土	①織織 ②堅緻 ③鈍褐色	II群2b期
11	覆土	①織織 ②軟質 ③鈍褐色	II群2a期
12	床直	①織織 ②軟質 ③橙	II群2a期
13	床直	①織織 ②軟質 ③鈍褐色	II群2期
14	覆土	①織織 ②軟質 ③明褐色	II群2期
15	覆土	①織織 ②軟質 ③鈍褐色	II群2a期
16	覆土	①織織 ②堅緻 ③橙	II群2b期
17	覆土	①織織 ②良好 ③黒褐色	II群2b期
18	覆土	①織織 ②軟質 ③鈍褐色	II群5a期
19	覆土	①織織 ②堅緻 ③鈍黄褐色	II群5b期
20	覆土	①織織 ②粉軟 ③鈍褐色	II群5b期
21	覆土	①織織 ②軟質 ③黒褐色	II群5a期
22	覆土	①織織 ②軟質 ③黒褐色	II群5期
23	覆土	①織織 ②良好 ③鈍褐色	II群5b期
24	床直・覆土	①織織 ②良好 ③橙	II群5期
25	床直	①織織 ②良好 ③鈍褐色	II群5a期
26	覆土	①織織 ②粉軟 ③鈍褐色	II群5期
27	覆土	①織織 ②粉軟 ③橙	II群5a期
28	覆土	①織織 ②軟質 ③灰褐色	II群5期
29	覆土	①織織 ②軟質 ③橙	II群5a期
30	覆土	①織織 ②堅緻 ③黒褐色	II群2b期
31	床直	①織織 ②良好 ③橙	II群2b期
32	覆土	①織織 ②粉軟 ③鈍褐色	II群2b期
33	覆土	①織織 ②良好 ③鈍褐色	II群2b期
34	床直	①織織 ②粉軟 ③橙	II群2a期
35	床直	①織織 ②軟質 ③橙	II群2a期
36	床直・覆土	①織織 ②軟質 ③橙	II群2b期
37	覆土	①織織 ②粉軟 ③橙	II群2b期
38	覆土	①織織 ②粉軟 ③鈍黄褐色	II群3期
39	覆土	①織織 ②良好 ③明赤褐色	II群3期
40	覆土	①織織 ②軟質 ③明褐色	II群2a期
41	覆土	①織織 ②堅緻 ③黒褐色	II群5期
42	覆土	①織織 ②良好 ③橙	II群5期?

2. 縄文時代の遺構と遺物

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	分類・他
43	覆土	①繊維 ②良好 ③灰褐	II群5 b類
44	覆土	①繊維 ②稍軟 ③灰褐	II群5 b類
45	覆土	①繊維 ②良好 ③焼	II群2 b類
46	覆土	①繊維 ②良好 ③灰褐	II群3類
47	覆土	①繊維 ②良好 ③焼	II群2 a類
48	覆土	①繊維 ②稍軟 ③明褐	II群2 b類
49	覆土	①繊維 ②軟質 ③明褐	II群7類

その他の遺構 (第29・30・33・35～40・43～45図)

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	分類・他
1	I区小型竪穴状	①細砂粒 ②堅硬 ③鈍黄	IV群
1	II区2号埋設土坑	①繊維 ②良好 ③鈍橙	II群2 a類
2		①繊維 ②良好 ③橙	II群2 b類
1	3号埋設・F-3Gr	①繊維 ②良好 ③橙	II群2 b類
1	I区140号土坑	①繊維 ②堅硬 ③灰	II群5類
1	I区228号土坑	①砂粒 ②良好 ③鈍橙	II群1類
2		①繊維 ②軟質 ③鈍橙	II群2 a類
1	I区229号土坑	①細砂 ②良好 ③灰褐	II群1類
2		①細砂粒 ②堅硬 ③赤褐	II群1類
3		①細砂粒 ②堅硬 ③橙	II群1類
4		①粗砂粒 ②堅硬 ③灰褐	II群1類
5		①細砂粒 ②堅硬 ③灰褐	II群1類
6		①砂粒 ②堅硬 ③橙	II群1類
1	I区231号土坑	①細砂 ②良好 ③灰褐	II群1類
2		①砂粒 ②堅硬 ③鈍橙	II群1類
3		①粗砂粒 ②堅硬 ③鈍黄橙	II群1類
1	II区284号土坑	①繊維 ②堅硬 ③橙	II群2 b類
1	II区285号土坑	①細砂 ②堅硬 ③鈍橙	II群2類
1	II区286号土坑	①繊維 ②稍軟 ③橙	II群1類
1	II区288号土坑	①繊維 ②良好 ③褐灰	II群2 a類
2		①繊維 ②良好 ③褐灰	II群2 a類
3		①繊維 ②稍軟 ③橙	II群2 a類
4		①繊維 ②良好 ③褐灰	II群2 a類
1	II区287号土坑	①繊維 ②軟質 ③橙	II群6類
2		①繊維 ②良好 ③鈍橙	II群2類
3		①繊維 ②良好 ③橙	II群2 b類
4		①繊維 ②良好 ③橙	II群2 b類
1	II区290号土坑	①繊維 ②稍軟 ③橙	II群2 b類
2		①繊維 ②軟質 ③鈍赤褐	II群
1	II区291号土坑	①繊維 ②良好 ③橙	II群
1	II区293号土坑	①繊維 ②稍軟 ③鈍橙	II群2 b類
2		①繊維 ②堅硬 ③鈍黄橙	II群2 a類
3		①繊維 ②良好 ③橙	II群2 b類
4		①繊維 ②稍軟 ③鈍褐	II群2 b類
5		①繊維 ②良好 ③明赤褐	II群2 a類
6		①繊維 ②軟質 ③橙	II群2 a類
7		①繊維 ②良好 ③橙	II群
8		①繊維 ②稍軟 ③橙	II群7類
9		①繊維 ②軟質 ③橙	II群7類
10		①繊維 ②稍軟 ③鈍黄橙	II群
1	II区294号土坑	①細砂 ②稍軟 ③鈍赤褐	II群1類
2		①細砂 ②稍軟 ③鈍黄橙	II群1類
3		①繊維 ②軟質 ③鈍赤褐	II群
4		①細砂 ②稍軟 ③鈍赤褐	II群1類
5		①繊維 ②軟質 ③橙	II群
1	II区295号土坑	①繊維 ②稍軟 ③鈍橙	II群2 a類
2		①繊維 ②稍軟 ③鈍橙	II群5類
3		①繊維 ②稍軟 ③鈍橙	II群2類
4		①繊維 ②良好 ③鈍橙	II群
5		①繊維 ②軟質 ③橙	II群2 a類
6		①繊維 ②稍軟 ③鈍赤褐	II群

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	分類・他
7		①繊維 ②軟質 ③鈍橙	II群2類
8		①繊維 ②軟質 ③鈍橙	II群2 b類
9		①繊維 ②軟質 ③鈍橙	II群2 b類

グリフ出土土器 (第46～52図)

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	分類・他
1	II区D-6 Gr	①繊維 ②稍軟 ③橙	II群1類
2	II区C-4 Gr	①繊維 ②稍軟 ③橙	II群1類
3	II区C-5 Gr	①繊維 ②稍軟 ③橙	II群1類
4	I区Q-16Gr	①繊維 ②軟質 ③橙	II群1類
5	I区Q-16Gr	①繊維 ②稍軟 ③鈍橙	II群1類
6	II区D-4 Gr	①繊維 ②稍軟 ③橙	II群1類
7	I区L-9 Gr	①繊維 ②軟質 ③橙	II群1類
8	表探	①繊維 ②稍軟 ③橙	II群1類
9	I区L-9 Gr	①繊維 ②稍軟 ③橙	II群1類
10	I区P-9 Gr	①繊維 ②軟質 ③鈍褐	II群1類
11	I区P-9 Gr	①繊維 ②稍軟 ③鈍橙	II群1類
12	II区B-4 Gr	①繊維 ②良好 ③赤褐	II群1類
13	II区C-3 Gr	①繊維 ②軟質 ③鈍橙	II群1類
14	II区D-5 Gr	①繊維 ②良好 ③鈍褐	II群3類
15	I区P-16Gr	①繊維 ②良好 ③鈍褐	II群1類?
16	II区C-4 + 5 Gr	①繊維 ②良好 ③橙	II群7類
17	II区D-5 Gr	①繊維 ②良好 ③鈍橙	II群1類
18	II区E-4 Gr	①繊維 ②堅硬 ③橙	II群2 b類
19	II区表探	①繊維 ②堅硬 ③橙	II群2 b類
20	I区L-8 Gr	①繊維 ②堅硬 ③鈍橙	II群2 b類
21	II区D-3 Gr	①繊維 ②堅硬 ③鈍橙	II群2 b類
22	I区M-9 Gr	①繊維 ②稍軟 ③明褐	II群2 b類
23	II区C-4 Gr	①繊維 ②良好 ③橙	II群2 a類
24	II区D-3 Gr	①繊維 ②良好 ③鈍褐	II群2 a類
25	II区D-3 Gr	①繊維 ②堅硬 ③鈍褐	II群2 b類
26	II区D-3 Gr	①繊維 ②堅硬 ③鈍褐	II群5類?
27	II区C-5 Gr	①繊維 ②堅硬 ③橙	II群5類
28	II区D-5 Gr	①繊維 ②堅硬 ③鈍褐	II群2 a類
29	II区D-5 Gr	①繊維 ②堅硬 ③鈍黄褐	II群2 a類
30	II区D-3 Gr	①繊維 ②堅硬 ③鈍黄褐	II群2類
31	II区E-5 Gr	①繊維 ②良好 ③鈍橙	II群4類
32	II区D-5 Gr	①繊維 ②良好 ③鈍橙	II群4類
33	II区D-4・E-2Gr	①繊維 ②良好 ③橙	II群4類
34	II区G-5 Gr	①繊維 ②良好 ③橙	II群5類
35	II区E-3 Gr	①繊維 ②良好 ③橙	II群5類
36	3	①繊維 ②良好 ③黒褐	II群5類
37	II区G-4 Gr	①繊維 ②良好 ③黒褐	II群5類
38	II区F-3 Gr	①繊維 ②良好 ③橙	II群5類
39	I区M-9 Gr	①繊維 ②稍軟 ③鈍褐	II群5類
40	II区E-4 Gr	①繊維 ②良好 ③鈍褐	II群5類
41	II区H-6 Gr	①繊維 ②良好 ③鈍褐	II群5類
42	I区N-9 Gr	①繊維 ②良好 ③鈍褐	II群5類
43	II区B-4 Gr	①繊維 ②良好 ③鈍褐	II群5類
44	I区N-9 Gr	①繊維 ②堅硬 ③鈍黄橙	II群5類
45	II区D-4 Gr	①繊維 ②稍軟 ③鈍黄橙	II群5類
46	I区N-9 Gr	①繊維 ②堅硬 ③鈍黄橙	II群5類
47	I区M-9 Gr	①繊維 ②良好 ③橙	II群5類
48	I区N-9 Gr	①繊維 ②軟質 ③鈍橙	II群5類
49	I区O-7 Gr	①繊維 ②良好 ③鈍橙	II群5類
50	II区D-4 Gr	①繊維 ②良好 ③鈍褐	II群5?類
51	I区M-9 Gr	①繊維 ②堅硬 ③鈍褐	II群5類
52	II区D-5 Gr	①繊維 ②良好 ③橙	II群5類
53	I区M-8 Gr	①繊維 ②良好 ③橙	II群5類
54	II区D-3 Gr	①繊維 ②稍軟 ③橙	II群5類
55	II区D-3 Gr	①繊維 ②軟質 ③鈍橙	II群5類

II 検出された遺構と遺物

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	分類・他
56	II区D-4Gr	①繊維 ②堅緻 ③灰濁	II群2b類
57	I区L-7Gr	①繊維 ②良好 ③純焼	II群2b類
58	II区E-4Gr	①繊維 ②堅緻 ③純焼	II群2b類
59	II区D-4Gr	①繊維 ②堅緻 ③純焼	II群2b類
60	I区M-8Gr	①繊維 ②精軟 ③灰濁	II群2b類
61	II区C-5Gr	①繊維 ②堅緻 ③純焼	II群2b類
62	II区D-5Gr	①繊維 ②堅緻 ③純焼	II群2b類
63	II区E-3Gr	①繊維 ②良好 ③純	II群2b類
64	II区D-5Gr	①繊維 ②良好 ③純	II群2b類
65	II区E-3Gr	①繊維 ②精軟 ③純	II群2b類
66	I区L-7Gr	①繊維 ②堅緻 ③灰濁	II群2b類
67	II区H-4Gr	①繊維 ②堅緻 ③灰濁	II群2b類
68	I区N-8Gr	①繊維 ②良好 ③純焼	II群2b類
69	II区C-5Gr	①繊維 ②良好 ③純	II群2a類
70	I区N-6Gr	①繊維 ②堅緻 ③純	II群2b類
71	II区D-3Gr	①繊維 ②良好 ③純	II群3類
72	I区L-9Gr	①繊維 ②良好 ③純焼	II群2a類
73	II区E-5Gr	①繊維 ②精軟 ③明赤褐色	II群2a類
74	II区E-4Gr	①繊維 ②良好 ③純	II群2c類
75	II区C-D-5Gr	①繊維 ②良好 ③明赤	II群2b類
76	II区C-3Gr	①繊維 ②精軟 ③明赤褐色	II群2類
77	II区C-5Gr	①繊維 ②精軟 ③純	II群2b類
78	II区F-3Gr	①繊維 ②軟質 ③明赤褐色	II群6類
79	I区M-8Gr	①繊維 ②精軟 ③純焼	II群6類
80	II区D-E-5Gr	①細砂 ②良好 ③純	II群1類
81	II区D-4-5Gr	①細砂 ②良好 ③純	II群1類
82	II区D-4Gr	①細砂 ②良好 ③純	II群1類
83	II区C-5Gr	①細砂 ②良好 ③純	II群1類
84	I区S-11Gr	①砂粒 ②良好 ③純	II群1類
85	I区T-10Gr	①砂粒 ②良好 ③純	II群1類
86	II区D-10Gr	①砂粒 ②良好 ③純	II群1類
87	I区T-12Gr	①砂粒 ②良好 ③純焼	II群1類
88	I区PGr	①粗砂粒 ②良好 ③純	II群1類
89	II区D-4Gr	①粗砂粒 ②良好 ③純	II群1類
90	I区O-P-8Gr	①細砂 ②良好 ③純	II群1類
91	I区N-7Gr	①細砂 ②良好 ③純	II群1類
92	II区C-12Gr	①粗砂粒 ②精軟 ③純	II群1類
93	I区S-12Gr	①砂粒 ②良好 ③純	II群1類
94	II区ABGr	①細砂 ②良好 ③純焼	II群1類
95	II区ABGr	①細砂 ②良好 ③純焼	II群1類
96	I区S-11Gr	①細砂 ②良好 ③明赤褐色	II群1類
97	I区P-11Gr	①粗砂粒 ②良好 ③灰濁	II群1類
98	I区R-8Gr	①粗砂粒 ②良好 ③純焼	II群1類
99	I区Q-9-11Gr	①細砂 ②精軟 ③純焼	II群1類
100	II区E-5Gr	①細砂 ②軟質 ③純焼	II群1類
101	I区Q-10Gr	①砂粒 ②精軟 ③純焼	II群1類
102	I区V-12Gr	①粗砂粒 ②良好 ③純焼	II群1類
103	I区N-9Gr	①細砂 ②堅緻 ③赤褐色	II群1類
104	II区D-4Gr	①砂粒 ②堅緻 ③純	II群1類
105	I区R-11Gr	①細砂 ②良好 ③純赤褐色	II群1類
106	I区L-5Gr	①細砂 ②良好 ③純赤褐色	II群1類
107	I区L-5Gr	①砂粒 ②良好 ③純	II群1類
108	I区Q-10Gr	①粗砂粒 ②精軟 ③純	II群1類
109	I区Q-11Gr	①砂粒 ②軟質 ③純	II群
110	II区D-4Gr	①細砂 ②良好 ③純	II群2類
111	II区C-5Gr	①砂粒 ②良好 ③純	II群2類
112	II区D-3Gr	①砂粒 ②良好 ③純	II群2類
113	II区D-3Gr	①砂粒 ②良好 ③純	II群2類
114	II区C-2+3Gr	①粗砂粒 ②良好 ③純焼	II群2類
115	II区D-3Gr	①砂粒 ②良好 ③純	II群2類
116	I区P-11Gr	①細砂 ②良好 ③純	II群2類

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	分類・他
117	I区U-10Gr	①砂粒 ②精軟 ③純	II群2類
118	I区Q-10Gr	①砂粒 ②精軟 ③純	II群2類
119	I区匱土	①砂粒 ②良好 ③純焼	II群2類
120	II区C-2Gr	①砂粒 ②良好 ③純焼	II群1-2類
121	II区G-3Gr	①砂粒 ②良好 ③純焼	II群1-2類
122	II区D-5Gr	①細砂 ②良好 ③純焼	II群2類
123	II区B-4-ABGr	①細砂 ②良好 ③純焼	II群2類
124	I区P-10Gr	①細砂 ②堅緻 ③純焼	II群2類
125	II区D-3Gr	①粗砂粒 ②良好 ③純焼	II群2類
126	I区P-10Gr	①粗砂粒 ②良好 ③純焼	II群2類
127	II区C-3-D-2Gr	①細砂 ②良好 ③純焼	II群2類
128	I区表層	①細砂 ②良好 ③純焼	II群2類
129	II区C-5Gr	①砂粒 ②良好 ③純焼	II群2類
130	I区V-13Gr	①砂粒 ②良好 ③純焼	II群2類
131	I区V-11Gr	①細砂 ②良好 ③純赤褐色	II群2類
132	I区U-10Gr	①細砂 ②良好 ③純焼	II群2類
133	I区Q-11Gr	①砂粒 ②良好 ③明赤	II群2類
134	I区T-10Gr	①石英 ②良好 ③純焼	II群2類
135	I区C-10Gr	①石英 ②軟質 ③純焼	II群3類
136	I区P-10Gr	①細砂 ②堅緻 ③純焼	II群2類
137	II区B-4Gr	①砂粒 ②精軟 ③純焼	II群2類
138	I区V-13Gr	①粗砂粒 ②良好 ③純赤褐色	IV群
139	I区I-5Gr	①砂粒 ②良好 ③明赤褐色	IV群
140	I区L-8Gr	①砂粒 ②良好 ③明赤褐色	IV群
141	I区N-6Gr	①細砂 ②堅緻 ③純焼	IV群
142	II区D-3Gr	①粗砂粒 ②堅緻 ③明赤褐色	IV群
143	II区U-11-V-12Gr	①砂粒 ②堅緻 ③明赤褐色	IV群
144	II区D-3Gr	①砂粒 ②軟質 ③純焼	IV群
145	I区Y-11Gr	①細砂 ②軟質 ③純焼	IV群
146	I区P-8Gr	①粗砂粒 ②良好 ③純	IV群
147	I区O-7Gr	①砂粒 ②良好 ③純	IV群
148	II区D-6Gr	①砂粒 ②軟質 ③純焼	IV群
149	I区P-9Gr	①砂粒 ②良好 ③純焼	IV群
150	I区Y-10Gr	①粗砂粒 ②精軟 ③純焼	IV群
151	試掘坑	①粗砂粒 ②良好 ③灰濁	IV群
152	I区Q-11Gr	①細砂 ②良好 ③浅黄褐色	IV群
153	I区Q-8Gr	①粗砂粒 ②精軟 ③純焼	V群
154	I区S-11Gr	①細砂 ②精軟 ③純焼	V群
155	I区Y-11Gr	①細砂 ②精軟 ③純焼	V群
156	I区Y-9Gr	①砂粒 ②良好 ③純焼	V群
157	I区Y-10Gr	①砂粒 ②良好 ③純	V群
158	I区Y-10Gr	①細砂 ②良好 ③純焼	V群
159	I区O-7Gr	①細砂 ②堅緻 ③純焼	V群
160	I区Q-9Gr	①細砂 ②良好 ③純	V群
161	I区U-13Gr	①砂粒 ②軟質 ③純	V群
162	I区Q-10Gr	①粗砂粒 ②精軟 ③純焼	V群
163	I区P-10Gr	①砂粒 ②精軟 ③純黄褐色	V群
164	I区V-13Gr	①細砂 ②堅緻 ③純黄褐色	V群
165	II区C-4Gr	①細砂 ②堅緻 ③純	V群
166	I区N-9Gr	①砂粒 ②精軟 ③純赤褐色	V群
167	II区C-5Gr	①砂粒 ②良好 ③明赤	V群
168	I区N-9Gr	①細砂 ②堅緻 ③純焼	V群
169	I区N-9Gr	①細砂 ②堅緻 ③灰濁	V群
170	II区C-5Gr	①細砂 ②堅緻 ③灰濁	V群
171	II区G-6Gr	①細砂 ②堅緻 ③純	V群
172	I区Y-11Gr	①細砂 ②堅緻 ③灰濁	V群
173	I区Y-10Gr	①細砂 ②精軟 ③純焼	V群
174	II区B-4Gr	①細砂 ②堅緻 ③灰濁	V群
175	I区Y-11Gr	①細砂 ②堅緻 ③純	V群
176	I区U-10Gr	①砂粒 ②軟質 ③灰濁	V群
177	I区X-12Gr	①細砂 ②軟質 ③純黄褐色	V群

2. 縄文時代の遺構と遺物

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	分類・他
178	I区N-9Gr	①砂粒 ②良好 ③灰褐色	V群
179	I区N-9Gr	①細砂 ②良好 ③鈍褐色	V群
180	I区V-13Gr	①細砂 ②灰褐色 ③明褐色	V群
181	I区N-9Gr	①砂粒 ②良好 ③中性	V群
182	II区D-2Gr	①砂粒 ②良好 ③中性	IV群
183	II区D-2Gr	①砂粒 ②暗褐色 ③鈍褐色	V群
184	I区Q-10Gr	①細砂 ②良好 ③明赤褐色	IV群
185	I区P-8Gr	①細砂 ②灰褐色 ③黒褐色	土師

第3表 縄文石器観察表

採掘番号	出土位置	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	石材
1号住居跡						
第10区-26						
26	覆土	石鏃	(2.5)	(1.8)	(1.11)	黒頁
27	床直	石匙	(3.8)	(3.0)	(4.03)	黒頁
28	覆土	石匙	3.7	4.5	4.89	黒頁
29	覆土	石匙	3.9	(5.7)	(13.44)	黒頁
30	床直	打斧	9.1	6.0	89.83	黒頁
31	覆土	打斧	7.9	3.8	36.84	黒頁
32	覆土	打斧	8.4	6.5	78.58	黒頁
33	覆土	スタレ	10.8	7.8	182.76	黒頁
34	覆土	スタレ	13.5	7.5	399.30	黒頁
35	覆土	加刺	6.8	17.1	113.25	黒頁
36	覆土	使刺	4.2	7.8	41.42	黒頁
37	覆土	使刺	3.5	4.9	12.48	黒頁
38	覆土	磨石類	14.6	5.7	291.90	黒頁
39	覆土	磨石類	8.5	2.9	78.20	砂岩
第11区-40						
40	覆土	磨石類	9.5	7.5	339.29	粗安
41	覆土	磨石類	11.0	5.7	263.40	粗安
42	覆土	磨石類	(11.2)	(10.0)	(687.80)	粗安
43	床直	磨石類	10.8	9.3	891.40	粗安
44	床直	磨石類	11.7	7.7	412.50	粗安
45	床直	磨石類	17.3	8.2	738.90	粗安
46	床直	磨石類	17.2	9.3	952.70	粗安
第12区-47						
47	覆土	磨石類	11.4	8.0	689.00	粗安
48	覆土	四石	10.0	9.6	602.60	粗安
49	覆土	四石	10.5	7.3	332.90	粗安
50	床直	四石	11.7	7.0	409.40	粗安
51	覆土	糸研磨	12.4	9.5	308.70	砂岩
52	覆土	石皿	(13.2)	(16.0)	(1059.90)	粗安
53	覆土	多孔石	30.6	24.0	7350.00	粗安
2号住居跡						
第15区-11						
11	覆土	石鏃	1.7	(1.0)	(0.43)	チャート
12	覆土	石匙	(5.9)	(2.3)	(6.59)	チャート
13	覆土	加刺	2.6	1.2	0.86	黒頁
14	覆土	打斧	8.7	4.7	62.81	黒頁
15	覆土	打斧	9.5	4.8	119.83	黒頁
16	覆土	打斧	(8.2)	(9.3)	(275.10)	黒頁
17	覆土	スタレ	5.1	8.4	116.20	黒頁
18	覆土	スタレ	5.6	8.4	124.10	黒頁
19	覆土	加刺	5.6	9.8	93.30	黒頁
20	覆土	加刺	3.8	5.3	22.74	黒頁
21	覆土	加刺	1.8	2.7	7.33	チャート
22	覆土	加刺	3.4	4.2	20.41	黒頁
23	覆土	加刺	5.4	7.7	49.03	黒頁
24	覆土	加刺	7.7	6.1	49.73	黒頁
25	覆土	使刺	5.3	3.8	19.77	黒頁
26	覆土	使刺	4.5	5.2	28.29	黒頁

採掘番号	出土位置	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	石材
第16区-27						
27	覆土	使刺	2.0	4.0	4.90	黒頁
28	床直	使刺	2.2	3.6	3.82	黒頁
29	覆土	使刺	3.2	2.9	4.68	黒頁
30	覆土	使刺	3.5	3.4	8.53	頁岩
31	覆土	使刺	3.5	4.3	12.69	黒頁
32	覆土	使刺	4.1	4.4	17.61	黒頁
33	覆土	使刺	6.2	6.6	55.53	黒頁
34	覆土	使刺	7.7	6.5	54.27	黒頁
35	覆土	使刺	7.9	3.9	35.20	黒頁
36	覆土	使刺	7.3	7.7	55.99	黒頁
37	覆土	磨石類	(13.4)	(5.8)	(709.80)	石閃
38	覆土	磨石類	15.3	4.1	327.90	粗安
39	覆土	四石	10.6	9.3	512.50	粗安
40	覆土	四石	12.9	7.6	612.00	粗安
3号住居跡						
第20区-33						
33	覆土	石鏃	4.1	2.3	10.30	チャート
34	覆土	石鏃	(1.8)	1.4	(0.44)	黒頁
35	覆土	石鏃	(1.8)	(1.4)	(0.60)	チャート
36	覆土	石鏃	1.9	1.0	0.30	チャート
37	覆土	石鏃	(1.8)	1.6	(0.74)	黒頁
38	覆土	石鏃	(1.8)	1.3	(0.62)	黒頁
39	覆土	石匙	(4.2)	(6.0)	(20.58)	黒頁
40	覆土	石匙	4.5	(8.0)	(24.54)	黒頁
41	覆土	石匙	3.8	4.1	12.97	チャート
42	覆土	石匙	(2.9)	(1.9)	(2.47)	チャート
43	覆土	スタレ	16.1	7.7	529.30	粗安
44	覆土	スタレ	2.4	2.9	8.53	チャート
45	覆土	石核	5.6	6.5	149.15	黒頁
第21区-46						
46	覆土	スタレ	8.5	12.5	512.50	黒頁
47	覆土	磨石類	12.8	6.8	424.00	粗安
48	床直	四石	12.5	6.6	313.50	粗安
49	覆土	台石	(14.8)	(14.1)	(1288.40)	粗安
50	覆土	台石	(16.0)	(10.0)	(405.60)	粗安
4号住居跡						
第27区-50						
50	床直	石鏃	2.7	1.6	0.80	チャート
51	床直	石鏃	(1.8)	1.3	(0.52)	チャート
52	覆土	石匙	4.2	2.4	4.87	黒頁
53	覆土	石匙	(2.0)	(2.4)	(1.98)	黒頁
54	床直	石匙	2.5	4.4	4.58	黒頁
55	覆土	石匙	2.9	3.5	7.86	黒頁
56	床直	打斧	(3.3)	(2.7)	(6.98)	黒頁
57	床直	打斧	7.0	4.9	45.18	黒頁
58	床直	スタレ	10.0	3.8	70.03	黒頁
59	覆土	スタレ	6.0	4.1	29.43	黒頁
60	床直	スタレ	2.3	6.4	12.15	黒頁
61	床直	スタレ	5.3	8.0	59.01	黒頁
62	床直	スタレ	5.5	7.6	48.00	黒頁
63	覆土	スタレ	5.4	7.9	37.15	黒頁
64	床直	鎌部	11.4	6.9	367.70	黒頁
65	覆土	加刺	4.7	9.1	30.54	黒頁
第28区-66						
66	床直	加刺	8.2	4.0	55.56	黒頁
67	覆土	加刺	7.8	5.8	85.36	黒頁
68	覆土	加刺	18.0	10.0	846.50	黒頁
69	床直	使刺	7.0	5.3	36.03	黒頁
70	床直	使刺	5.8	5.2	18.76	黒頁
71	床直	使刺	7.5	5.2	45.26	黒頁
72	床直	使刺	6.9	4.9	29.89	黒頁
73	床直	使刺	9.7	10.2	121.32	黒頁
74	床直	使刺	6.6	5.4	21.08	黒頁
75	覆土	使刺	10.3	10.0	112.57	黒頁
76	覆土	台石	(28.6)	(21.2)	(3480.00)	粗安

II 検出された遺構と遺物

検出番号	出土位置	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	石材
218号土坑						
第34区-1	覆土	多孔石	14.7	11.0	834.20	粗安
216号土坑						
第34区-1	覆土	石鏡	(1.7)	(1.3)	(0.41)	黒曜石
226号土坑						
第35区-3	覆土	使刺	4.7	3.1	10.91	黒頁
285号土坑						
第37区-2	覆土	多孔石	(22.9)	(25.1)	(3900.00)	粗安
3	覆土	使刺	5.3	4.4	19.16	黒頁
286号土坑						
第38区-2	覆土	凹石	12.0	5.0	265.40	粗安
3	覆土	加刺	6.9	9.7	87.86	黒頁
287号土坑						
第38区-5	覆土	加刺	4.4	9.1	74.16	黒頁
291号土坑						
第40区-2	覆土	使刺	8.2	4.4	73.34	黒頁
3	覆土	加刺	7.5	4.5	43.45	粗安
4	覆土	加刺	7.7	9.8	124.62	黒頁
5	覆土	磨石類	15.6	9.4	994.40	粗安
6	覆土	磨石類	15.2	9.5	833.20	粗安
第41区-7	覆土	磨石類	11.5	4.3	207.80	粉岩
8	覆土	磨石類	12.3	5.5	356.20	ホルン
9	覆土	磨石類	16.3	4.9	484.50	灰安
10	覆土	磨石類	(6.7)	(7.5)	(178.40)	角安
11	覆土	磨石類	13.0	6.2	473.70	粗安
12	覆土	凹石	18.5	13.8	2050.00	粗安
292号土坑						
第42区-1	覆土	磨石類	8.1	7.0	259.90	粗安
2	覆土	凹石	9.1	6.9	180.40	粗安
3	覆土	多孔石	10.8	10.4	646.60	粗安
4	覆土	多孔石	16.5	11.1	1396.80	粗安
293号土坑						
第43区-11	覆土	使刺	5.9	5.7	50.51	黒頁
12	覆土	加刺	11.9	6.6	122.06	黒頁
13	覆土	磨石類	(15.2)	(6.6)	(1056.40)	栗安
294号土坑						
第44区-6	覆土	石鏡	(2.2)	(1.9)	(1.55)	チャート
7	覆土	加刺	6.0	6.6	60.26	黒頁
8	覆土	使刺	3.0	3.5	6.99	黒頁
9	覆土	使刺	5.4	7.4	48.65	栗安
295号土坑						
第45区-10	覆土	使刺	6.7	4.2	26.38	黒頁
11	覆土	使刺	5.1	3.8	5.41	黒頁
グリッド出土石鏡						
第53区-1	1 L-7	石鏡	2.0	1.1	0.45	黒曜石
2	II C-3	石鏡	2.1	1.7	1.73	黒曜石
3	I U-12	石鏡	1.7	1.7	0.47	チャート
4	II H-7	石鏡	1.9	2.1	0.87	チャート
5	I M-8	石鏡	(3.1)	(1.6)	(1.74)	チャート
6	II H-5	石鏡	(3.0)	(1.0)	(1.20)	黒曜石
7	I V-9	石鏡	3.0	1.5	1.85	黒頁
8	I T-10	石鏡	(2.7)	(1.4)	(1.10)	チャート
9	I S-9	石鏡	3.5	2.0	5.41	チャート
10	I L-7	石鏡	(2.6)	1.6	(1.99)	チャート
11	I L-8	石鏡	7.5	2.8	30.61	黒頁
12	II E-4	石鏡	4.9	3.2	14.93	黒頁
13	I P-7	石鏡	5.3	2.7	6.84	チャート
14	I V-10	石鏡	5.8	2.3	6.91	黒頁
15	II C-5	石鏡	(3.2)	3.5	(7.96)	黒頁
16	II C-5	石鏡	3.3	4.9	6.17	黒頁
17	II D-5	石鏡	4.2	5.1	11.11	黒頁

検出番号	出土位置	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	石材
第54区-18	II D-5	石鏡	5.8	5.4	25.72	黒頁
19	I M-8	石鏡	4.2	5.0	13.20	黒頁
20	II B-4	石鏡	4.7	5.6	13.40	黒頁
21	I 区表探	磨片	22.5	6.2	763.21	栗安
22	I 区表探	磨片	16.3	5.7	331.40	栗安
23	I L-7	打斧	8.3	4.2	80.01	黒頁
24	II G-6	打斧	9.3	4.6	92.97	黒頁
25	I U-11	打斧	10.0	4.5	79.01	黒頁
26	I N-9	打斧	8.7	4.0	71.19	黒頁
27	I Q-10	打斧	12.7	6.3	260.20	黒頁
28	I S-11	打斧	9.4	4.3	55.34	黒頁
第55区-29	II D-9	打斧	7.2	5.3	61.46	黒頁
30	II C-5	打斧	7.0	5.3	37.82	黒頁
31	II D-3	打斧	7.1	4.8	48.70	黒頁
32	II D-5	打斧	6.8	5.0	60.78	黒頁
33	II C-5	打斧	8.3	5.5	82.81	黒頁
34	I P-11	打斧	8.2	4.8	74.29	黒頁
35	II D-4	打斧	8.7	5.4	79.52	黒頁
36	II D-5	打斧	9.7	5.6	130.94	黒頁
37	I 区表探	打斧	11.8	5.3	111.95	ホルン
38	I M-6	打斧	8.9	6.6	102.78	黒頁
39	I N-7	打斧	5.7	4.6	62.38	黒頁
40	I R-11	打斧	9.6	7.2	146.21	黒頁
第56区-41	I U-13	打斧	12.1	5.1	111.88	ホルン
42	I S-10	打斧	8.7	5.0	52.95	黒頁
43	II D-5	打斧	8.7	5.5	113.07	黒頁
44	I 区表探	打斧	10.9	6.6	152.93	粗安
45	II D-2	打斧	13.1	6.8	229.00	灰安
46	I N-9	打斧	10.7	5.4	115.28	黒頁
47	I V-11	磨石	8.8	6.0	270.80	黒頁
48	I M-6	スクレ	12.3	6.9	247.20	黒頁
49	I P-9	スクレ	12.5	8.1	383.80	黒頁
第57区-50	II C-3	スクレ	1.7	1.7	0.72	黒曜石
51	I Q-9	スクレ	3.3	2.1	36.30	黒曜石
52	II D-3	スクレ	2.7	2.9	6.61	チャート
53	II D-5	スクレ	1.5	2.4	2.90	チャート
54	II C-5	スクレ	7.0	3.1	24.92	黒頁
55	II D-4	スクレ	8.8	5.5	67.80	黒頁
56	II C-5	スクレ	3.7	2.6	7.88	チャート
57	II E-3	スクレ	2.6	3.4	4.82	黒頁
58	II D-3	スクレ	3.2	3.5	14.16	チャート
59	II G-3	スクレ	3.7	4.3	30.78	栗安
60	II 区表探	スクレ	4.7	7.7	90.31	栗安
61	II B-2	スクレ	6.2	10.0	107.09	黒頁
62	II C-5	スクレ	5.6	7.5	105.59	黒頁
63	I V-12	スクレ	8.7	10.6	198.16	黒頁
64	I V-10	スクレ	5.8	6.1	115.35	黒頁
65	I S-11	スクレ	6.9	12.0	250.80	黒頁
66	I R-11	スクレ	5.0	5.8	52.88	黒頁
67	II D-5	加刺	6.3	5.3	41.51	黒頁
68	II 区表探	加刺	6.8	6.2	37.40	黒頁
69	II D-3	加刺	5.7	5.2	40.88	黒頁
70	I Q-9	加刺	6.1	5.5	42.89	ホルン
71	I T-10	加刺	4.0	3.3	13.27	黒曜石
第58区-72	I Q-9	加刺	3.8	2.1	10.21	チャート
73	II E-4	加刺	5.4	2.0	11.65	チャート
74	I I-6	加刺	6.3	4.3	52.79	チャート
75	II 区表探	加刺	8.9	4.4	103.01	黒頁
76	I N-9	加刺	8.3	4.6	39.47	黒頁
77	I X-12	加刺	2.9	3.8	5.10	チャート
78	I V-11	加刺	4.7	5.7	48.24	黒頁

2. 縄文時代の遺構と遺物

棟号	出土位置	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	石材
79	II D-5	加刺	4.2	7.3	31.72	黒頁
80	II D-4	加刺	8.7	9.2	260.10	黒頁
81	II E-5	加刺	8.7	9.2	120.70	黒頁
82	II C-5	加刺	6.1	10.0	124.28	黒頁
83	II F-3	加刺	4.4	6.8	46.30	黒頁
84	II C-2	加刺	4.6	7.3	43.49	黒頁
85	II B-4	加刺	4.1	8.5	33.48	黒頁
86	II D-5	加刺	6.2	8.3	106.38	黒頁
87	I V-13	加刺	6.0	8.9	60.71	黒頁
第59図-88	II D-2	加刺	3.3	8.5	32.69	黒頁
89	II E-4	加刺	3.3	9.2	28.97	黒頁
90	II C-5	加刺	4.5	6.6	23.30	黒頁
91	II D-2	使刺	5.4	5.2	39.61	黒頁
92	I M-8	使刺	7.5	6.1	61.11	黒頁
93	I 区表探	使刺	7.2	4.0	28.53	黒頁
94	I K-7	使刺	8.3	4.6	60.68	黒頁
95	I O-9	使刺	7.3	4.1	20.93	黒頁
96	II D-4	使刺	7.0	2.8	19.11	黒頁
97	II E-4	使刺	8.5	4.0	53.37	黒頁
98	I M-9	使刺	7.4	5.4	57.59	黒頁
99	II C-3	使刺	7.8	7.4	60.47	黒頁
100	I M-5	使刺	6.8	4.1	27.44	黒頁
101	I L-7	使刺	4.7	2.0	5.81	チャート
102	I Q-10	使刺	4.6	4.3	19.95	黒頁
103	II C-5	使刺	4.7	5.0	14.40	黒頁
104	II D-4	使刺	3.6	4.2	9.22	黒頁
105	I 区表探	使刺	3.2	4.4	16.27	黒頁
106	II C-5	使刺	3.7	4.5	14.27	黒頁
107	II D-5	使刺	5.4	6.3	47.66	黒頁
108	I P-10	使刺	2.5	4.0	9.38	思磨石
109	I S-11	使刺	2.7	6.2	10.84	黒頁
第60図-110	I Q-11	使刺	3.6	8.2	30.07	黒頁
111	II 区表探	使刺	3.4	10.5	39.29	黒頁
112	II C-2	使刺	5.0	7.2	50.27	黒頁
113	I 区表探	使刺	5.2	10.5	72.32	黒頁
114	I L-7	使刺	5.5	9.3	75.50	黒頁
115	II C-2	石核	6.3	13.3	436.40	黒頁
116	II D-4	石核	3.8	6.1	107.40	黒安
117	II F-3	石核	3.8	6.2	82.32	黒頁
118	I Q-11	石核	6.2	9.4	302.80	黒頁
第61図-119	I N-7	三角錐	7.2	7.2	353.00	黒頁
120	I O-8	スタンプ	14.4	8.2	977.20	安安
121	II D-5	磨石類	15.4	8.2	679.10	粗安
122	I K-7	磨石類	8.6	6.6	351.10	粗安
123	II D-6	磨石類	7.1	6.7	368.50	粗安
124	II C-5	磨石類	10.5	6.2	231.90	粗安
125	II C-3	磨石類	13.0	5.9	545.20	滑礫
第62図-126	I M-9	磨石類	9.9	4.5	158.40	粗安
127	I 区表探	磨石類	10.8	7.7	512.60	粗安
128	II D-3	磨石類	10.8	7.8	412.70	粗安
129	I L-8	磨石類	10.4	5.0	328.60	石閃
130	I N-8	凹石	8.1	7.0	317.10	粗安
131	II D-4	凹石	8.8	7.6	288.80	粗安
132	I T-9	凹石	7.6	5.8	107.00	粗安
133	I M-6	凹石	6.5	5.1	82.00	粗安
134	I N-6	凹石	7.6	6.6	118.00	粗安
135	II E-3	凹石	13.8	8.1	593.10	粗安
136	I N-9	凹石	13.0	11.5	592.80	粗安
第63図-137	II E-3	凹石	11.7	7.4	427.20	粗安
138	II C-3	凹石	11.3	7.7	545.40	粗安
139	I O-9	凹石	15.0	7.2	450.80	粗安

棟号	出土位置	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	重さ (g)	石材
140	II 区表探	凹石	12.3	8.4	461.60	粗安
141	I P-9	凹石	14.6	11.7	1200.40	粗安
142	II C-3	凹石	12.2	7.4	405.50	粗安
143	I 区表探	敲石	12.9	5.6	476.00	石閃
第64図-144	I K-7	石皿	12.5	(21.5)	(1165.70)	粗安
145	I K-7	石皿	(19.5)	(12.8)	(1581.60)	粗安
146	I K-7	多孔石	13.1	12.7	813.90	粗安
147	I P-9	多孔石	16.6	12.5	1519.10	粗安
148	II C-4	台石	(20.8)	(12.3)	(1348.80)	粗安
149	II D-3	台石	(19.0)	15.2	(220.80)	粗安
150	II C-3	朱研磨	8.2	7.3	111.60	砂岩

II 検出された遺構と遺物

器種 (1603点)

①	②	③	使用痕を持つ割片 225点 (14%)	④	⑤	割片 916点 (57.1%)
---	---	---	------------------------	---	---	-----------------

① 石鏃・石槍・石靴・打製石斧・磨製石斧・磨器・石槌・スタンプ形石器・三角鏃形石器・砥石・糸痕状研磨器・多孔石・石皿・台石・礎・礎片 128点 (8.0%)

③ 加工痕を持つ割片 150点 (9.4%)
④ 磨石 80点 (5.0%)
⑤ 凹石 54点 (3.4%)

② スクレイパー (50点)

石材 (1603点)

黒色頁岩 988点 (61.6%)				チャート180点 (11.2%)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
① 粗粒安山岩	134点 (8.3%)	珪質頁岩	7点	珩岩	2点						
② 黒色安山岩	96点 (6.0%)	石英閃緑岩	6点	閃緑岩	2点						
③ 黒曜石	30点 (1.9%)	灰色安山岩	6点	変状岩	2点	珪質変質岩	1点				
④ 砂岩	29点 (1.8%)	変質玄武岩	5点	流紋岩	2点	石英	1点				
⑤ ホルンフェルス	28点 (1.7%)	砂粒安山岩	5点	変質玄武岩	2点						
⑥ 頁岩	24点 (1.5%)	変質安山岩	4点	角閃石安山岩	2点						
⑦	94点 (5.9%)	雲母石英片岩	4点	輝石	2点						
細粒安山岩	13点	玉髓	3点	輝緑岩	2点						
溶結凝灰岩	10点	輝緑凝灰岩	3点	白色珪質岩	1点						
緑色片岩	8点			安山岩質凝灰岩	1点						

石鏃 (25点)

黒色頁岩	5点 (20%)	チャート16点 (64%)	①	②
------	----------	---------------	---	---

① 黒曜石 3点 (12%)
② 玉 髓 1点 (4%)

石槍 (2点)

黒色頁岩 (100%)	
-------------	--

石靴 (23点)

黒色頁岩 18点 (78%)	①	②
----------------	---	---

① 白色珪質岩 1点 (4%)
② チャート 4点 (18%)

打製石斧 (39点)

黒色頁岩 32点 (82%)	①	②	③
----------------	---	---	---

① 粗粒安山岩 1点 (2.6%) ③ 細粒安山岩 1点 (2.6%)
珪質頁岩 1点 (2.6%) ホルンフェルス 2点 (5.0%)
② 灰色安山岩 1点 (2.6%)
頁岩 1点 (2.6%)

磨製石斧 (2点)

変質玄武岩 (100%)	
--------------	--

スクレイパー (50点)

黒色頁岩 37点 (74%)	③	④
----------------	---	---

① 黒色安山岩 1点 (2%)
粗粒安山岩 1点 (2%) ③ チャート 6点 (12%)
② 閃緑岩 1点 (2%) ④ 黒曜石 2点 (4%)
頁岩 1点 (2%) ホルンフェルス 1点 (2%)

磨器 (3点)

黒色頁岩 2点 (66.7%)	質緑石英片岩 1点 (33.3%)
-----------------	----------------------

加工痕を持つ割片 (150点)

黒色頁岩 120点 (80%)	③	④
-----------------	---	---

① 珪質頁岩 2点 (1.3%)
灰色安山岩 1点 (0.7%)
緑色片岩 1点 (0.7%) ④ 細粒安山岩 3点 (2.0%)
砂岩 1点 (0.7%) ⑤ 黒曜石 2点 (1.3%)
② 頁岩 5点 (3.3%) ⑥ ホルンフェルス 6点 (4.0%)
③ チャート 8点 (5.3%) 変質玄武岩 1点 (0.7%)

使用痕を持つ割片 (225点)

黒色頁岩 206点 (91.6%)	①	②	③
-------------------	---	---	---

① 黒色安山岩 8点 (3.6%)
② 粗粒安山岩 1点 (0.4%)
砂岩 3点 (1.3%)
③ 頁岩 2点 (0.9%)
チャート 4点 (1.8%) 安山岩質凝灰岩 1点 (0.4%)

石槌 (15点)

黒色頁岩 10点 (67%)	①	②	③
----------------	---	---	---

① 黒曜石 2点 (13.3%) ③ 細粒安山岩 1点 (6.7%)
② 黒色安山岩 2点 (13.3%)

スタンプ形石器 (1点)

変質安山岩 (100%)	
--------------	--

三角鏃形石器 (1点)

黒色頁岩 (100%)	
-------------	--

第65図 石器の器種と石材構成

III ま と め

花積下層式土器口縁部文様の構成について

—五目牛南組遺跡出土土器から—

はじめに

本遺跡では、縄文時代前期初頭の花積下層式期の住居跡が4軒検出されており、そのうちの2軒は良好な出土状態を呈している。特に4号住居跡出土土器は良好なセットをなし、おそらく花積下層式後半段階に比定される資料であろう。本遺跡の土器群は、従来比較の出土量が少ないといわれてきた前期初頭期の土器群に新たな資料を加えることになり、今後該期土器研究が進展する中で、赤城山南麓平野部の資料として位置付けられるものである。

群馬県において、花積下層式土器は勢多郡赤城村三原田城遺跡の調査報告によって、初めて考古学の俎上に乗ったといえよう(小野他 1986)。この報告書によって、北関東の花積下層式土器の様相が提示され、東北地方や南関東、さらに太平洋沿岸の該期土器群との比較が可能になった。三原田城遺跡の報告では、考察として、積極的に分類と併行する他型式との比較が行われ(谷藤)、口縁・底部形態と器形の関係や燃糸側面瓦痕文の様相なども言及し、さらに石器組成様相、住居跡規模、形形態の変遷なども提示している(小野)。

その後、県内でも花積下層式土器の出土が知られるようになり、例えば本遺跡に隣接する五目牛清水田遺跡でも早期末葉から該期土器群の豊富な出土が認められている(藤巻 1993)。

本遺跡の花積下層式土器は、概ね三原田城遺跡出土土器と比較して、ほぼ同時期ないしは若干後行するものと考えられるが、時期的にはバラエティーに富む。この段階における県内の資料は今後も充実が期待され、おそらく編年研究や分布論などに研究成果の進展が見込まれ、縄文時代早期末から前期中葉に至る変遷過程を考える上で、常に問題提起をなすものと思われる。

そこで本報告書では、本遺跡出土の花積下層式土器口縁部文様の施文効果に着目し、この段階の施文意識を考え、該期土器文様の変遷を捉える上で、この施文意識の変化を見いだす視点を指摘し、まとものかわりとして。

1、折り返し口縁部を施文域とする意識

花積下層式土器の口縁部を分析した前述の三原田城遺跡の報告では17種類の口縁部形態を提示している。そのうち、5種類の折り返し口縁部を抽出しており、各々の形態的な特徴や施文傾向を指摘した。

ここで小野氏は、「折り返しを持つものは総じて口唇部が尖り気味となるものが多く、短く折り返すものとやや幅広い2種類が見られる」とした。さらに、「折り返し口縁となるものは底部から口縁に向かって比較的単調に開く器形を呈し、かなり大形のものが目立つ」と折り返し口縁と器形の関連も指摘している。また、三原田城遺跡出土土器の折り返し口縁部分には比較的燃糸側面瓦痕文を施す例が多く、このことから、花積下層式土器における折り返し口縁は重要な施文域として、意識されていたものと考えられる。

すなわち、折り返し口縁を設ける深鉢は、器形としてその製作に計画性を持つ大形のものも多く、かつ花積下層式に特徴的な燃糸側面瓦痕文を施す例が認められる。折り返し口縁は、継続的な安定性が認められる指標として位置付けられるのであろう。

ここで、本遺跡出土の折り返し口縁を持つ深鉢に注目すると3号住1、4号住2が挙げられる(図1)。2個体とも大形の器形を呈し、前述の小野氏の指摘を確認する資料であり、折り返し口縁を持つ深鉢が大形のものに限られる傾向が把握される。

しかし、本遺跡該期出土土器の折り返し口縁を持

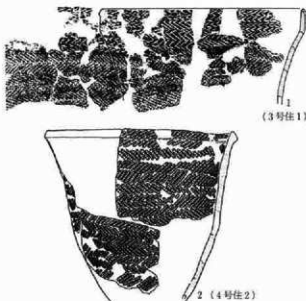


図1 折り返し口縁を持つ深鉢

燃余側面瓦痕文を施す例は少ない。また、幅広の折り返し口縁のものではなく、短く折り返されたものが主体を占め、縄文施文で覆われている。

すなわち、折り返し口縁を設ける深鉢は、三原田城例のように、その安定性を保持し口縁部を施文域として確定する一群と、本遺跡のように折り返し部分を短くし、縄文施文のみの羽状構成に覆われる一群が認められるのである。この両者は時期差や地域差による差異とも考えられるが、口縁部文様の施文意識の差としても捉えられ、花積下層式期の折り返し口縁部の系譜と変遷をたどるうえで、施文意識の変化を軸に分析することも必要であろう。

以上のように、折り返し口縁部を施文域とした意識は、花積下層式期に発達を遂げるが、折り返し部分の変化に伴い、羽状縄文のみに覆われる深鉢や、施文を口縁部文様帯に集中するようになる。花積下層式後半の側面として注目しておきたい。

2, 口縁部矢羽状効果をする意識

再度3号住1を注目すると、口縁部文様として横位矢羽状刺し切り文が多段に施される特徴を持つ。本稿では花積下層式の特徴として、この矢羽状効果が土器文様として確立した段階として考えてみたい。

花積下層式土器は羽状縄文系土器群として位置付けられ、燃余側面瓦痕文などにその指標がおかれていたが、文様構成を観点とすると口縁部に文様の集中が見られ、その構成方法に矢羽状効果が強く意識された様相が見られる。また、羽状縄文は羽状効果としても位置付けられるが、ただ単に縄文の回転施文の合理性だけではなく、文様効果としての横方向矢羽状文として位置付けられよう。

ここで本遺跡該期出土土器の内、口縁部に矢羽状効果が見られた数例を抽出し図2に示した。

1は早期末～花積下層式初期に位置付けられる口縁部破片である。この段階の資料は、隣接する五日牛清水田遺跡で良好に出土しているため、本遺跡では詳細を避けるが、この一群は早期末葉の要素を多分に残す花積下層式土器成立段階を示唆する資料でもある。折り返し口縁で、僅かに肥厚する。口縁部、体部ともに縦位施文の0段多糸の羽状構成で覆われるが、施文方向が影響し矢羽方向は「縦」である。これは、おそらく底部形態（尖底）に起因する施文方向によって縦位矢羽状縄文で構成される結果となったのであろう。

花積下層式盛期～終末期においては、その成型と施文の交互性から、施文は横方向が基本となり、同時に横位矢羽状構成が口縁部文様の主要な構成方法となるようである。2～7がその諸例であるが、2のように角頭状の口唇端部にも縄文が施され、口縁下の縄文と対比すると横位矢羽状文が構成される結果となる。

さて、前節で指摘した、花積下層式土器の折り返し口縁の様相から、この折り返し部分にこの角頭状口縁に見られた矢羽状構成が転写する変化を考えなければならない。本遺跡では明瞭な資料は少ないが、4号住2のように折り返し部分に縄文が施される例や、矢羽状縄文（羽状縄文）が施される例は花積下層式土器では一般である。これは2図1の縦位矢羽状構成が横位に変化する段階で、角頭状口唇端部を含めた矢羽状構成が折り返し部分に強く意識されたものと考えられよう。この口縁部横位矢羽状構成は、

III まとめ

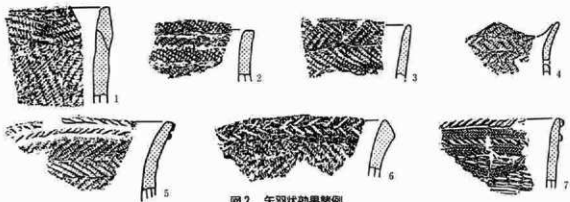


図2 矢羽状効果諸例

3の素口縁や4の波状口縁を呈する深鉢にも定着し、かつその多様性として、5のように平行する隆線に施す刺し切り文や、6・1図1などに見られる横位刺し切り文にこの口縁部横位矢羽状構成が意識されるようである。これは施文具の置換であり、0段3条の羽状縄文による矢羽状文や横位燃糸側面丘痕文が刺し切り文に置き換えられた結果と捉えられる。

また、花積下層式土器の指標ともいえる燃糸側面丘痕文も土器文様が変遷する中で矢羽状になるように組み合わせられるようになる。7は平行する隆線に刺し切り文を矢羽状に施し、効果を安定させ、さらに燃糸側面丘痕文を2条組み合わせることによって矢羽状の効果を強調している。

以上のように、花積下層式土器口縁部には、矢羽状の効果が強く意識され、施文具の置き換えなどにより一層強調される特徴が指摘されよう。

まとめ

本遺跡の花積下層式土器の文様構成において、折り返し口縁部施文意識と口縁部矢羽状構成意識の二側面から、花積下層式土器における文様構成の基幹を探ってみたが、両側面とも複雑に絡み合い、上記のような単純な様相ではない。関山I式では、口縁部文様帯に羽状効果が低下する現象を考えるならば、口縁部文様帯に羽状効果を持つ。これらの土器群の位置は注意すべきである。

口縁部矢羽状構成も、体部の施文方法との関わりからも考えなければならないだろう。「追加成形施文法」(黒坂1989)は、前期に特徴的な施文方法であり、

土器文様全体の施文構成方法を考える際に重要な視点である。施文順位と羽状構成の関係を考えれば、体部羽状構成と口縁部矢羽状構成は密接な関連を持つ。口縁部と体部文様の連携による文様構成は、次代の土器群へどのような影響を持つのか問題は多い。

上記のような問題点を解明しなければ、今後該期土器研究の進展は果されないものであるが、本稿では、縄文時代前期土器文様の初現段階である花積下層式土器を分析する際に、文様構成を理解する手段として、施文効果と意識に視点を当ててみた。

しかしながら、筆者の勉強不足と紙数の都合もあり詳細な論述が及ばず残念である。前述のように、花積下層式土器は資料の増加が見込まれる土器群で、研究の発展と蓄積が約束されている。本遺跡出土土器と拙稿が研究の発展に少しばかりでも寄与できれば、編集者としてこのうえなく幸いである。

最後に、本書作成にあたり群馬県埋蔵文化財調査事業団職員の方々から多くのご助言、ご協力を得ている。特に藤巻幸男、原 雅信、小野和之氏からはご指導をいただいた。文末ながら記して感謝したい。

(山口)

〈参考文献〉

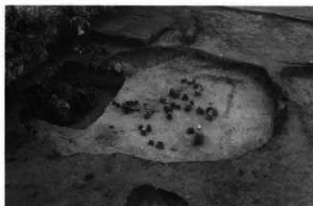
- 1 小野和之・谷藤保彦 「三原田城遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- 2 藤巻幸男 「五日市清水田遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993 刊行前ではあるが出土土器の観察とご教示を藤巻氏から賜った。
- 3 黒坂雅二 「羽状縄文系土器の文様構成(点描)-1」『研究紀要』第16号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1989

写真図版





1. 1号住居跡全景



2. 1号住居跡遺物出土状態



3. 1号住居跡炉跡



4. 1号住居跡遺物出土状態



5. 1号住居跡炉跡



1. 1号住居跡遺物出土状態



2. 1号住居跡遺物出土状態



3. 2号住居跡全景



4. 2号住居跡



5. 2号住居跡



1. 3号住居跡全景



2. 3号住居跡遺物出土状態



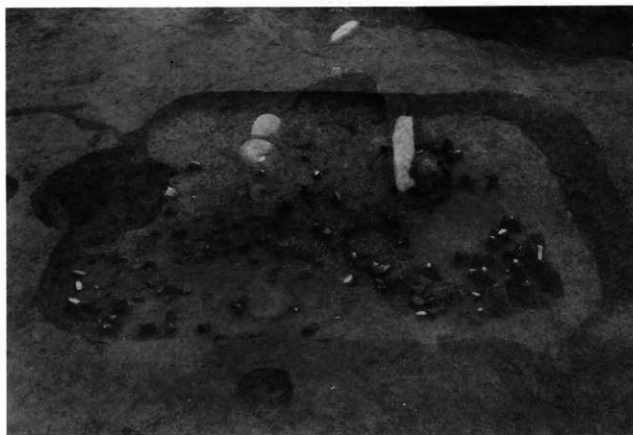
3. 3号住居跡遺物出土状態



4. 3号住居跡遺物出土状態



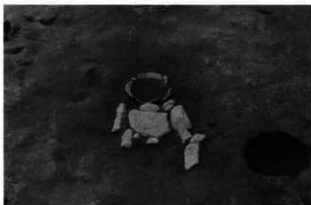
1. 4号住居跡全景



2. 4号住居跡遺物出土状態



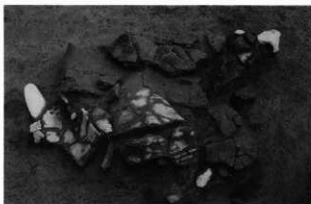
1. 4号住居跡遺物出土状態



2. 4号住居跡炉跡



3. 4号住居跡遺物出土状態



4. 4号住居跡遺物出土状態



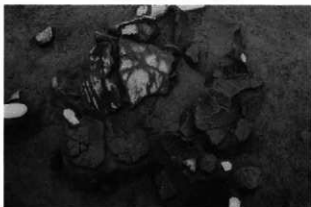
5. 4号住居跡遺物出土状態



6. 4号住居跡遺物出土状態



7. 4号住居跡遺物出土状態



8. 4号住居跡遺物出土状態



1. 小型竖穴状遺構



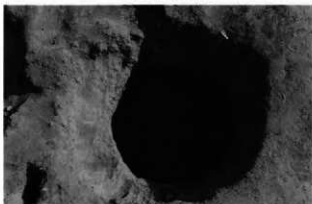
2. 小型竖穴状遺構遺物出土状態



3. 2号埋設土器



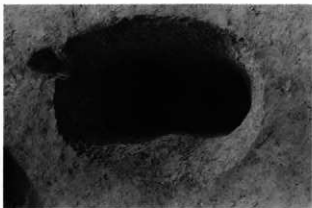
4. 3号埋設土器



5. 140号土坑



6. 195号土坑



7. 202号土坑



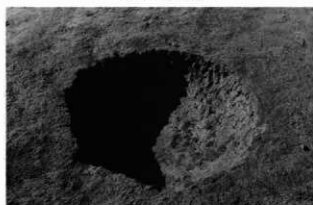
8. 203号土坑



1. 211号土坑



2. 212号土坑



3. 213号土坑



4. 214号土坑



5. 215号土坑



6. 216号土坑



7. 217号土坑



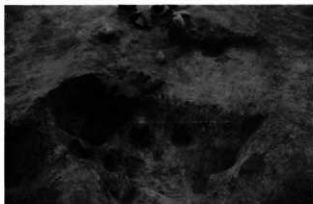
8. 218号土坑



1. 219号土坑



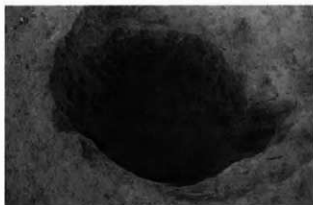
2. 220号土坑



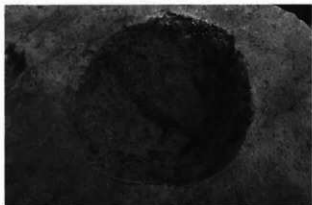
3. 221号土坑



4. 225号土坑



5. 226号土坑



6. 227号土坑



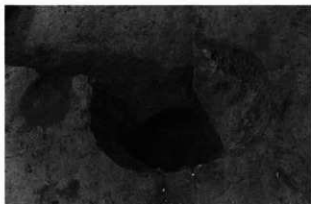
7. 228号·229号·231号土坑



8. 232号土坑



1. 233号土坑



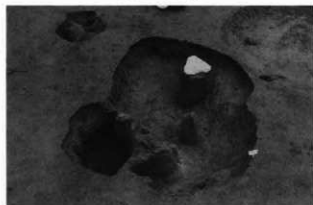
2. 234号土坑



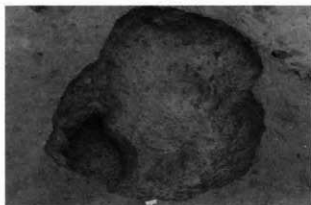
3. 284号土坑



4. 286号土坑



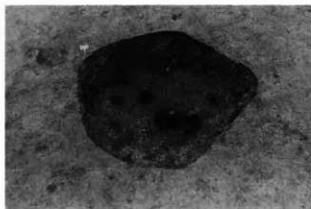
5. 285号土坑



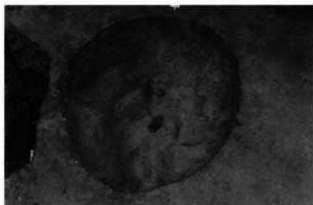
6. 285号土坑



7. 287号土坑



8. 288号土坑



1. 290号土坑



2. 293号土坑



3. 291号土坑



4. 291号土坑セクション



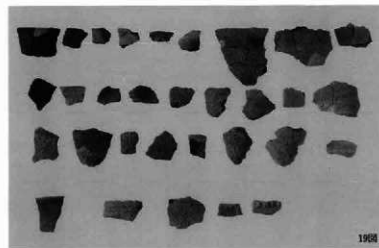
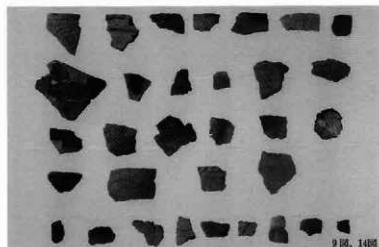
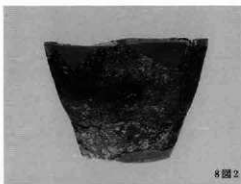
5. 292号土坑



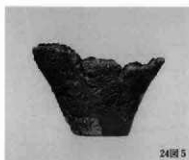
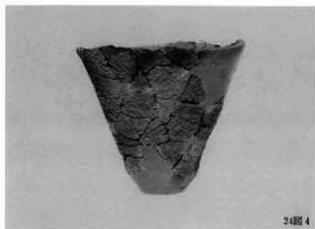
6. 294号土坑



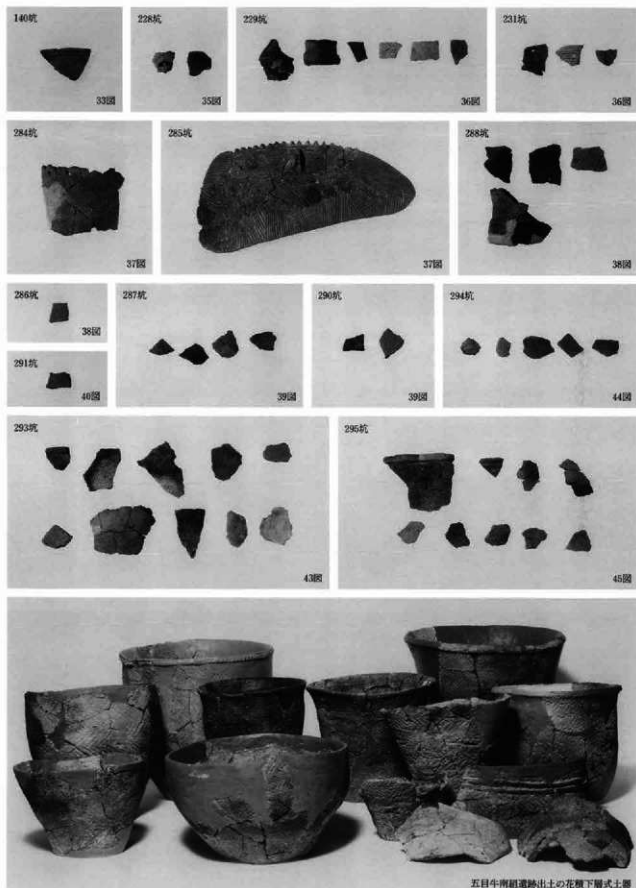
7. 295号土坑



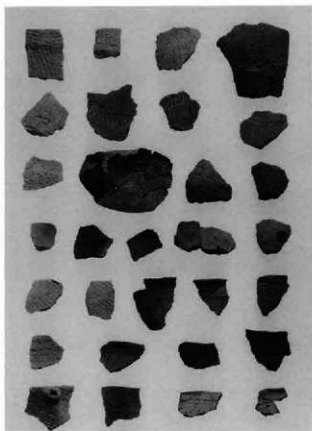
出土土器



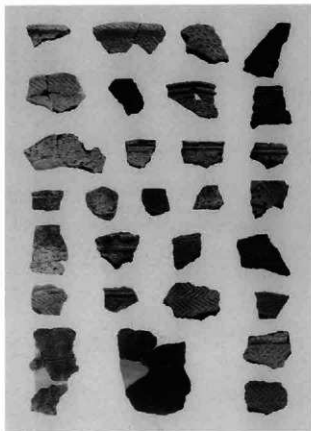
出土土器



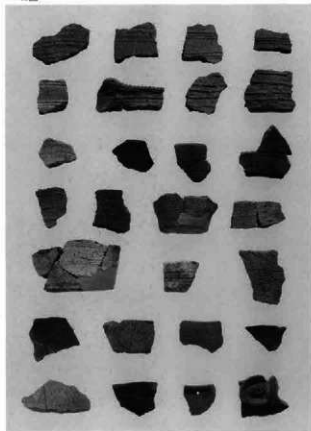
出土土器



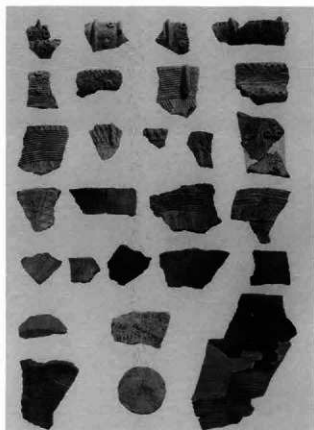
▲46回
▼48回



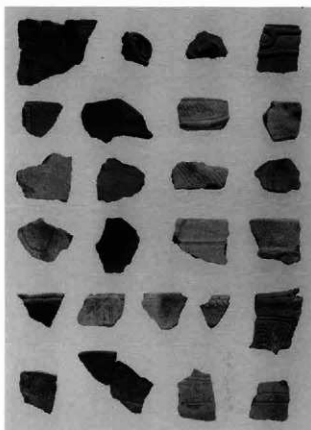
▲47回
▼49回



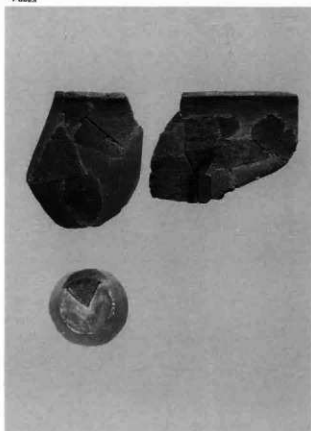
グリッド出土土器



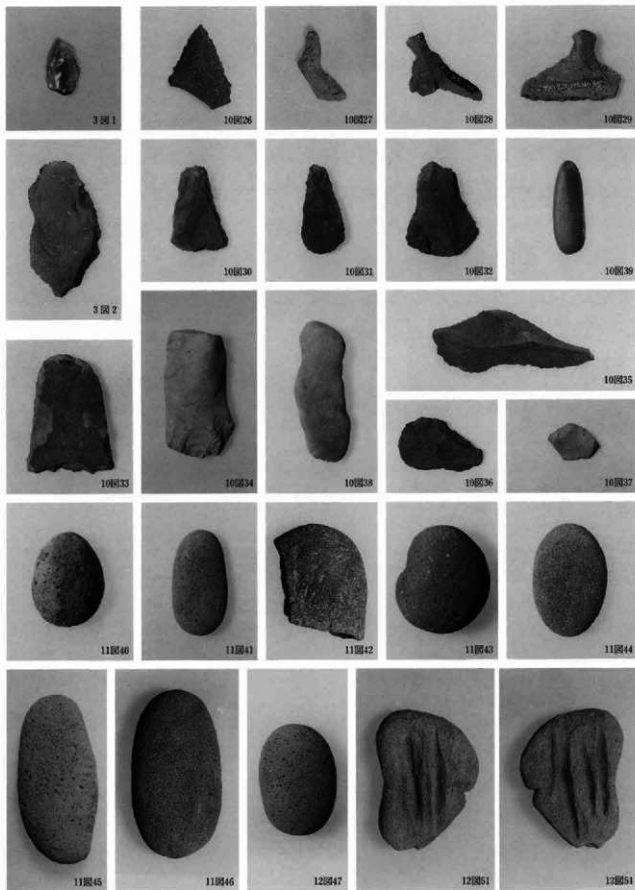
▲50図
▼52図



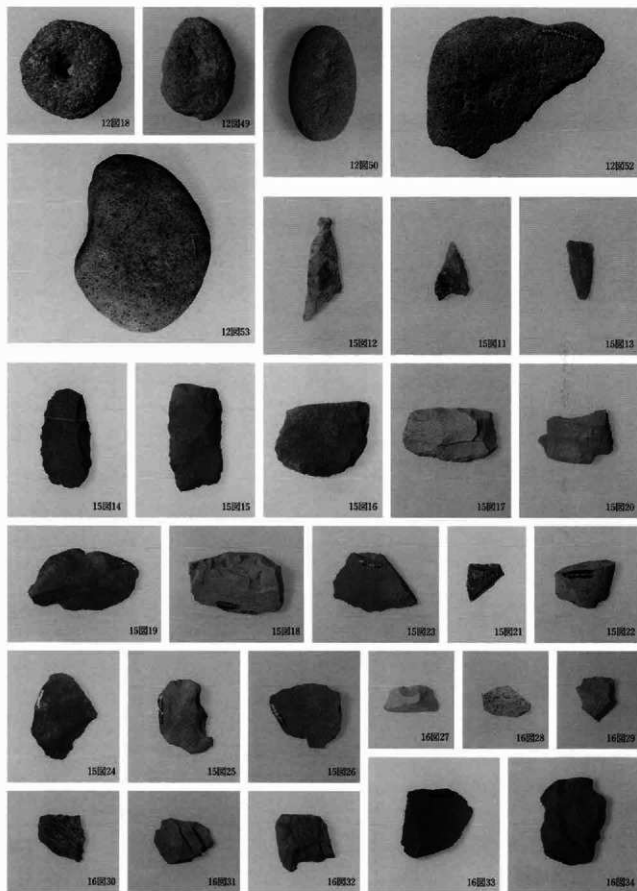
▲51図
▼52図



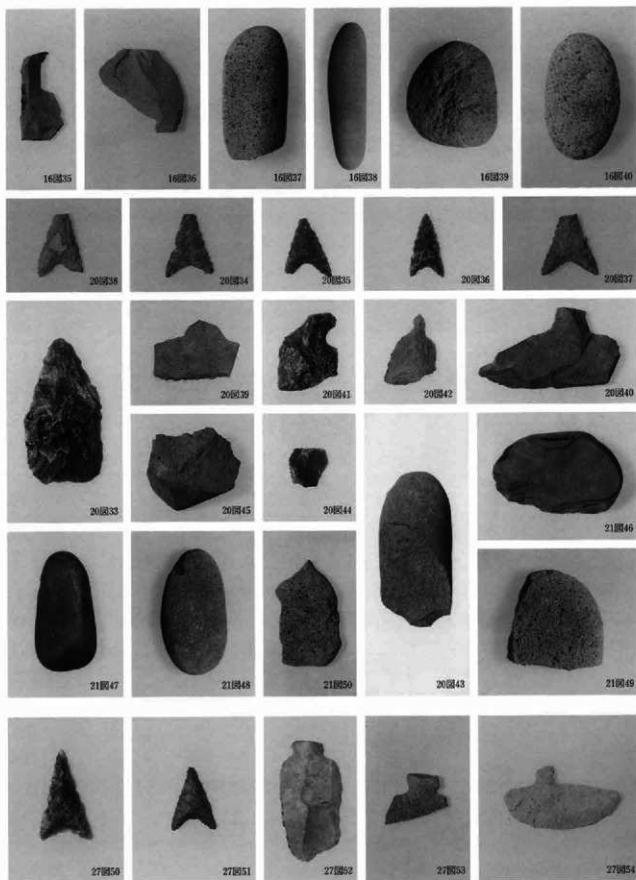
グリッド出土土器



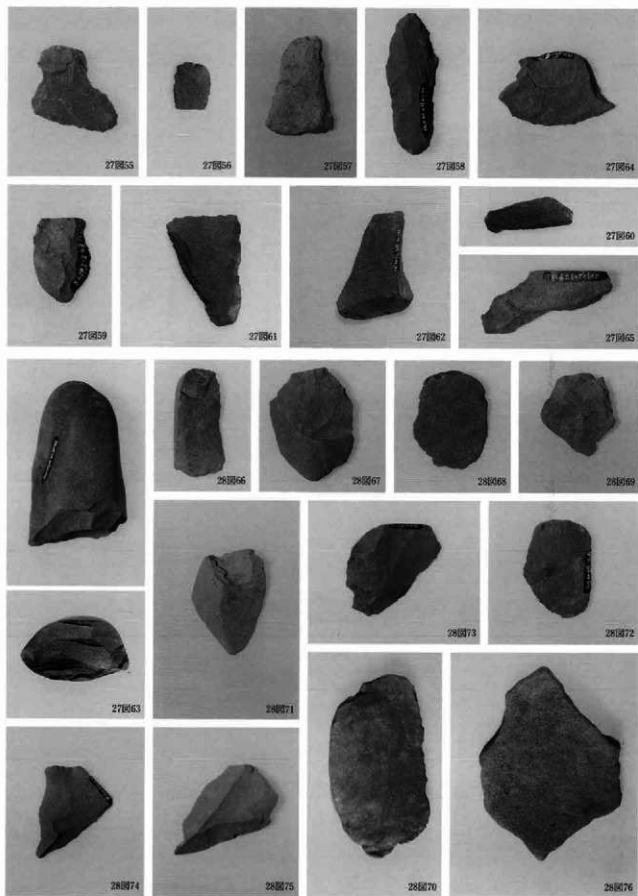
出土石器



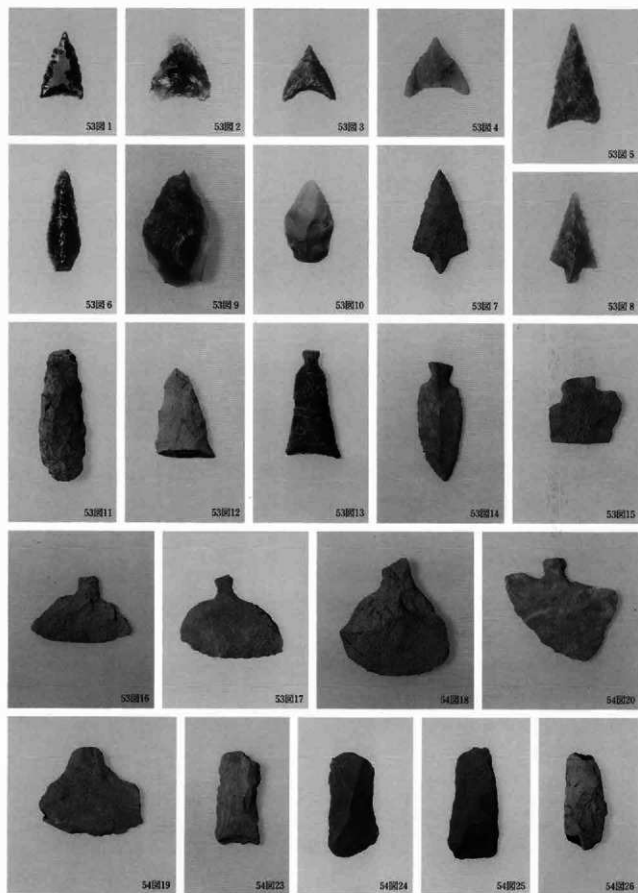
出土石器



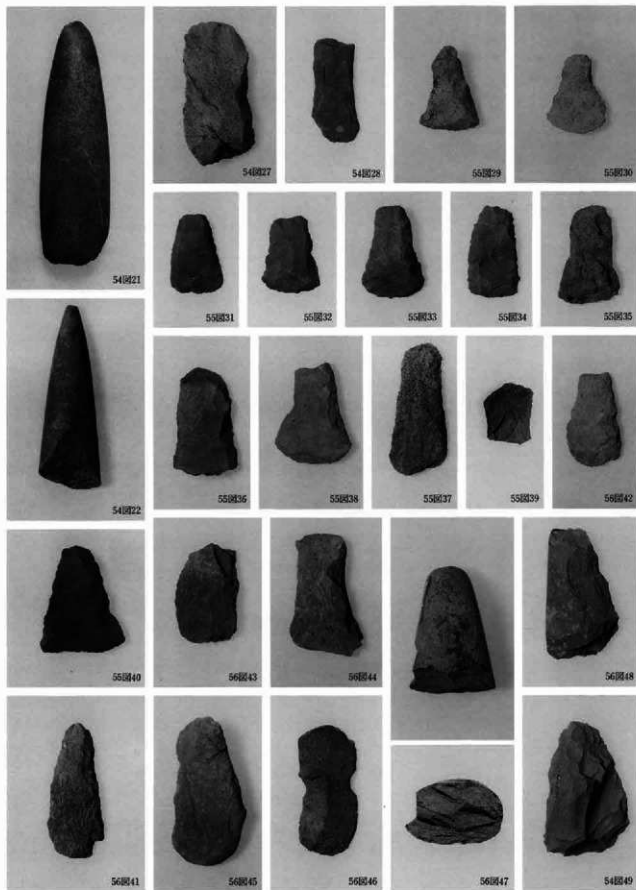
出土石器



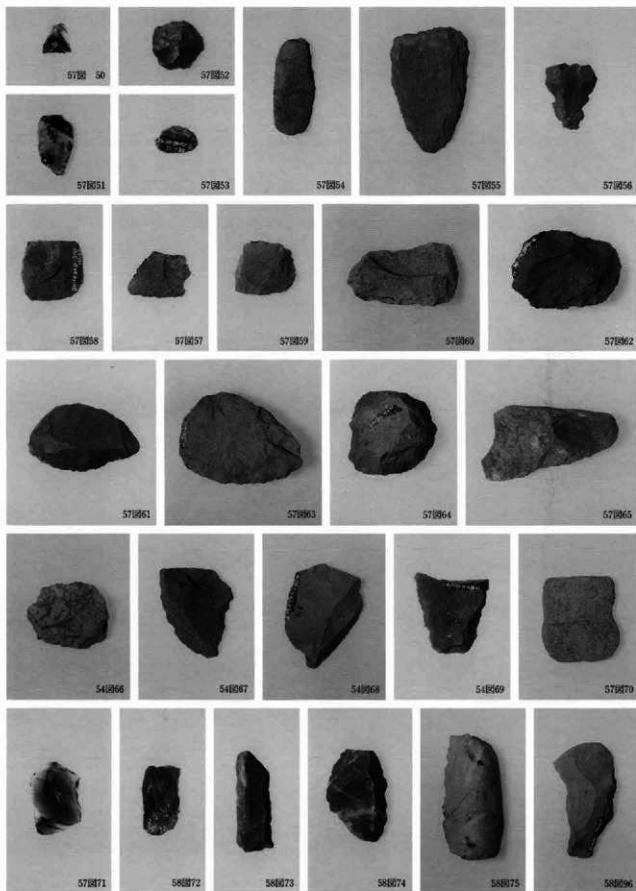
出土石器



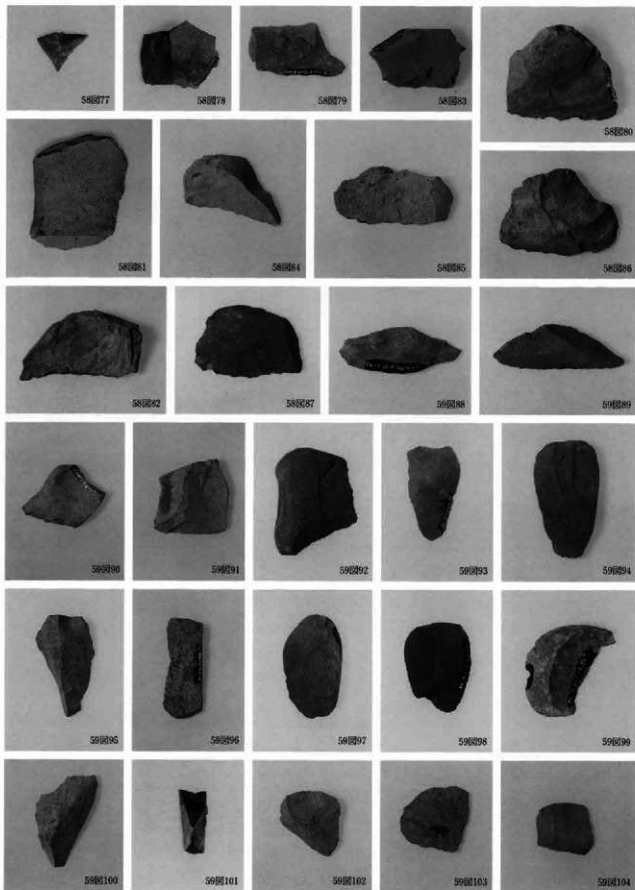
グリッド出土石器



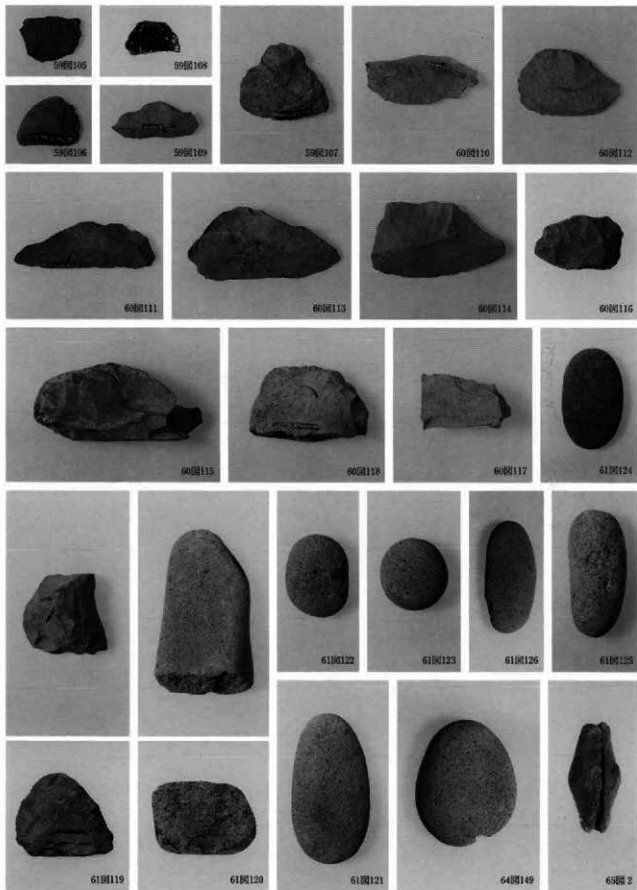
グリッド出土石器



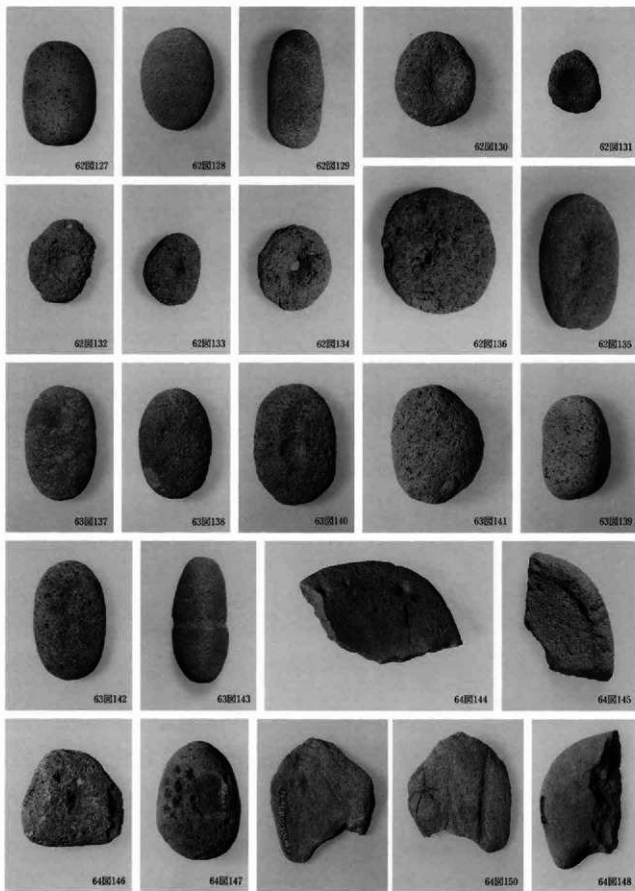
グリッド出土石器



グリッド出土石器



グリッド出土石器



グリッド出土石器

群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告第109集

五目牛南組遺跡

(縄文時代編)

一般国道17号(上武道路)改築工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成4年11月20日 印刷

平成4年11月30日 発行

編集・発行／(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社